

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
論理学	1年 前期	1	15	水田 信(大学講師として36年)
科目のねらい 文章の読み書きを通して、論理的なものの見方、考え方、表現する力を養う。				
到達目標 論理的思考に必要な基礎知識を学び、看護に必要な論理的思考力と伝達力(文章力)を身につける。				
DPとの関連 ◎1.多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者としてとらえることができる。 ◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	1. 人間の言葉としての言語の特徴を説明できる 2. 日本語の特徴について説明できる	1. 言語の働き:思考と伝達 2. 言語と文字、言語と文化の関連 3. 文法、論理、修辞法 4. 知性の世界と感性の世界 1. 日本語の性質と文法 2. 日本語の表現における留意点	講義	水田
3 4 5 6	3. 論理学の基礎について説明できる	1. 哲学体系の中の論理学 2. 論理的な考え方の基礎 1) 演繹法と帰納法 2) 三段論法 3) 間違った論理の展開(誤謬) 3. 科学的方法論 4. 弁証法	講義	水田
7 8	4. 論理的な文章の書き方・口述の仕方が説明できる	1. 実用文(情報伝達型)と芸術文(自己表現型) 1) 論理的文章とは情報伝達文章のことである 2) 読み手が誰なのかを考える 3) レポート・論文の書き方 4) プレゼンテーションでの論理の活用 2. 論理的なコミュニケーションの習得 1) 主観と客観 2) 複数の立場に身を置き、他者の視点から考えてみる	講義 ・ 演習	水田
受講上の注意 自分の普段の言葉遣いと比較しながら、考えてみる			関連科目 倫理学 基礎看護技術Ⅱ(ヘルスアセスメント・VS・記録・報告)	
事前および事後学習 ・事前学習:講義該当部分の講義資料、教材を事前に読んで授業に臨む。 ・事後学習:授業終了後は、講義資料、教材を復習する。				

成績評価の方法

作文80% 授業参加度20%

教科書・参考書・その他の教材

テキストに代わる講義資料は、適宜配布

参考書:『日本語作文術』 野内良三 著(中公新書)、『「論理思考」の本』 後 正武 著(PHP研究所)

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
情報科学 I	1年前期	1	15	富永 裕樹(実務経験として9年)
科目のねらい				
情報化社会において学習活動を行うための最低限度の基礎知識技能を身につけ、個人情報の意味や課題などを学び情報を扱う際の情報倫理について習得する				
到達目標				
1. 情報科学における基礎的知識をもとに、コンピュータとセキュリティについて理解できる 2. インターネットを用いた情報収集の仕方が理解できる 3. 情報倫理の意味と情報を扱う上での情報セキュリティの方法が理解できる				
DPとの関連				
◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎5.身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 ・ 2	1. 情報科学の基本的知識を理解する	1. 情報の定義と特徴 1) 情報とは 2) 情報の特性 3) 情報の認知と意思決定 4) 情報の伝達と意思決定	講義	富永
		2. 社会と情報 1) インターネットのしくみとネットワーク 2) 情報通信技術(ICT)とその活用 3) 進みつつある社会の変化 Society5 lot	講義	富永
3 ・ 4	2. コンピューターとセキュリティについて説明できる	1. コンピュータに関する基礎知識 1) コンピュータの種類 2) コンピュータの構成要素 3) ファイルシステム 2. インターネットに関する基礎知識と注意点 1) インターネットのしくみ 2) 電子メールのしくみと機能 3) ソーシャルメディア 4) コンピューターリスクにおけるリスクと自衛	講義・演習	富永
5 ・ 6	3. 既存の情報の収集方法が説明できる	1. 文献検索 1) 文献とは 2) 文献を探す方法と管理する方法 2. インターネット上で役立つ情報へのアクセス 1) ウェブサイトの閲覧方法 2) 検索エンジン・データベースの使い方 3) インターネット上の保健医療情報の見方 3. データ検索と利用	講義・演習	富永
7 ・ 8	4. 情報倫理の意味と医療の関係が説明できる	1. 情報倫理とは 2. 知的財産権の尊重 3. プライバシーの尊重 4. 情報の公正な提示 5. 危害を与えないこと	講義	富永
受講上の注意			関連科目	
情報の持つ意義について理解し、情報化社会で活動できるための知識、技能を習得しましょう			看護研究 臨地実習	

事前および事後学習

- ・事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。
- ・事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

中山和弘 系統看護学講座 別巻 看護情報学

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
情報科学Ⅱ	1年後期	2	45	井上勇介(大学講師として21年) 藤満 幸子(認定看護管理者として 年)

科目のねらい

看護専門職として基本的な情報リテラシー(情報活用能力)を習得する

到達目標

1. 情報システムが、看護用語と看護の質指標、電子カルテなど医療の現場においてどのように活かされているか理解する。
2. 新しい情報を作成し、広める方法として、看護研究に必要な基礎的統計処理や発表の方法を理解する。

DPとの関連

- ◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎5.身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 看護と情報の関係について説明できる	1. 看護用語における情報 1) 看護におけるデータ・情報・知識 2) 看護の標準化 3) 看護の標準化と看護 4) 看護の質指標	講義	藤満
2 ・ 3	2. 医療における情報システムについて説明できる	1. 医療における情報の記録 1) 医療記録における法令上の記載 2) 医療記録・情報を共有するための方法 3) 看護記録の開示とガイドライン 2. 病院情報システムと記録の仕方 1) 病院情報システム 2) レセプト 3) オーダリングシステム 4) クリニカルパス 5) 診断群分類(DPC) 6) 医療用画像管理システム(PACS) 7) 医療過誤防止システム 8) 入院患者ケアシステム 9) 看護管理・業務支援システム 10) 病棟管理支援システム	講義	藤満
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	3. エクセルによる統計解析が一部実施できる	1. エクセルの基本操作 2. データの種類と単純集計 3. 正規分布の特徴 4. 統計的推計と95%信頼区間 5. 検定と分析 6. 一般的な検定の流れと2種類の過誤 7. 標本のデータ間の各種検定 8. エクセルによる各種平均の検定 9. 量的データと量的データの関係を調べる 10. 散布図と回帰分析	講義	井上

14・ 15・ 16・ 17・ 18・	4. ワードを用いて文字情報の整理ができる	1. ワープロソフトの使い方 1) ページ設定 2) 文章の入力 3) 挿入 4) 参考資料 5) 校閲	講義 演習	井上
19・ 20・ 21・ 22・ 23・	5. データをレポートとしてまとめたものを口頭やポスターで発表することができる	1. 口頭発表とポスター発表 1) プレゼンテーションとは 2) 口頭発表とポスター発表の違い 3) プレゼンテーションの構成 4) 資料の作成と事前準備 2. インターネットにおける発表とコミュニケーション 1) ウェブサイトでの発表 2) ソーシャルメディアの利用	講義 演習	井上
受講上の注意 パソコンを使用し、予習・復習を行う		関連科目 情報科学 I 看護研究 看護管理		
事前および事後学習 ・事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。 ・事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。				
成績評価の方法 課題 100%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護情報学 第3版 2021年				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
教育学	1年前期	1	30	白石 義郎(大学教授としてとして10年)

科目のねらい

看護職として対象者や家族の健康維持・増進に関する知識や方法を助言していく、そのために必要な知識・技術を学ぶ。

到達目標

1. 教育の基本的概念について理解する
2. 実際の学校教育の現状やその内容を理解する
3. 看護職に必要な教育の考え方や教育方法・教育評価について理解する

DPとの関連

- ◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。
5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 教育の概念を通して、教育とは何かを説明できる	1) 形成と教化 2) 学ぶー教えるということ 3) コミュニケーションとして教えること: 看護ケアとの関連	講義	白石
2	ライフステージごとの発達と教育段階を説明できる	1) 幼児期の「基本的信頼」:ピアジェ 2) 成人期の「自己実現」:マズロー 3) 青年期アイデンティティの確立:エリクソン	講義	白石
3	日本における初等学校の現状と課題について説明できる	1 学級担任制における教育指導 2. 学級集団の教育作用 3. 家庭と学校	講義	白石
4	日本における中等学校の現状と課題について説明できる	1 教科担任制における教育指導 2 生徒指導における規範の学習 3 中一クライシス	講義	白石
5	障害児教育について説明できる	1. 障害・教育・看護 2. 特別ニーズ教育 3. 障害にどう向き合うか	講義	白石
6	養護について説明できる	1. 養護とは 2. 学校における養護の過程 3. 学校における保健室の存在と役割	講義	白石
7	教育方法としての「授業」の構成と教育効果を説明できる	1 コミュニケーションとしての授業: 対話的・深い学び 2 教えるー学ぶ関係で起こること 3 学力の定着と洞察	講義 演習	白石
8	アクティブラーニングの教育方法と教育効果を説明できる	1 「真正な」経験学習としてのアクティブ・ラーニング 2 プロジェクト・メソッド 3 達成評価	講義 演習	白石
9	協同学習の教育方法と教育効果を説明できる	1 課題解決のための協同学習 2 カンファレンス 3 ジクソー法	講義 演習	白石
10	教育メディアによる教育方法と教育評価を説明できる	1. 直感教育とメディア・リテラシー 2. 非言語的メッセージとメディアリテラシー 3. 看護とメディア	講義 演習	白石

11	シミュレーションの教育方法と教育効果を説明できる。	1 教育メディアとしてのシミュレーション 2 教材としてのインシデント・プロセス 3 ルーブリック:OSCE-R法	講義 演習	白石
12	教育の目標と評価について説明できる	1. PDCの改善サイクル 2. パフォーマンス評価 3. 評価の開発と実践	講義	白石
13	キャリア教育について説明できる	1. キャリア教育とは 2. 看護専門職のキャリア教育 3. これからのキャリア教育	講義	白石
14	生涯教育について説明できる	1. 生涯学習の必要性 2. 成人はどこで学ぶか 3. 成人はどのように学ぶか アンドラゴジー	講義	白石
15	振り返りにより確かな学力を習得できる	1. 振り返りポートフォリオ 2. 探求課題の発見	講義	白石

受講上の注意 看護学との関連性を考えながら、講義に臨む	関連科目 基礎看護学 成人看護学 老年看護学 地域・在宅看護論 小児看護学 母性看護学
---	--

事前および事後学習 1. 必要な時間:15時間 2. 事前学習:テキスト講義該当部分を事前に読んで、授業に臨むこと 3. 事後学習:看護学を学ぶ上で基盤となる学問である。授業終了後は整理を行いテキスト・参考書を振り返る

成績評価の方法 筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材 教科書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 教育学 第8版 2021年

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
心理学	1年前期	2	30	多田泰裕(臨床心理士として14年)

科目のねらい

心理学の基本的な概念について学び、日常生活における思考や感情、行動について心理学的な側面から考え、理解する

到達目標

1. 心理学の基本的概念について理解する
2. 人間の思考・感情・行動について心理学的な視点から理解できる

DPとの関連

- ◎1.多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3 4 5 6 7 8	1. 心理学の基本的概念について述べる事ができる	1. 心理学とは 2. 感覚と知覚 3. 記憶 4. 思考・言語・知能 5. 学習 6. 感情と動機づけ 自己効力感 学習性無力感 マズローの欲求段階説 7. 性格とパーソナリティ レヴィンの構造論 フロイトの構造論 防衛機制 8. 社会と集団	講義	多田
9 10	2. 人間の発達について説明できる	9. 発達の定義 ・発達の段階と課題 エリクソン、ハヴィーガースト ・発達の要因 ・乳幼児の発達 ピアジェ 愛着の形成 第一反抗期 ・児童・青年の発達 ギャングエイジ 第二反抗期 自己概念とアイデンティティ モラトリアム ・成人・高齢者の発達 職業的キャリアの発達 レビンソン	講義	多田
11 12 13 14 15	3. 心の適応と不適応、心理療法について説明できる	10.心理臨床 心の適応と不適応 ・ストレスと汎適応症候群 セリエ ・ストレス理論 問題焦点型情動焦点型 ACタイプ ・心身症と適応障害 ・パーソナリティ障害 心理療法 ・心理療法とカウンセリング ・精神分析療法 ・行動療法 ・来談者中心療法 ・認知行動療法	講義	多田

<p>受講上の注意</p> <p>講義に出てくる内容を自分の事として捉え、考えること</p>	<p>関連科目</p> <p>看護者のための心理学 看護基本技術Ⅰ 精神看護学概論</p> <p>基礎看護学概論 看護基本技術Ⅲ</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>1. 必要な時間:15時間</p> <p>2. 事前学習:テキスト講義該当部分を事前に読んで、授業に臨むこと</p> <p>3. 事後学習:看護学を学ぶ上で基盤となる学問である。授業終了後は整理を行いテキスト・参考書を振り返る</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験 100%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版 2021年</p> <p>参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版 2021年 檜村通子 心を大切にする看護 日本評論社 第1版 2015年</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護者のための心理学	1年後期	1	30	新牧恭太(非常勤講師として8年)

科目のねらい

人間関係を築くためには、対象としての人間を理解するとともに自己理解が大変重要である。自己理解することからストレス社会に対応していけるよう自己を大切にすることを学ぶ

到達目標

心理学視点から、他者が抱えている悩みへの共感や、感情的認知的理解、人間関係の基礎的知識を理解する。また、看護者自身が自分の存在や感情を大切にできるように、自分を表現し、自分を理解し、自分を大切にする方法がわかる

DPとの関連

◎5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 人間関係とは何かについて説明ができる	人間関係論とは	講義	盛崎
2	2. 自己認知について説明ができる	自己概念、自己評価、関係的自己、自己呈示	講義	盛崎
3	3. 性格認知、向性検査について説明ができる	性格認知、向性検査7	講義	盛崎
4	4. 対人認知について説明できる	対人認知、印象形成、バイアス	講義	盛崎
5	5. 防衛機制の投影について説明できる	抑圧と投影、ユングの無意識、影、コンプレックス7	講義	盛崎
6	6. 受容と共感について説明できる	受容、共感	講義	新牧
7	7. 感情、行動、症状の意味を考えることができる	感情・行動・症状のつながり、感情の意味、症状の意味、行動の意味	講義	新牧
8	8. 防衛機制の転移と逆転移について説明できる	転移、逆転移	講義	新牧
9	9. 看護職とバーンアウトについて説明できる	看護師のストレスと患者のストレス、対人援助職のストレス	講義	新牧
10	10. 自分を大切にする意味が理解できる	自分を理解し受け入れる、自分を守る、自分を語る、過去を大切に	講義	新牧
11	11. ストレスマネジメントの方法が説明できる	マインドフルネス、セルフコンパッション、レジリエンス、ストレングス、	講義	新牧
12～15	ストレスマネジメントの実践できる	マインドフルネスの実際	講義 演習	新牧

受講上の注意 目的を意識をもって、この講義に臨む	関連科目 心理学 基礎看護学概論 精神看護学
事前および事後学習 1. 必要な時間:15時間 2. 事前学習:テキスト講義該当部分を事前に読んで、授業に臨むこと 3. 事後学習:看護学を学ぶ上で基盤となる学問である。授業終了後は整理を行いテキスト・参考書を振り返る	
筆記試験 50% 課題レポート 50%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版 2021年 参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版 2021年 樫村通子 心を大切にする看護 日本評論社 第1版 2015年	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
スポーツと科学	2年 後期	1	30	中野 武彦(大学講師として28年)
科目のねらい				
生涯スポーツの意義を理解し、健康的な生活をするための基礎を構築する				
到達目標				
1. スポーツ本来の楽しさや意義を理解し、生涯にわたって運動に親しむ意識を養うことができる 2. 疾病予防・健康の保持増進に必要な身体活動・運動の方法論や技術を習得し、日常生活の中に取り入れ、健康づくりに生かすことができる				
DPとの関連				
◎5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	1. 健康と運動の必要性について述べることができる	1. 健康とは、運動の必要性 2. 健康の保持増進に必要な身体活動量について 3. 脂肪蓄積のメカニズムとその影響 4. 肥満の種類とその判定方法 5. 筋生理とロコモシンドローム 6. 筋トレのメカニズム	講義	中野
3 4	2. 生活習慣病の予防と運動の関連を知り、実践する	1. ウォーキング 速度と心拍数 歩数測定	実技	中野
5	3. 健康づくりのための身体活動を実践する	1. 体力テスト 体脂肪率 腹囲測定 柔軟性	実技	中野
6 7 8 9 10 11 12 13	4. レクリエーションスポーツを通して仲間とのコミュニケーション能力を高めることができる 5. レクリエーションスポーツの基礎技術を習得できる 6. チームの戦略を考察し、実践できる 7. ゲームを楽しむことができる	1. レクリエーションスポーツ バレーボールチーム編成 チームリーダー役割 リーダーシップ 2. 基礎練習 ゲーム 3. レクリエーションバレーの実践 状況に応じたチーム編成 支柱、ボールタッチ、守備、攻撃など	実技	中野
14 15	8. 運動と代謝の関係について説明できる	1. 感情の発散と抑圧の違い 2. 毎分心拍数の測定の意義	講義	中野

受講上の注意 レクリエーションスポーツに参加する場合は、体調を整えておく	関連科目 看護基本技術 I
事前および事後学習 1. 必要な時間：15時間 2. 事前学習：日常的に運動をしておく	
成績評価の方法 課題レポート40% 授業への参加及び学習状況60%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 資料配布	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
倫理学	1年 前期	1	30	水田 信(大学講師として36年)
科目のねらい 専門職業人としての倫理を学ぶ土台として、社会人としての倫理観を育成する。				
到達目標 1. 倫理学の根本問題を把握し、生きる意味を考える。 2. 人間関係を成立させる行動規範を人格・人権・人命を尊重することから理解する。				
DPとの関連 ◎1.多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。 5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	1.倫理学とは何かを知ることができる。	倫理学の基礎知識 1) 倫理学とは何か 2) なぜ倫理学を学ぶのか 3) 倫理と宗教 4) 倫理と道徳 5) 倫理と法	講義	水田
3 4	2. 人生哲学としての倫理学を理解する	哲学とは何か: 世界観・人生観の学 哲学体系の中の倫理学: 人間観・人生観の学	講義	水田
5 6	3. 倫理学・倫理思想の歴史を概観できる	1) 古代ギリシャの倫理思想(プラトン、アリストテレス) 2) 中世キリスト教の倫理思想(信と知) 3) 近代以降の倫理思想(デカルト、カント、ヘーゲル)	講義	水田
7 8	4. 人生上の究極的課題「生と死」・「連帯と孤独」を究明する	1) フランクルの「人生の意味」 2) フロムの「人間性の倫理」	講義	水田
9 10 11 12 13 14 15	5. 宮澤賢治の作品を通して「生きる意味」や「人格的成長」について考え、表現できる	1) 神話的思考と論理的思考 2) 東洋の倫理思想 3) 宮澤賢治の生涯と世界観・人生観 4) 人間性への志向 5) 社会の構造と個人の責任 6) 人間教育のあり方 7) 科学技術の役割と科学技術者の使命 8) 「献身」の意味	講義	水田

受講上の注意 自分のノートを作ること。	関連科目 論理学、医療と倫理、精神看護学概論
事前および事後学習 事前にテキストを読んでおくこと。	
成績評価の方法 作文80%、授業参加度20%	
教科書・参考書・その他の教材 『新編・風の又三郎』 宮沢賢治著(新潮文庫)	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
英 語	2年前期	1	30	古賀 邦子(大学講師として36年)
科目のねらい				
医療・看護の現場では、外国人とのコミュニケーションの場面、カルテや文献中の英語を使う機会が増えているため、読む・書く・話すという英語の基本的能力を養うことができる。				
到達目標				
1. 日常生活や看護の場面における簡単な英会話の能力を身につける。 2. 医療・看護に関する外国文献・資料を読んで理解できる英語力を身につける。				
DPとの関連				
◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者としてとらえることができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	・「文法」「読む」「書く」「話す」ための基礎力を身につける。	Dictationを通じて理解力を深める。 ・身体に関する文章を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。	講義 GW	古賀
3 4	・英文読解・英文音読・文法・会話を習得する。	Dictationを通じて理解力を深める。 ・身体症状に関する文章を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。	講義 GW	古賀
5	・医療・看護の現場における英会話を身につける。 ・医療・看護の現場に必要な英単語を習得する。	Dictationを通じて理解力を深める。 ・診療科名専門医を英語で理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。	講義 GW	古賀
6		Dictationを通じて理解力を深める。 ・英字新聞を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。	講義 GW	古賀
7		Dictationを通じて理解力を深める。 ・応急手当、救急、病気に関する文章を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。 病院外来での対応 1) 症状の尋ね方、症状の表現	講義 GW	古賀
8		Dictationを通じて理解力を深める。 ・診療、医療処置に関する文章を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。 病院外来での対応 2) 日時の表現方法、病歴の尋ね方	講義 GW	古賀
9		Dictationを通じて理解力を深める。 ・医療アドバイス、薬に関する文章を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。 病院外来での対応 3) 薬の飲み方、頻度の表現方法	講義 GW	古賀
10		Dictationを通じて理解力を深める。 ・医療アドバイス、薬に関する文章を読み理解する。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。 病院外来での対応 4) 検査の説明の仕方	講義	古賀
11		Dictationを通じて理解力を深める。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。 入院中の患者との対応	講義	古賀
12		Dictationを通じて理解力を深める。 ・DictationCheckにより個人の理解力を確認。 グループワーク	講義	古賀

13		Dictationを通じて理解力を深める。 ・ DictationCheckにより個人の理解力を確認。	講義	古賀
14 15		Dictationを通じて理解力を深める。 ・ 各個人の英語の理解力テスト、筆記テスト。 重要表現テスト	講義	古賀
受講上の注意		関連科目		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講範囲のテキストを事前に音読しておく。 ・ 医療・看護に関する外国文献・資料を読んで理解できる英語力を身につける。 		薬理学 治療論 診療補助技術Ⅱ		
事前および事後学習				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。 ・ 事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。 				
成績評価の方法				
Dictation20% 個人英語確認・会話テスト10% 筆記試験70%				
教科書・参考書・その他の教材				
クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院） その都度資料提示する。				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
社会学（家族関係論）	1年後期	2	30	園田浩之(大学講師として20年)

科目のねらい

「社会の中の人間」を多面的に理解することは、看護や医療においても重要な意味をもつ。この科目では、社会学の視点をつうじて、そのために必要なものの見方・考え方を学ぶ。

1. 社会学の基礎概念を理解する。
2. 健康・病気と社会がどのようにかかわっているかを理解する。
3. 社会の中の家族についてその機能や課題を理解する。

DPとの関連

◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3	1. 社会学の基礎概念を説明できる	1. 社会的なもの見方へ：社会学的理想力と看護 2. 社会的存在としての人間：「社会の中の人間」を理解する 3. 個から関係へ：相互依存の網の目 4. 日常生活の構造 5. 現実の多面性：「他者理解」のための社会学	講義	園田
4 5 6	2. 健康・病気と社会がどのようにかかわっているかを説明できる	1. 健康・病気についての社会的な見方 2. 生物医学モデルと生物心理社会モデル 3. 日常の医療化とその問題点 4. 三つの病：疾病・病い・病気 5. 病と健康の社会学①：意味づけのとしての病 6. 病と健康の社会学②：疾病構造の変化と健康観の変容 7. 健康不安と現代社会	講義	園田
7 8	3. 健康・病気の社会性について説明できる	1. 何が健康を決めるのか？：健康の社会性・多次元性 2. 健康・病気と社会格差：社会学的理想力と社会疫学	講義	園田
9 10 11	4. 患者-医療者関係とコミュニケーション・意思決定モデルについて説明できる	1. 患者-医療者関係を理解するためのいくつかの視点 2. 患者-医療者関係の変化と意思決定のモデル 3. ヘルスリテラシーのための社会学と批判的思考	講義	園田
12	5. ジェンダーとケアの社会学	1. ジェンダーとは何か：男である/女であることの多次元性 2. ジェンダーとケア 3. ジェンダーと感情労働・看護	講義	園田
13 14 15	6. 家族の現在と医療・ケアの関係を説明できる	1. 「家族」を考えることの重要さと困難さ 2. 家族を理解するための視点①：関係・構造 3. 家族を理解するための視点②：機能・意味 4. 「社会の中の家族」とその変容 5. 家族の変容とケアのありか：医療とその他	講義	園田

受講上の注意 資料を配布して授業を行う。重要な点についてはノートを取り、資料とあわせて各自で整理しておくこと。	関連科目 保健医療論 社会福祉・社会保障論 看護学概論 在宅看護論
事前および事後学習 1. 必要な時間：15時間 2. 事前学習： 3. 事後学習：授業の後に復習を行う（授業ごとのふりかえりが、次の内容の事前学習にもなる）	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 資料配布	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
ボランティア論	1年前期	1	15	滝口 真(大学講師として31年)

科目のねらい

地域や社会に対するボランティアについての理解を深め、ボランティア活動の楽しさや、喜び、活動の多様性を感じ、社会とのつながりについて考えることができる。

到達目標

1. ボランティアの概念、活動の原則について理解する。
2. 世界と日本のボランティアの背景、現状、課題について学ぶ。
3. 日本におけるボランティア活動の諸相、活動の実態、意義、課題について知り、ボランティアを理解する。

DPとの関連

◎4.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. ボランティアの性格・目的、関連する思想について説明できる	1. ボランティアとは何か 1) ボランティアの歴史 2) ボランティアの概念 3) ボランティアの特徴 4) ボランティアの原則	講義	溝口
2	2. ボランティア活動の現状と課題と動向を説明できる	1. ボランティアの現状と広がり 2. ボランティア活動の課題と動向 NPO法(特定非営利活動促進法)、地縁型組織 テーマ型組織、CRS(企業の社会的責任)	講義	溝口
3	3. ボランティアと現在社会の関係について述べる	1. ボランティアと現在社会 2. ボランティア活動と社会福祉協議会 インフォーマルサービス 福祉コミュニティ QOL 社会福祉協議会、ボランタリーセクター	講義	溝口
4	4. 日本におけるボランティアの普及・推進の歩みについて述べる	1. 民間ボランティア活動推進機関の始動 2. 新しい市民社会創出に向けて 阪神淡路大震災 ボランティアコーディネーター	講義	溝口
5	5. ボランティア活動に期待される社会的役割を感じる	1. ボランティアという学び 2. ボランティアという自己実現 3. ボランティア活動の社会的役割	講義	溝口
6	6. 社会に必要とされるボランティアについて説明できる	1. 地域ボランティア活動事例	講義	溝口
7	7. 環境とボランティアについて説明できる	2. 環境ボランティアの具体的活動事例	講義	溝口
8	8. 災害ボランティアについて説明できる	3. 災害ボランティアの具体的活動事例	講義	溝口

受講上の注意 教科書を事前に読んでおくこと	関連科目 社会福祉・社会保障論 在宅看護論
事前および事後学習 1. 必要な時間: 30時間 2. 事前学習 : 該当箇所は事前に読んで講義に参加する 3. 事後学習 : 学んだことをもとにできることを考える	
成績評価の方法 授業への意欲・授業参加状況 30% 筆記試験70%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 柴田謙治・原田正樹・名賀亨著 ボランティア論 広がりから深まりへ みらい 参考書 岡本栄一他 ボランティアのすすめ 基礎から実践まで ミネルヴァ書房 内海成治 中村安秀 新ボランティア学のすすめ 昭和堂	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
解剖生理学 I	1 年前期	2	60	田平 陽子 (理学療法士として3年)
科目のねらい 人体がどのような構造をもち、機能しているかを学び、健康時の状態及び健康障害によって受ける変化の理解につなげる。				
到達目標 1. 人体の構造と機能について理解する。				
DPとの関連 ◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	人体を構成する細胞の構造、それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造を説明できる	人体【体表から触知する人体の構造、構造と区分、部位と器官、方向と位置を示す用語】について	講義	田平
2		細胞の構造、機能、組織の種類、特徴	講義	田平
3		人体の恒常性と人体の器官系の機能	講義	田平
4	運動における神経系と筋肉系、筋の役割・収縮機構について説明できる	運動器の構造【骨格・骨の連結】	講義	田平
5		運動器の構造【骨格筋】	講義	田平
6		運動器の構造【体幹骨格と筋】	講義	田平
7		運動器の構造【上肢の骨格と筋】	講義	田平
8		運動器の構造【下肢の骨格と筋】	講義	田平
9		運動器の構造【頭部の骨格と筋】	講義	田平
10	神経系の構造と機能について説明できる	神経を形作る細胞と機能	講義	田平
11		中枢神経の構造と機能	講義	田平
12		脊髄神経と脳神経	講義	田平
13		脳の高次脳機能について	講義	田平
14		運動機能と下行伝導路について	講義	田平
15		感覚機能と上行伝導路について	講義	田平

16	神経系の構造と機能について説明できる	末梢神経系【自律神経系・体性神経系】	講義	田平
17		視覚伝導路、聴覚伝導路、味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、疼痛のメカニズムについて	講義	田平
18	呼吸器系の構造と機能が説明できる	呼吸器系【上気道、下気道と肺、胸膜、縦隔】	講義	田平
19		呼吸【内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸気量、肺気量分画、努力呼気曲線、呼吸気ガス組成】	講義	田平
20		呼吸【肺におけるガス交換、酸素の取り込み、血液中のガス組成】	講義	田平
21		呼吸【生体の酸塩基平衡、呼吸中枢、呼吸反射、末梢生化学受容体】	講義	田平
22	心臓の構造と機能、血液循環の説明ができる	心臓血管系の基礎、心臓の構造について	講義	田平
23		心臓の内腔と血液の流れ、弁、心臓の栄養血管、心臓の刺激伝導系について	講義	田平
24		動脈系について	講義	田平
25		静脈系について	講義	田平
26		胎児の血液循環（胎児循環）、リンパ系、脾臓、胸腺について	講義	田平
27	心臓と血管の生理について	講義	田平	
28	血液、組織液などの機能を説明できる	血液の機能【血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板】	講義	田平
29		血液の機能【血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液の凝固と繊維素溶解、血液凝固、出血時間・凝固時間、血液型】	講義	田平
30	まとめ	まとめ	講義	田平
受講上の注意			関連科目	
授業は能動的に学ぶこと			病態論Ⅰ・Ⅱ	
事前および事後学習				
1. 本時で学習する内容については事前にテキストを確認しておく。				
成績評価の方法				
筆記試験 100%				
教科書・参考書・その他の教材				
解剖生理学 人体の構造と機能 [1] (医学書院)				
病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] (医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
解剖生理学Ⅱ (人体解剖見学を含む)	1年後期	2	60	田平 陽子 (理学療法士として3年)

科目のねらい

人体がどのような構造をもち、機能しているかを学び、健康時の状態及び健康障害によって受ける変化の理解につなげる。

到達目標

1. 人体の構造と機能について理解する。

DPとの関連

◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	消化器の構造と機能を説明できる	消化器系の全景、口の構造と機能	講義	田平
2		咽頭と食道の構造と機能	講義	田平
3		胃の構造と機能	講義	田平
4		小腸の構造と機能	講義	田平
5		栄養素の消化と吸収	講義	田平
6		大腸構造と機能	講義	田平
7		肝臓、胆嚢の構造と機能	講義	田平
8		腹膜【腹膜と腸間膜、腹膜と内臓の位置関係、胃の周辺の間膜】	講義	田平
9	内分泌系の機能を説明できる	ホルモンの化学的性質と作用機序	講義	田平
10		ホルモンの化学的性質と作用機序	講義	田平
11		下垂体ホルモン、パソプレッシン、オキシトシン、成長ホルモン、甲状腺ホルモン、サイロキシン、トリヨードサイロニン、ヨード、カルシトニン	講義	田平
12		副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、ステロイドホルモン、アドレナリン、ノルアドレナリン、アンギオテンシン	講義	田平
13		膵島ホルモン、インスリン	講義	田平

14	腎臓、泌尿器の構造と機能について説明できる	腎臓の機能と構造、糸球体、尿細管の構造と機能	講義	田平
15		傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量、生理活性物質	講義	田平
16	腎臓、泌尿器の構造と機能について説明できる	排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿	講義	田平
17		腎臓の機能【体液の調節と尿の生成】について	講義	田平
18	性機能、性周期について説明できる	生殖・発生と老化の仕組み	講義	田平
19		生殖器系の構造【男性生殖器（精巣、精巣上体、精管、前立腺、陰茎）】について	講義	田平
20	感覚器系の機能について説明できる	感覚【皮膚感覚、皮膚節、痛覚】について	講義	田平
21		生体防御機能について	講義	田平
22		生体防御機能について	講義	田平
23		感覚器の構造【視覚器：眼球、眼球付属器、網膜】	講義	田平
24		感覚器の構造【聴覚器：聴覚、前庭感覚と平衡】	講義	田平
25	身体機能の加齢変化について説明できる	成長と老化について	講義	田平
26	筋収縮による身体変化について説明できる	筋収縮による身体的変化	講義	田平
27	運動時の循環と代謝について説明できる	運動時の循環と代謝	講義	田平
28	まとめ	まとめ	講義	田平
29	解剖見学の目的・心構・態度・ポイントを説明できる	解剖見学事前学習 目的・心構え・態度・解剖見学のポイント	個人学習	
30			個人学習	
受講上の注意 授業は能動的に学ぶこと			関連科目 病態論Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	
事前および事後学習 1. 本時で学習する内容については事前にテキストを確認しておく。				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] (医学書院) 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] (医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
栄養学	1年前期	1	30	山崎 京子 (大学、専門学校非常勤講師として44年)

科目のねらい

生体が発育・成長して生命を維持し健全な生命活動を営むために必要なエネルギーと栄養素の働きを理解できる。

到達目標

1. 人間栄養学と看護の関係について理解できる。
2. 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について理解できる。
3. 栄養状態の評価判定について理解できる。
4. ラーフステージお栄養について理解できる。
5. 健康障害に対する食事療法について理解できる。

DPとの関連

◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	栄養素と人間の栄養状態について説明することができる。	人間栄養学と看護	講義	山崎
2	食事における看護師の役割が説明することができる。	看護と栄養学	講義	山崎
3	栄養素の種類と働きについて説明できる。	栄養素の種類と働き (炭水化物・脂質・タンパク質)	講義	山崎
4		栄養素の種類と働き (ビタミン・ミネラル・食物繊維・水)	講義	山崎
5	エネルギー代謝について説明できる。	食品のエネルギー 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定方法	講義 演習	山崎
6	食品成分と食事摂取基準について説明できる。	食品成分と食事摂取基準	講義	山崎
7	栄養ケア・マネジメントについて説明できる。	チームアプローチと栄養ケア・マネジメント (スクリーニング・アセスメント・計画・実施・モニタリング・評価)	講義	山崎
8	栄養状態の評価・判定について説明できる。	栄養状態の評価・判定	講義	山崎
9	ライフステージと栄養について説明できる。	ライフステージと栄養 (乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人各期)	講義 演習	山崎
10		ライフステージと栄養 (妊娠期・授乳期・更年期・高齢期)	講義 演習	山崎
11	病院における栄養管理と栄養補給法について説明できる。	病院における栄養管理 栄養補給法	講義 演習	山崎
12	主な疾患・症状患者の食事療法について説明できる。	疾患・症状別食事療法 (痩せ・低栄養患者・肥満・メタボリックシンドローム患者) 循環器疾患(高血圧症・動脈硬化心不全)	講義 演習	山崎
13		疾患・症状別食事療法 ・栄養・代謝疾患・腎臓疾患 ・血液疾患患者・摂食・嚥下障害患者	講義 演習	山崎
14	場面別の栄養管理について説明できる。	場面別の栄養管理 ・術前術後における栄養管理 ・病中の食事療法	講義 演習	山崎
15	健康づくりと食生活について説明できる。	食生活の変遷と栄養の問題点 食生活の改善への施策 食の安全性と表示	講義 演習	山崎

<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖生理学、生化学、病態生理、治療、看護を関連付けて学習する。 	<p>関連科目</p> <p>生化学 解剖生理学 治療論 病理学</p>
<p>事前および事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。 ・事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。 	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験100%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学（医学書院） 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法（医学書院） 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会・文光堂</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生化学	1年後期	1	30	石橋 一成 (歯科大学准教授として7年)

科目のねらい

生体の物質代謝やエネルギー代謝を各臓器、組織間の相互作用を踏まえたうえで理解する。

到達目標

1. 人体組織における生化学の意味について説明できる。
2. 生体における物質代謝・異物代謝について説明できる。
3. 遺伝学、分子生物学について説明できる。
4. 細胞のシグナル伝達とがんについて説明できる。
5. さまざまな生体機能の中で、正常を維持するためためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常へと変化する際にどのような経路が関連するのか説明できる。

DPとの関連

◎1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	人体組織における生化学の意味について説明できる。	人体と生化学 人体を構成する成分	講義	石橋
2	酵素と補酵素について説明できる。	酵素・補酵素・ビタミン	講義	石橋
3	糖質の異化・同化について説明できる。	糖質の構造と機能 糖質代謝	講義	石橋
4			講義	石橋
5	脂質の分解と合成について説明できる。	脂質の構造と機能 脂質代謝 エネルギー代謝の総括	講義	石橋
6			講義	石橋
7	アミノ酸の分解と尿素の生成について説明できる。	タンパク質の構造と機能 アミノ酸代謝・ポルフィリン代謝	講義	石橋
8			講義	石橋
9	異物代謝と活性酸素除去反応について説明できる。	生体異物代謝と活性酸素除去反応	講義	石橋
10	遺伝子の発現について説明できる。	遺伝子と遺伝情報の流れ	講義	石橋
11	核酸の代謝について説明できる。	核酸の代謝・ヌクレオチド代謝	講義	石橋
12	遺伝子の複製・転写・翻訳について説明できる。	遺伝子の複製・転写・翻訳 遺伝子の発現調節	講義	石橋
13			講義	石橋
14	がんの発生機構について説明できる。	がんの分子生物学	講義	石橋
15	細胞のシグナル伝達について説明できる。	シグナル伝達機構・ホルモン作用の分子機序	講義	石橋

受講上の注意 ・ 関連する科目の内容をふまえて受講する。	関連科目 解剖生理学 治療論 病理学 栄養学
事前および事後学習 ・ 事前学習：講義該当部分のテキスト、その他の教材を事前に読んで授業に臨む。 ・ 事後学習：授業終了後は、テキスト、その他の教材を復習する。	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学（医学書院）	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
微生物学	1年後期	1	30	柏木 孝仁 (大学講師として23年)

科目のねらい

感染症の原因となる微生物の基本的性質、感染症の症候、治療、予防法などを学ぶ。また、近年の感染症の特徴である、医療関連感染(院内感染)や新興感染症の問題点を学ぶ。

到達目標

- ・病原微生物(細菌・ウイルス・真菌・原虫)の概要と分類について理解する
- ・感染と発病について理解し、免疫学の重要性について学ぶ
- ・院内感染対策として消毒・滅菌法について理解する

DPとの関連

3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	微生物学の概要および歴史について説明できる	1) 微生物の性質 2) 微生物と人間 3) 微生物学のあゆみ 4) 細菌の構造と性質 5) 真菌・原虫・ウイルスの性質	講義	柏木
3	微生物が人体に及ぼす影響と生体防御機構、感染予防について説明できる	1) 感染と感染症 2) 生体の防御機構(自然免疫、獲得免疫) 3) 感染源・感染経路からみた感染症 4) 感染症の予防(滅菌と消毒)		
7	感染症の検査と診断・治療について説明できる	1) 検査・診断 ①病原体を検出する方法 ②生体の反応から診断する方法(抗体検査) 2) 治療 ①化学療法 ②各種の化学療法薬		
8 9	感染症の現状と対策について説明できる	1) 感染症の変遷 2) 感染症の現状と問題点 ①新興・再興感染症 ②院内感染と特徴 3) 感染症対策 ①感染症法及び関連法規 ②感染予防対策 ③ワクチンと予防接種		
10	主な病原微生物と感染症について説明できる			
11 12	1. 病原細菌と細菌感染症	1) グラム陽性・陰性球菌 2) グラム陽性・陰性桿菌 3) カンピロバクター 4) 抗酸菌と放線菌 5) 嫌気性菌 6) スピロヘータ 7) マイコプラズマ 8) リケッチア 9) クラミジア		
13	2. 真菌感染症、原虫感染症	1) 深在性真菌症 2) 深部皮膚真菌症 3) 赤痢アメーバ 4) トロモナス 5) トキオプラズマ 6) パラチンジウム		
14 15	3. ウイルスとウイルス感染症	1) DNAウイルス(ボックス・ヘルペス・アデノ・パピローマ) 2) RNAウイルス(インフルエンザ・ムンプス、麻疹、RS ポリオ・ロタ・風疹・日本脳炎・コロナ ノロ・ヒト免疫不全 など) 3) ウイルスの臨床的分類 ①肝炎ウイルス ②腫瘍ウイルス ③プリオン		

受講上の注意 ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・疾患の理解(原因)→病態生理→治療→看護と関連する為知識を深める	関連科目 病理学 薬理学 治療論 病態論IV
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：シラバスを参照し、教科書等を読む。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
薬理学	1年後期	1	30	谷口 恭章(薬剤師として49年)

科目のねらい

くすりが生体に及ぼす作用と、生体内での吸収・分布・代謝・排泄などを理解する。

到達目標

1. 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解できる
2. 主な薬物の特徴について理解できる

DPとの関連

3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	薬理学に関する基礎的事項を理解できる。	薬物の基礎知識	講義	谷口
2		1) 薬物とは 2) 薬物の種類と管理 3) 薬物動態(投与経路・吸収・分布・代謝と排泄・動態指標) 4) 薬物相互作用 5) 個人差影響因子 6) 薬物使用の有益性と危険性 7) 薬と法律		
3	各種製剤と処方、各器官・系統別に作用する薬物の作用機序及び副作用について理解できる。			
5	1. 抗感染症薬	1) 抗菌作用のしくみ 2) 抗菌薬の種類と特徴		
14	2. 抗がん薬	3) 抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 1) 抗がん薬の作用と種類、特徴(細胞障害性抗がん薬, 分子標的薬) 2) 抗がん薬の有害事象 3) 薬物耐性 4) 投与計画		
	3. 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	1) 免疫抑制薬 2) 免疫増強薬・予防接種薬 3) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 4) 抗炎症薬 5) 関節リウマチ治療薬		
	4. 末梢での神経活動に作用する薬物	1) 自律神経系作用薬 2) 交感神経作用薬 3) 副交感神経作用薬 4) 抗コリン薬 5) 筋弛緩薬・局所麻酔薬		
	5. 中枢神経系に作用する薬物	1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬・抗不安薬 3) 抗精神病薬 4) 抗うつ薬・気分安定薬 5) パーキンソン治療薬 5) 抗てんかん薬		
	7. 循環器系に作用する薬	1) 降圧薬 2) 狭心症治療薬 3) 心不全治療薬 4) 抗不整脈薬 5) 利尿薬 6) 脂質異常症治療薬 7) 血液凝固系・線溶系作用薬 8) 血液に作用する薬物		
	8. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	1) 気管支喘息薬 2) 鎮咳・去痰・呼吸促進薬 2) 消化性潰瘍薬 3) 健胃・消化薬 4) 制吐・下剤・止痢薬 5) 潰瘍性大腸炎・クローン病薬 6) 女性生殖器作用薬 7) 男性生殖器作用薬 8) 泌尿器作用薬		
	9. 物質代謝に作用する薬物	1) 糖尿病薬 2) 甲状腺薬 3) 下垂体ホルモン 4) 骨粗鬆症薬 5) ビタミン剤		
	10. 皮膚科用薬・眼科用薬	1) 皮膚科用薬の種類と特徴 2) 眼科用薬の種類と特徴		
	11. 救急時使用薬・漢方薬	1) 救急時使用薬の特徴と種類 2) 急性中毒薬 3) 漢方薬		
	12. 消毒薬・輸液製剤・輸血剤	1) 主な輸液製剤 2) 主な輸血用血液製剤と有害作用		
15	13. 看護業務に必要な薬の知識	1) 薬の単位 2) 処方箋 3) 添付文書 4) 薬剤の希釈・溶解 4) 薬物療法における看護師の役割		

受講上の注意

- ・解剖生理学、生化学を理解したうえでの受講が必要。
- ・解剖生理学→生化学→病態生理→治療→看護と関連する為知識を深める

関連科目

生化学
治療論
診療補助技術Ⅱ
各領域看護方法論

事前および事後学習

1. 必要な時間：30時間
2. 事前学習：シラバスを参照し、教科書等を読む。
3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材**教科書**

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
病理学	1年前期	1	15	大野 純 (大学講師として23年)
科目のねらい				
臓器, 組織, 細胞, 生理機能の変化としての病変について学習し, 疾病の成り立ちや症状を理解する。				
到達目標				
1. 疾病の概念について理解できる。 2. 疾病の種類と内容について理解できる。 3. 病理学的変化を理解できる。 4. 代表的な症状・症候の出現する機序を理解する。				
DPとの関連				
3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 疾患理解の基本となる事項について説明できる。	1) 病理学とは 2) 疾病の成り立ち 3) 病気の原因	講義	大野
2	2. 正常と病気の状態について説明できる	1) 生理と病態生理 2) 病気の要因 3) 回復に影響する要因		
3	3. 循環障害の病態について説明できる	1) 虚血と梗塞 2) 充血とうっ血 3) 浮腫と腹水 4) 出血		
4	4. 細胞・組織の障害の病態を説明できる	1) 細胞の損傷と適応 2) 細胞の死 3) 変形・圧迫による臓器障害		
5	5. 感染症の病態について説明できる	1) 病原体と感染症 2) 感染の成立 3) 治療と予防		
6	6. 腫瘍の病態について説明できる	1) 良性腫瘍と悪性腫瘍 2) 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍 4) がんの進展・転移		
7	7. 先天異常と遺伝子異常について説明できる	1) 奇形 2) 遺伝子異常と染色体異常		
8	8. 老化と死について説明できる	1) 老化 2) 死の定義		

受講上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖生理学→病態生理学→疾患→治療→看護と関連する為知識をつなげる 	関連科目 <p>解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 治療論 病態論Ⅰ～Ⅴ</p>
事前および事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な時間：15時間 2. 事前学習：シラバスを参照し、教科書等を読む。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。 	
成績評価の方法 <p>筆記試験100%</p>	
教科書・参考書・その他の教材 <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
病態論 I (脳神経・骨筋系)	1年後期	1	30	脳神経：西村靖子（医師として29年） 運動器：永山裕範（看護師として4年）
科目のねらい				
1. 脳・神経系に障害を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 2. 運動器系に障害をもつ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する				
到達目標				
1. 主な脳神経系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 2. 主な運動器系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する				
DPとの関連				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 ・ 2	脳・神経系障害の主な症状と病態について説明できる	1. 脳・神経障害とは 1) 神経系の役割 2) 症状のメカニズム 3) 特徴的な障害 2. 主な症状と病態生理 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 自律性機能障害 6) 頭蓋内圧亢進 7) 脊髄刺激症状 8) 頭痛 9) めまい	講義	西村
3 ・ 4	脳、脳神経系の主な検査・診断と治療・処置について説明できる	1. 診断と診察の流れ 2. 検査 1) 神経学的検査 ①意識状態 ②運動系 ③反射系 ④感覚系 ⑤脳神経系 ⑥高次脳機能 2) 画像診断 ①頭部単純X線撮影 ②CT ③MRI ④脳血管撮影 ⑤SPECTとPET ⑥脳槽シチグラフィ ⑦頸動脈エコー 3) 電気生理学的検査 ①誘発・運動誘発電位 ②脳波 ③筋電図 ④神経伝導 4) 脳脊髄液検査・生検 3. 治療・処置 1) 外科的療法 ①開頭術 ②脳血管内治療 ③神経内視鏡術 ④穿刺術 ⑤シャント術 ⑥椎弓切除術・形成術 2) 内科的療法 ①薬物療法・血漿交換療法 ②その他		
5 ・ 6 ・ 7 ・	脳神経系主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる 1) 脳血管障害 2) 脳腫瘍、頭部外傷	1. クモ膜下出血 2. 脳出血(脳内出血) 3. 脳梗塞 4. もやもや病 5. 一過性脳虚血発作 6. 脳静脈血栓症 7. 高血圧性脳症 1. 脳腫瘍 2. 頭頂骨損傷 3. 局所性脳損傷		

8	<p>3) 脊髄疾患・末梢神経障害</p> <p>4) 脱髄・変性疾患、感染症</p> <p>5) その他</p>	<p>1. 水頭症 2. 脳脊髄液減少症 3. 脊髄炎 4. 脊髄損傷 5. ニューロパチー 6. ギラン・バレー症候群 7. 神経痛</p> <p>1. 多発性硬化症 2. パーキンソン病 3. 脊髄小脳変性症 5. 筋委縮性側索硬化症 6. 脳炎 7. 髄膜炎 8. 脳膿瘍</p> <p>1. ヤコブ病 2. 破傷風 3. 中毒 4. てんかん 5. 認知症</p>		
<p>1</p> <p>・</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>・</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>ゝ</p> <p>8</p>	<p>運動機能障害の主な症状と病態について説明できる</p> <p>運動器機能障害の検査・診断と治療・処置について説明できる</p> <p>運動器系障害の主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる</p> <p>1) 外因性運動器疾患</p> <p>2) 内因性運動器疾患</p> <p>3) 骨腫瘍および軟部腫瘍</p> <p>4) 代謝性骨疾患</p> <p>5) 腱・神経・筋の疾患</p> <p>6) 上肢、脊椎、下肢の疾患、</p> <p>7) その他</p>	<p>1. 疼痛 2. 形態の異常(奇形と変形) 3. 関節運動の異常 4. 神経の障害(運動麻痺、感覚障害) 5. 跛行 6. 筋肉の障害</p> <p>1. 診断と診察の流れ 問診、視診・触診、神経診察</p> <p>2. 検査 1) 画像検査 ①X線 ②MRI ③超音波 ④造影検査 ⑤シンチグラフィ ⑥骨密度測定 2) 筋電図 3) 関節鏡 4) その他</p> <p>3. 治療・処置 1) 保存療法(非観血的治療) ①ギプス包帯法 ②副子法 ③包帯・三角巾・テーピング ④牽引 ⑤薬物 ⑥関節注射 ⑦神経ブロック 2) 理学療法・作業療法 3) 手術療法 ①骨折・脱臼 ②関節 ③脊椎・脊髄 ④腱・靭帯 など 4) 義肢・装具</p> <p>1) 骨折 2) 脱臼 3) 捻挫・打撲 4) 神経損傷(脊髄損傷) 4) 筋・腱・靭帯損傷</p> <p>1) 先天性疾患(筋性斜頸、股関節形成不全、内反足など) 2) 関節リウマチと類縁疾患(痛風、脊椎関節炎など) 3) 関節の変性疾患: 変形性関節症(股関節・膝関節)</p> <p>1) 良性腫瘍 2) 悪性腫瘍 3) 悪性軟部腫瘍</p> <p>1) 骨粗鬆症 2) くる病・骨軟化症</p> <p>1) ばね指 2) 脳性麻痺 3) 筋ジストロフィー</p> <p>1) 頸肩腕症候群 2) 椎間板ヘルニア 3) ペルテス など</p> <p>ロコモティブシンドローム 廃用症候群 など</p>	講義	永山

<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖・生理→疾患の理解→看護と関連するため既習の知識を想起し、積極的な姿勢で臨む。 	<p>関連科目</p> <p>解剖生理学 I 病理学 治療論</p>
<p>事前および事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：解剖生理学 I で既習した内容の理解が必須。予習しておくこと。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。 	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験100%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 2. 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 3. 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
病態論Ⅱ (呼吸器・循環器系)	1年後期	1	30	呼吸器：野下 貞寿(医師として47年) 循環器：中村 俊博(医師として39年)
科目のねらい				
1. 呼吸器に障害を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 2. 循環器に障害をもつ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する				
到達目標				
1. 主な呼吸器系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 2. 主な循環器系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する				
DPとの関連				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	呼吸機能障害の主な症状と病態生理について説明できる	1. 自覚症状 1) 咳嗽 2) 喀痰 3) 血痰・咯血 4) 胸痛 5) 呼吸困難 2. 他覚症状 1) チアノーゼ 2) ばち指 3) 発熱 4) 呼吸の異常 5) 声の異常 6) いびき 7) 意識障害	講義	野下
2 ・ 3	呼吸器系の主な検査、診断、治療、処置について説明できる	1. 検査と診断の流れ 1) 問診 2) 身体所見(視診・触診、打診、聴診) 2. 検査 1) 血液 2) 喀痰 3) 咽頭・鼻腔ぬぐい液 4) 胸水 5) 画像(単純X線、CT、超音波、MRI、PET) 6) 内視鏡 7) 生検 8) 呼吸機能 3. 治療・処置 1) 吸入療法 2) 酸素療法 3) 人工呼吸療法 4) 呼吸リハビリテーション 5) 気道確保 6) 胸部ドレーナージ 7) 手術療法	講義	野下
4	呼吸器系の主な疾患の、症状、検査、治療、処置について説明できる	1) かぜと急性気管支炎 2) インフルエンザ [※] 3) 肺炎 4) 結核		
	2. 間質性肺疾患	1) 間質性肺炎		
5	3. 気道疾患	1) 気管支喘息 2) 気管支拡張症 3) 慢性閉塞性肺疾患	講義	野下
6	4. 肺循環疾患	1) 肺血栓塞栓症 2) 肺高血圧症		
	5. 呼吸不全、呼吸調節関連疾患	1) 急性・慢性呼吸不全 2) 過換気症候群 3) 睡眠時無呼吸症候群		
7	6. 肺腫瘍	1) 両性腫瘍 2) 悪性腫瘍(原発性肺がん・転移性肺腫瘍)		
8	7. 胸膜・縦隔・横隔膜疾患	1) 気胸 2) 縦隔腫瘍 3) 横隔膜ヘルニア		

1	循環機能障害の主な症状と病態生理について説明できる	1)胸痛 2)動悸 3)呼吸困難 4)浮腫 5)チアノーゼ 6)めまい・失神 7)四肢の疼痛 8)ショック	講義	中村
2				
3	循環器系の主な検査・診断・治療・処置について説明できる	1. 診察と診断の流れ 1)問診・医療面接 2)視診 3)触診 4)聴診 2. 検査 1)心電図 2)胸部X線 3)心エコー 4)脈波 5)心臓カテーテル法(アブレーション) 6)血行動態モニタリング 7)心臓核医学 8)CT 9)MRI 3. 治療・処置 1)内科的治療 ①薬物療法 ②経皮的冠状動脈インターベンション ③ペースメーカー治療 2)外科的治療 ①心臓手術 ②冠状動脈バイパス術 ③弁膜症手術 ④大血管再建術 ⑤血栓除去術 3)補助循環装置 ①大動脈内バルーンポンプ ②経皮的な心肺補助 ③補助人工心臓	講義	中村
4			講義	中村
5	循環器系の主な疾患の症状、検査、治療、処置について説明できる			
6	1. 虚血性心疾患	1)狭心症 2)急性心筋梗塞		
7	2. 心不全	1)急性心不全 2)慢性心不全		
8	3. 血圧異常、不整脈	1)本態性高血圧 2)二次性高血圧 3)本態性低血圧 4)除脈性不整脈 5)頻脈性不整脈	講義	中村
	4. 弁膜症、心筋疾患、心膜炎	1)僧房弁・大動脈弁狭窄症、不全症 2)心タンポナーゼ 3)心筋症		
	5. 先天性心疾患、動脈系疾患 静脈系疾患	1)動脈管開存症 2)心室・心房中隔欠損症 3)アロー四徴症 4)大動脈瘤 5)大動脈解離 6)閉塞性動脈疾患 7)静脈炎 8)深部静脈血栓症 9)静脈瘤 10)肺塞栓症		
受講上の注意 ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖・生理→疾患の理解→看護と関連するため既習の知識を想起し、積極的な姿勢で臨む。		関連科目 解剖生理学 I 病理学 治療論		
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：解剖生理学 I で既習した内容の理解が必須。予習しておくこと。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 2. 専門分野 II 呼吸器 成人看護学② 3. 専門分野 II 循環器 成人看護学③				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
病態論Ⅲ (消化器・内分泌系)	1年後期	1	30	消化器：荒木 靖三(医師として42年) 内分泌/代謝：井口 志洋(医師として6年)
科目のねらい				
1 消化器に障害を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 2. 内分泌/代謝系に障害をもつ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する				
到達目標				
1. 主な消化器系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 2. 主な内分泌/代謝性疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する				
DPとの関連				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3 4	消化機能障害の主な症状と病態生理について説明できる 消化器系の主な症状、検査、診断、治療、処置について説明できる	1) 嚥下困難 2) おくび・胸やけ 3) 嘔気・嘔吐 4) 腹痛 5) 吐血・下血 6) 下痢・便秘 7) 腹部膨満 8) 食欲不振と体重減少 9) 腹水 10) 黄疸 11) 意識障害 1. 検査と診断の流れ 1) 問診 2) 聴診 3) 打診 4) 触診 5) 直腸指診 2. 検査 1) 糞便 2) 肝機能 3) 膵外分泌 4) 超音波 5) 内視鏡 6) 肝生検 7) 放射線検査 ①腹部単純X線、②消化管単純X線(透視) ③胆道、膵管検査(MRCP、DIC、PTC、ERCP) 8) CT 9) MRI 10) シンチグラフィ 11) PET 3. 治療・処置 1) 薬物療法 2) 栄養・食事療法 3) 手術療法 4) 放射線療法	講義	荒木
4 5 8	消化器系の主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる 1. 食道の疾患 2. 胃・十二指腸疾患 3. 腸および腹膜疾患 4. 肝臓・胆嚢の疾患 5. 膵臓疾患	1) 食道がん 2) 胃食道逆流症 1) 胃炎 2) 胃・十二指腸潰瘍 3) 胃がん 1) 過敏性腸症候群 2) 腸炎 3) 腹膜炎 4) 虫垂炎・ヘルニア 5) 腸閉塞 6) 消化管憩室 7) 腸管ホーリーブ 8) 大腸がん 9) 肛門疾患 1) 肝炎 2) 肝硬変症 3) 門脈圧亢進症 4) 肝不全 5) 肝臓がん 6) 胆石症 7) 胆嚢炎・胆管炎 8) 胆管がん 1) 膵炎 2) 膵臓がん 3) 急性腹症		
9 10 11	内分泌/代謝機能障害の主な症状と病態生理について説明できる 内分泌/代謝系の検査について説明できる	1) 体重変化・身長異常 2) 容貌の変化 3) 神経・筋症状 4) 循環器症状 5) 消化器症状 など 1) 内分泌疾患の検査(ホルモン検査など) 2) 代謝疾患の検査(糖尿病など) 3) 脂質異常	講義	本村
12 15	内分泌/代謝系の主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる 1. 内分泌疾患 2. 代謝疾患	①視床下部-下垂体疾患 ②甲状腺/副甲状腺疾患 ③副腎疾患 ①糖尿病および合併症 ②脂質異常症 ③肥満症とメタボリックシンドローム ④尿酸代謝異常		

<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖・生理→疾患の理解→看護と関連するため既習の知識を想起し、積極的な姿勢で臨む。 	<p>関連科目</p> <p>解剖生理学 I 病理学 治療論</p>
<p>事前および事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：解剖生理学 I で既習した内容の理解が必須。予習しておくこと。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。 	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験100%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 2. 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 3. 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
病態論Ⅳ (血液造血器・免アレ感染)	2年前期	1	30	血液・造血器：勝屋 弘雄(医師として18年) ：板村 英和(医師として15年) 免疫・アレ・感染症：野下貞寿(医師として47年)
科目のねらい				
1. 血液・造血器に障害を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 2. 自己免疫系に障害をもつ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 3. 感染症のもつ人のアセスメントができる基礎的知識を習得する				
到達目標				
1. 主な血液・造血器系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 2. 主な自己免疫疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 3. 感染症の概要と検査、診断、治療について理解する				
DPとの関連				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	血液の生理と造血のしくみについて説明できる	1) 血液の成分と機能 2) 造血のしくみ	講義	勝屋 嬉野
2	血液・造血器障害の主な症状と検査、診断、治療、処置について説明できる	1) 病歴聴取と身体所見 ①貧血 ②発熱 ③出血傾向 2) 検査 ①末梢血検査 ②骨髄穿刺・骨髄生検 ③出血傾向検査 ④リンパ節生検 ⑤染色体検査 ⑥遺伝子検査 3) 症候と病態生理 ①貧血 ②白血球増加・減少 ③脾腫 ④リンパ節腫脹 ⑤出血性素因	講義	勝屋 嬉野
3 5 6	血液・造血器障害の主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる 1. 赤血球の異常 2. 白血球の異常 3. 造血器腫瘍 4. 出血性疾患	1) 鉄欠乏性貧血 2) 再生不良性貧血 3) 溶血性貧血 1) 伝染性単核救症 1) 急性白血病 2) 慢性骨髄性白血病 3) 慢性悪性リンパ性白血病 4) 成人T細胞白血病 5) 悪性リンパ腫 6) 骨髄腫 1) アレルギー性紫斑病 2) 特発性血小板減少性紫斑病 3) 血友病 4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)	講義	勝屋 嬉野
7	1. 免疫のしくみ、主な検査と治療について述べるができる	1) 免疫のしくみとアレルギー ①免疫反応と疾患 ②免疫担当細胞と伝達物質 ③アレルギーのしくみ	講義	野下
8	2. 免疫・アレルギー疾患の症状、検査、治療について説明できる	1) 診断の流れ ①問診 ②診察・検査 2) 検査 ①IgE ②白血球 ③LST ④皮膚 その他 3) 治療 ①生活習慣改善 ②薬物療法 ③免疫療法		
9 5	3. 主な自己免疫疾患の症状、病態、検査、治療、処置について説明できる	1) 膠原病(SLE・関節リウマチ) 2) 気管支喘息 3) アナフェラキシー		
10				

11	1. 感染症とはについて説明できる	1) 感染症の原因 2) 感染が成立する条件 3) 感染症の病態生理 4) 感染症の症状	講義	野下
12	2. 感染症の検査・診断について説明できる	1) 感染症診断の原則 2) 検査・診断・治療の流れ 3) 検査の実際		
14	3. 感染症の治療について説明できる	1) 感染症治療の原則 2) 抗菌薬 3) 抗真菌薬 4) 抗ウイルス薬 5) 一次予防と二次予防		
15	4. 主な感染症疾患の症状、診断、治療について説明できる	1) 発熱・不明熱 2) 上気道感染症 3) 下気道感染症 4) 心血管系感染症 5) 消化管感染症 6) 尿路感染症 7) 性感染症 8) 皮膚軟部組織感染症 9) 眼の感染症 10) 中枢神経感染症 11) 免疫不全に伴う感染症 12) 菌・敗血症 13) 麻疹・風疹・水痘 14) 真菌感染症 15) HIV感染症、日和見感染症 16) 多剤耐性菌感染症 など		
受講上の注意 ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖・生理→疾患の理解→看護と関連するため既習の知識を想起し、積極的な姿勢で臨む。		関連科目 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 微生物学 病理学 治療論		
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：解剖生理学Ⅰで既習した内容の理解が必須。予習しておくこと。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 2. 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学⑪				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
病態論V (腎泌尿器・女性生殖器・感覚器)	2年前期	1	30	腎泌尿器：伊東 博己(医師として38年) 女性生殖器：尾崎 麻理(医師として14年) 感覚器：西村靖子(医師として29年)
科目のねらい				
1. 腎・泌尿器に障害を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 2. 女性生殖器に障害をもつ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する 3. 感覚器に障害を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得する				
到達目標				
1. 主な腎・泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 2. 主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する 3. 主な感覚器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解する				
DPとの関連				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	腎・泌尿器障害の主な症状と病態生理について説明できる	1) 尿の異常 2) 排尿関連症状 3) 浮腫 4) 脱水 5) 循環器系の異常 6) 尿毒症 7) 疼痛 8) 腫脹・腫瘤	講義	伊東
2	腎・泌尿器疾患の検査・診断・治療・処置について説明できる	1. 診察 1) 病歴聴取 2) 診察法(視診・聴診) 2. 検査 1) 尿検査 2) 分泌物検査 3) 腎機能検査 4) 画像検査(①X線 ②超音波 ③核医学 ④CT ⑤MRI 5) 経尿道的操作および内視鏡検査 6) 尿流動検査 3. 治療と処置 1) 内視鏡的治療 2) 尿路感染症治療 3) 手術療法 4) 放射線療法 5) 薬物・免疫療法 6) 透析療法(血液透析、腹膜透析) 7) 腎移植		
3	腎・泌尿器障害の主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる	1) 急性・慢性腎不全 2) 急性腎障害 3) 慢性腎臓病 4) 1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 1) 糖尿病性腎症 2) 膠原病等による腎障害 3) その他 1) 腎盂腎炎 2) 膀胱・尿道炎 3) 性感染症 1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
4	腎・泌尿器障害の主な疾患、症状、検査、治療、処置について説明できる	1) 急性・慢性腎不全 2) 急性腎障害 3) 慢性腎臓病 4) 1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 1) 糖尿病性腎症 2) 膠原病等による腎障害 3) その他 1) 腎盂腎炎 2) 膀胱・尿道炎 3) 性感染症 1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
5	腎不全とAKI・CKD	1) 急性・慢性腎不全 2) 急性腎障害 3) 慢性腎臓病 4) 1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 1) 糖尿病性腎症 2) 膠原病等による腎障害 3) その他 1) 腎盂腎炎 2) 膀胱・尿道炎 3) 性感染症 1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
6	糸球体腎炎	1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 1) 糖尿病性腎症 2) 膠原病等による腎障害 3) その他 1) 腎盂腎炎 2) 膀胱・尿道炎 3) 性感染症 1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
7	全身性疾患による腎障害	1) 糖尿病性腎症 2) 膠原病等による腎障害 3) その他 1) 腎盂腎炎 2) 膀胱・尿道炎 3) 性感染症 1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
8	尿路・生殖器の感染症	1) 腎盂腎炎 2) 膀胱・尿道炎 3) 性感染症 1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
9	尿路結石症	1) 腎結石 2) 尿管・膀胱・尿道結石 1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
10	尿路・生殖器の腫瘍	1) 腎実質腫瘍 2) 腎盂・尿管がん(膀胱・尿道、前立腺) 1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
11	排尿障害	1) 過活動膀胱 2) 腹圧性尿失禁		
9	女性生殖器疾患の主な症状と病態生理について説明できる	1) 出血 2) 帯下 3) 疼痛 4) 発熱 5) 他	講義	尾崎
11	女性生殖疾患の主な診察、検査、治療、処置について説明できる	1) 診察・検査 ①診察・治療器具 ②理学的検査 ③病理検査 ④画像検査 ⑤内視鏡検査 2) 治療・処置 ①ダグラス窩穿刺 ②レーザー治療 ③薬物療法 ④手術療法 1) 子宮の疾患 ①子宮筋腫 ②子宮がん ③子宮内膜症 2) 卵管・卵巣の疾患 ①卵管がん ②卵巣腫瘍 3) 性感染症 4) 乳房の疾患 ①乳がん ②その他		
12	女性生殖器の主な疾患の症状、検査、治療、処置について説明できる	1) 子宮の疾患 ①子宮筋腫 ②子宮がん ③子宮内膜症 2) 卵管・卵巣の疾患 ①卵管がん ②卵巣腫瘍 3) 性感染症 4) 乳房の疾患 ①乳がん ②その他		
12	主な感覚器疾患の症状、病態、検査、治療、処置を説明できる		講義	西村
15	1. 眼科疾患 2. 耳鼻・咽喉疾患 3. 皮膚疾患	1) 白内障 2) 緑内障 3) 角膜・結膜炎 4) 網膜症・剥離 1) 副鼻腔炎 2) メニエール病 3) 中耳炎 4) 突発性難聴 5) 咽頭・喉頭がん 6) 上顎がん 1) 熱傷 2) 湿疹 3) 帯状疱疹 4) 疥癬 5) 蜂窩織炎 6) アトピー性皮膚炎		

受講上の注意 ・解剖生理学を理解したうえでの受講が必要。 ・解剖・生理→疾患の理解→看護と関連するため既習の知識を想起し、積極的な姿勢で臨む。	関連科目 解剖生理学 I 病理学 治療論
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：解剖生理学 I で既習した内容の理解が必須。予習しておくこと。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 2. 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 女性生殖器 成人看護学⑨ 3. 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ 眼 成人看護学⑬ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
治療論 (手術・救急・放治・リハビリテーション)	1年後期	1	30	手術療法：吉永明彦(医師として30年) 救急法：荒木 靖三(医師として42年) 放射線治療：野下 貞寿(医師として47年) リハビリテーション療法：星野 祐幸(理学療法士として14年)
科目のねらい 様々な健康の段階で行われる救急法、外科的治療、放射線療法、リハビリテーション療法について理解し、治療を受ける患者の看護に必要な基礎的知識を習得する。				
到達目標 1. 手術療法における麻酔法、生体反応、術後合併症について理解する。 2. 救急・救命時における治療と対処について理解する。 3. 放射線の人体への影響と検査・治療法について理解する。 4. リハビリテーション療法の概念と技術について理解する。				
DPとの関連 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 5 4 5	1. 手術療法に伴う麻酔の影響と生体の反応について述べることができる	1) 手術療法とは 2) 手術侵襲と生体反応、術後合併症 3) サイトカインによる生体調節機構 4) 手術侵襲の評価 5) 創傷治療 ①創傷治療過程 ②創傷治癒に影響する因子 ③創傷管理法 ④創傷治癒の促進 6) 麻酔 ①麻酔とは ②麻酔の種類 ③術前・術中・術後の管理	講義	吉永
5 8 9	2. 生命危機時における、救命・救急の基礎的知識と対処が理解できる	1) 救急状態にある対象の理解 ①救急患者の特徴と観察、アセスメント ②救急患者家族の特徴 2) 主要病態に対する救急処置 ①心肺停止 ②意識障害 ③呼吸障害 ④ショック ⑤熱中症 ⑥外傷 ⑦熱傷 ⑧中毒 ⑨溺水 3) 救命・救急処置 ①一次救命処置(BLS) ②トリアージ ③二次救命処置(ALS)	講義 演習	荒木 荒木
9 11 12	3. 放射線の基礎知識と放射線による検査、治療について説明できる	1) 医療における放射線の役割 ①放射線とは ②放射線の性質(画像診断と放射線治療) ③人体への影響 ④安全性への配慮と確保 2) 放射線治療 ①悪性腫瘍の放射線感受性 ②放射線治療の役割と治療の原則 ③治療に必要な放射線量と照射回数 ④併用療法	講義	野下
12 15	4. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術の基本を説明できる	1) リハビリテーションの基礎 ①リハビリテーションの概念 ②リハビリテーションの展開 ③機能障害の評価 2) リハビリテーションの実際 ①運動麻痺と機能訓練 ②呼吸器疾患とリハビリテーション ③心疾患とリハビリテーション ④言語機能回復のリハビリテーション	講義 演習	星野 星野

<p>受講上の注意</p> <p>それぞれの治療により生じる身体内部の変化や患者理解など、看護の展開に必要な基本的知識であるため、各疾患、治療、看護とつなげられるように積極的に学習する</p>	<p>関連科目</p> <p>解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 病態論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 成人臨床看護論 成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>
<p>事前および事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、病態論Ⅰ～Ⅴで既習した内容の理解が必須。予習しておくこと。 3. 事後学習：講義毎に学習した内容の資料、教科書を確認し振り返る。 	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験100%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 2. 系統看護学講座 別巻 救急看護学 3. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 4. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
口腔健康科学論 (口腔ケア・嚥下障害)	1年後期	1	15	川野真太郎 (大学教授として1年) 柏崎晴彦 (大学教授として8年) 前田英史 (大学教授として8年) 奥住啓祐 (言語聴覚士として11年)
科目のねらい 科学的根拠をもった口腔ケアの実践につなげるために、口腔と全身の健康・疾患について理解する				
到達目標 1. 歯と口腔に関する構造と機能について基本的知識を理解できる 2. 歯・口腔の疾患に関する理解を深め、全身疾患との関連性を理解できる				
DPとの関連 DP1. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識、技術を習得し看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 歯・口腔・口腔周囲の構造と機能について説明できる	1. 口腔：歯、歯・周囲組織、口蓋、舌、口底 2. 口腔周囲：口唇、頬部、顎下部 3. 顎骨・顎関節：上顎骨、下顎骨、顎関節 4. 口腔顎顔面の筋：咀嚼筋、舌骨上動群、舌筋、顔面筋 5. 咀嚼の基礎 5. 唾液腺と唾液の働き：耳下腺、顎下腺、舌下腺、小唾液腺 6. 口腔微生物の役割と病原性	講義	前田
2	2. 歯・口腔疾患に伴う主な症状とその発生機序及び病態生理が説明できる	1. 口腔症状 痛み、腫脹、出血、歯の欠損、口臭の原因と分類、口腔乾燥 2. 口腔機能障害 呼吸障害、開口障害、	講義	前田
3 4 5	3. 咀嚼機能、嚥下機能の関わる構造と機能及びその機能障害をを説明できる。	1. 咽頭と喉頭 2. 嚥下機能 3. 口腔機能障害 咀嚼障害、嚥下障害、味覚障害	講義	奥住
6	歯・口腔疾患に伴う検査・治療・処置について説明できる	1. 検査 咀嚼機能検査、嚥下機能検査、口腔乾燥検査、画像検査 2. 治療・処置 保存治療、外科治療、補綴治療	講義	柏崎
7	歯・口腔疾患を理解する	1. 歯の異常と疾患：齲蝕、歯髄疾患 2. 口腔領域の炎症：歯肉炎、慢性歯周炎 3. 口腔粘膜疾患：アフタ性潰瘍、ペーチェット病、口唇ヘルペス 4. 腫瘍：良性腫瘍、悪性腫瘍 5. 顎関節の疾患：顎関節症	講義	川野
8	全身疾患と口腔疾患の関連性について説明できる	1. 誤嚥性肺炎と口腔ケア 2. 糖尿病と口腔ケア 3. 心筋梗塞、脳梗塞と口腔ケア 4. 心筋梗塞、狭心症と口腔ケア 5. 早産と口腔ケア	講義	柏崎
受講上の注意 ・プレテスト、ポストテストを実施し、成績評価に反映する。 ・能動的な講義形式である。積極的な姿勢で講義に臨むこと。			関連科目 生活援助技術Ⅲ 成人看護学（脳神経） 成人看護学（耳鼻咽喉） 老年看護学 在宅看護論	
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：生活援助技術Ⅲで既習した内容である。予習しておくこと。 3. 事後学習：				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 成人看護学（歯・口腔） 2. 基礎看護学技術Ⅱ				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
社会福祉・社会保障論	2年後期	2	30	棧原 弘司(大学講師として21年)

科目のねらい

社会福祉についての理解を深め、保健・医療・福祉の連携や協働の視点から社会保障制度の意義や社会資源の活用を理解する

到達目標

1. 社会福祉の考え方とその変遷を理解する。
2. 看護に活用する様々な社会資源の制度としくみを理解する

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。
- ④4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 社会保障制度と社会福祉について説明できる	1. 社会保障制度 2. 社会福祉の法制度	講義	棧原
2	2. 現代社会の変化と社会福祉の動向について説明できる	1. 現代社会の変化 2. 社会保障・社会福祉の動向	講義	棧原
3 4 5	3. 医療保障について述べる ことができる	1. 医療保障制度の沿革 2. 医療保障の構造と体系 3. 健康保険と国民健康保険 4. 高齢者医療制度 5. 保険診療のしくみ 6. 公費負担医療	講義	棧原
6	4. 介護保障について述べる ことができる	1. 介護保険制度創設の背景と歴史 2. 介護保険制度の概要 3. 介護保険制度の課題と展望	講義	棧原
7	5. 所得保障について述べる ことができる	1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 学費免除制度	講義	棧原
8	6. 公的扶助について述べる ことができる	1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2. 生活保護制度のしくみ 3. 低所得者対策 4. 近年の動向	講義	棧原
9	7. 社会福祉の分野のサービス について説明することができる	1. 高齢者福祉 2. 障害者福祉 3. 児童家庭福祉	講義	棧原
10 11 12 13	8. 社会福祉の実践の基盤とし ての援助がどのような場合に必 要であるか説明できる	1. 社会福祉援助とは 2. 個人援助技術 3. 集団援助技術 4. 間接援助と関連援助 5. 社会福祉援助の検討課題 6. 連携の重要性 7. 社会福祉実践と医療看護との連携	講義	棧原
14 15	9. 社会福祉の歴史について説 明することができる	1. 社会福祉の歴史の見方 2. イギリスの社会福祉の歴史 3. 日本の社会福祉	講義	棧原

受講上の注意 積極的な姿勢で授業に取り組む	関連科目 関係法規 基礎看護学概論 在宅看護論
事前および事後学習 1. 必要な時間：15時間 2. 事前学習：教科書を事前に読んでおく 3. 事後学習：講義のあと復習をする	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 社会保障・社会福祉	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
関係法規	3年後期	1	30	深川 由久美(看護師として30年)

科目のねらい

看護の対象である人々の日常生活における疾病の予防や治療、健康の保持増進にかかわる制度や法規について理解を深めると同時に対象者とともに自分自身を守ることにつながることを理解できる

到達目標

1. 医療が本質的に医的侵襲行為であり、法により正統に免責されていることを理解できる
2. 医療職の資格が法的に厳格に定められていることを踏まえ、業務内容も医療法による基本方針に従うことを理解する。
3. 看護がどのような社会的・法的意味を持っているか理解する

DPとの関連

◎4.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1 ・ 2	1. 医療と法のかかわりについて述べる事ができる	1. 看護と法のかかわり 2. 法のなにか 3. 看護関係法令の基本について	講義	深川
3	2. 看護を取り巻く法と看護の法的責任について述べる事ができる	1. 看護職の国家資格 2. 保健師助産師看護師法について	講義	深川
4	3. 看護業務の発展と看護の今後の在り方について述べる事ができる	1. 職務内容の基本 2. 看護師業務の発展 3. 看護師等人材確保の促進に関する法律について	講義	深川
5 ・ 6	4. 医事法における法の在り方と看護の関係を述べる事ができる	1. 医療関係職とのかかわり 2. 医療施設の内容について 3. 救急・災害時の連携について	講義	深川
7	5. 医療契約の基本を理解し、インフォームド・コンセントを身につける	1. 医療契約とは 2. インフォームドコンセント 3. 患者の自己決定と同意 4. 医師の応召義務	講義	深川
8 ・ 9	6. 看護師の労働環境を理解し、労働者の法的仕組みが説明できる	1. 看護労働の実際 2. 日本の労働条件の基準 3. 職場における男女平等 4. 職場の安全衛生と労働災害防止	講義	深川
10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	7. 看護師が法的に責任を問われる場合を推論できる	1. 看護師の法的責任 2. 刑事責任 1) 刑事手続きのしくみ 2) 犯罪の成立要件 3) 異状死届け出義務と黙秘権 4) 臓器移植 5) 終末期医療と安楽死 3. 民事責任 1) 民事紛争の処理 2) 看護師の民事責任が問われたケース	講義	深川
14 ・ 15	8. 医療教習体制の基本を述べる事ができる	1. 医療法の基本理念と改正経緯 2. 医療提供の場 3. 医療安全・事故調査制度 4. 在宅医療・その他の制度	講義	深川

受講上の注意 これから、現場に立ち、看護を行っていく上で、重要な内容であることを踏まえ、自分の事として学んでいく	関連科目 医療と倫理 社会福祉と社会保障 基礎看護学概論 看護管理
事前および事後学習 1. 必要な時間:30時間 2. 事前学習:教科書を事前に読んでおくこと 3. 事後学習:授業の後、復習をすること	
成績評価の方法 筆記試験100% (中間試験20% 終講試験80%)	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 看護法のすすめ 大橋将 著 アスパラ	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
医療と倫理	1年後期	1	15	多田泰裕 (看護専門学校非常勤講師として13年)
科目のねらい				
医療に携わる者が考え取りくむべき倫理について、共通の土台となる基本的な医療倫理について学ぶ。				
到達目標				
1. 医療倫理の基本的な理論を学ぶ 2. 医療従事者の倫理的態度・倫理感の重要性を認識することができる 3. 保健・医療の現場における問題をさまざまな観点から考えることができる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 ・ 2	1. 医療倫理に関するキーワードを説明できる	1. QOLとSOL QOLチェックシート 2. 自由と自己決定 3. 最善の利益 4. 医学的無益性	講義	多田
3 4	2. 医療倫理の基本問題について述べる事ができる	1. プライバシーと守秘義務 2. インフォームド・コンセント 3. 医療情報の開示と説明 4. 本当の事の告知 5. パターナリズム	講義	多田
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	ケーススタディを通して、倫理問題について考え意見を対比する	1. 成人看護、一般診療科の場で 2. 母性看護、小児看護、産科婦人科、小児医療の場で 3. 老年看護、高齢者医療の場で 4. 精神看護、精神医療の場で 5. 保健活動と研究、教育の場で	講義 演習	多田

<p>受講上の注意</p> <p>積極的な姿勢で授業に取り組む</p>	<p>関連科目</p> <p>倫理学 基礎看護学概論 看護管理</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>1. 必要な時間：10時間 2. 事前学習：教科書を事前に予習しておく 3. 事後学習：講義のあと復習をすること</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験 40% 授業態度 20% 提出物 40%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書 医療倫理学のABC 第4班 メヂカルフレンド社</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
公衆衛生	2年後期	1	15	末永隆次郎 (大学病院医師として26年)
科目のねらい				
人をさまざまな社会集団で捉え、国民あるいは特定の集団を対象とする分野である公衆衛生の基本的事項を学び、広く集団や社会の視点から健康問題をみる力を習得する				
到達目標				
1. 公衆衛生の意義と重要性が理解できる 2. 我が国の健康水準の現状を理解できる 3. 疾病予防や健康増進の方策について学ぶことができる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 公衆衛生の定義と意義を説明できる	1. 公衆衛生とは何か 2. 公衆衛生の歴史 1) 世界の公衆衛生の歴史 2) 日本の公衆衛生の歴史 3) 戦後の展開 ①プライマリヘルスケア ②ヘルスプロモーション	講義	末永
2	2. 健康を守るための公衆衛生のしくみが説明できる	1. 政策展開 2. 国と地方公共団体の役割 3. 専門職の役割 4. 多職種との協働 5. 住民との協働	講義	末永
3	3. 集団の健康をとらえるための疫学・保険統計を説明できる	1. 公衆衛生の場での疫学 1) 集団をとらえる (1) 疾患の発生状況 ①有病率 ②罹患率 ③受療率 ④疾病分類 (2) 健康水準・医療水準の把握 ①平均寿命、平均寿命、健康寿命 ②死亡率 ③死因 (3) 健康指標の基礎資料 ①人口ピラミッド 2) 原因の分析 (1) 暴露 (2) 因果関係 3) 計画、実施	講義	末永
4	4. 健康と環境の関連性を踏まえ、生活環境や人体に及ぼす影響、その対策を説明できる	1. 環境と健康 1) 地球規模の環境と健康 2) 身の回りの環境と健康 2) 日本の環境行政	講義	末永
5	5. 感染症とその予防対策について理解し、感染症保健活動が説明できる	1. 感染症とその予防対策 1) 我が国の感染症予防対策 2) 院内感染とその予防 2) 公衆衛生上重要な感染症と対策	講義	末永

6	6. 生活習慣病や歯科、障害者の保健活動について説明できる	1. 公衆衛生の実践 1) 成人保健 生活習慣病の現状と対策 飲酒・喫煙 2) 歯科保健 2) 障害者保健	講義	未永
7	7. 学校保健の内容について説明できる	1. 学校保健 1) 現代のこどもの健康課題 2) 学校保健の展開 3) 特別な支援を必要とするこども	講義	未永
8	8. 産業保健活動のしくみと内容について説明できる	1. 産業保健 1) 職場における健康を守る仕組み 2) 産業保健活動の展開 3) 産業保健における今後の課題	講義	未永

受講上の注意 既習知識を掘り起こしながら、今回の講義と関連させる	関連科目 社会福祉・社会保障論 基礎看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論
--	--

事前および事後学習 1. 必要な時間 30時間 2. 事前学習：教科書を事前に読んでおくこと 3. 事後学習：講義のあと復習をすること

成績評価の方法 筆記試験 100%

教科書・参考書・その他の教材 教科書 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 公衆衛生 医学書院 参考書 国民衛生の動向 厚生統計協会
--

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
保健医療論	1年前期	1	15	村中 光 (医療センター院長として9年)
科目のねらい				
医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について理解する				
到達目標				
1. 医療の歩みや医療観の変遷を理解できる 2. 保健・医療・介護の現状を知り、その最前線と課題を理解できる 3. 医療政策と医療経済について理解できる				
DPとの関連				
◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 医療の歩みと医療観の変遷が述べられる	1. 現代医療の起源 2. 日本の医療がたどってきた道 3. 20世紀の医療 4. 医療観の移り変わり 1) 近代以前から受け継がれてきた医療観 2) 自然科学的世界観に基づく医療観 3) 科学的自然観に基づく相対主義 4) これからの医療観	講義	村中
2 3 4	2. 私たちの生活と健康を守るための保健・医療・福祉の現状を説明できる	1. 病気やけがをした時の医療体制 1) 救急医療と蘇生術 2) 診療所と病院 3) 薬と安全性 4) 我が国の保健医療のしくみ 2. 生活と環境衛生、保健・福祉行政 1) 安全で空的な生活環境のために 2) 保健所 3) 母子保健 4) 学校保健 3. 疾病の一次予防と健康増進 1) 急性期疾患の治療と限界 2) 予防医学と健康増進 3) 生活習慣病 4) 健康日本21 4. 少子高齢化社会と世代間のきずな 1) 少子高齢化と人口減少 2) 人口動態統計 3) 高齢者像の転換 4) 老人神話の検証 5) 高齢者介護の問題 5. 障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 1) リハビリとノーマライゼーション 2) 障害者施策と実際 3) 自立支援法から総合支援法へ 4) こころのバリアフリー化 6. 心の健康と精神医療 1) 現在社会と心の病 2) 家族機能とこころの問題 3) 精神保健行政の実際	講義	村中
5	3. 現代医療の最前線について述べるができる	1. 科学技術の進歩と社会生活の変化 2. 現代医学の最前線と先端医療技術の最前線 1) がん診療 2) 移植医療 3) 人工臓器 4) 体外受精と出生前診断 5) 再生医療 5) 画像診断装置	講義	村中

6	4. 現代医療の課題について述べることができる	1. 薬の副作用と偶発症 2. 医現病 3. 生命倫理 4. 医療不信 5. インフォームドコンセント	講義	村中
7 8	5. 医療政策と医療経済について説明できる	1. 医療と経済 1) 医療サービスの特殊性 2) 公的医療保険の必要性 3) 医療職の不足 2. 転換を迫られる医療政策 1) 国民医療費 2) これまでの医療費抑制政策 3) 急性期医療の集約化 4) 費用効果分析 5) 医療者の持つべきコスト意識	講義	村中
受講上の注意 積極的な姿勢で講義に臨むこと		関連科目 社会福祉・社会保障 公衆衛生 基礎看護学概論 老年看護学 成人看護学 精神看護学		
事前および事後学習 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：教科書を事前に読んでおく 3. 事後学習：講義内容を復習しておく				
成績評価の方法 筆記試験 100%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 医学書院 参考書 国民衛生の動向				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
基礎看護学概論 (看護理論・対象論含)	1年前期	1	45	深川 由久美 (看護師30年)
科目のねらい				
看護の基礎概念である「人間」「健康」「環境」「看護」の概要と構造について理解を深め、専門職としての看護の役割を学ぶ。また、専門職としての看護の役割と多職種存在と連携の重要性を認識し、看護に対する基礎的理解と展望の重要性を学ぶ。				
重点目標				
1. 看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念を学び、看護の本質を理解する。 2. 保健・医療・福祉における看護の役割と機能を学び、看護の方法及び看護活動の概要を理解する。 3. 看護の対象を生活者として、成長発達・心理・社会的側面から理解する。				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3	1. 看護の概念を理解し、看護の本質について説明できる	授業ガイダンス 1. 看護の本質・定義 (看護理論家の定義) 2. 看護の役割と継続性	講義	深川
4 5 6	2. 看護の対象の理解	1. 人間の「こころ」と「からだ」を知る・「こころ理解の理論」 2. 人間の暮らしを知る	講義 グループワーク	深川
7 8	3. 看護理論と看護との関りを学ぶ	1. 看護理論とは 2. 各理論家の特徴 ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイ ペプロウ、オーランド、ワトソン、ベナー	講義 グループワーク	深川
9	3. 国民の健康状態と生活について述べる事ができる	1. 健康のとらえ方 2. 国民の健康状態 国民の健康の全体像 成長発達と人間像 3. 国民のライフサイクル 人間のライフイベント 4. 家族・集団・地域	講義	深川
10	4. 看護の提供者	1. 看護職の成立と発展 1) 職業として看護・歴史 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 3) 継続教育とキャリア開発 4) 養成制度の課題 5) 研修制度	講義	深川
11	5. 看護における倫理	1. 現在社会と倫理 2. 医療倫理の歴史的経緯と看護理論 3. 看護実践における倫理課題への取り組み	講義	深川

12	6. 看護の提供のしくみを知ることができる	1. サービスとしての看護・提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策 3. 看護サービスの管理 4. 医療安全と医療の質保証	講義	深川
13	7. 広がる看護の活動領域を知る	1. 国際化と看護 2. 災害時における看護	講義	深川
14	8. 看護における倫理の必要性を理解し、倫理問題について説明できる	1. 倫理とは、倫理原則 2. 看護職の倫理綱領	講義	深川
15	9. 看護教育制度について理解し、自己の位置づけを確認する	1. 看護観作成	講義	深川
16	10. 看護と医療安全について理解し、その関係がわかる	1. 医療安全の必要性 2. 医療事故の法的責任 3. ヒューマンエラーとその特性 4. 医療事故分析、対策	講義	深川
17	11. 看護として、全体を説明できる	1. ケアとケアリングについて 2. チーム医療の概要 3. 看護方式 4. 医療の質とはなにか	講義	深川
18 19 20 21 22 23	12. 全体まとめ（	1. プロジェクト学習、ポートフォリオの基本 2. プロジェクト学習で身につく力 3. 目標設定 ビジョンゴール 企画書、工程表の作成 4. プレゼンテーションの方法と実際 制作、プレゼンテーション 5. ポートフォリオ評価と再構築 プレゼンテーション評価 再構築 自己成長の確認	講義 演習	深川

受講上の注意

意欲的に授業に取り組む

関連科目

心理学
看護者のための心理学
各看護学

事前および事後学習

毎日の復習を欠かさないようにする

成績評価の方法

筆記試験70% レポート30%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院

看護覚え書「本当の看護とそうでない看護」 フローレンス・ナイチンゲール

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護基本技術 I (概念・コミュニケーション・感染予防)	1年前期	1	30	和田由紀子 (看護師として9年6か月) 馬場千草 (看護師として40年)

科目のねらい

看護技術を実現するために必要な基本的態度や医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、関係構築のためのコミュニケーションの方法を学ぶ。また、すべての看護技術の基本である標準予防策を学ぶ。

到達目標

1. 看護技術を実施するために必要な基本的態度や医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する
2. 関係構築のためのコミュニケーションの方法を理解する
3. 感染予防策の基礎知識を習得できる
4. 看護における教育支援について理解できる

DPとの関連

- ◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護技術の概念	①看護技術とは ②看護技術の意義 ③看護の三原則	講義	和田
2	コミュニケーションの意義と目的を述べることができる	①コミュニケーションとは ②看護・医療におけるコミュニケーション	講義	和田
3	コミュニケーションの構成要素と成立過程を述べるができる	①コミュニケーション手段 ②構成要素と成立過程 ③ミスコミュニケーション ④看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のために	講義	和田
4	関係構築のためのコミュニケーションの基本を理解できる	①接近的コミュニケーションの原理 プロセスレコードで自身のコミュニケーションを振り返る ②接近的行動の前提となる基本的な態度 ③接近的行動と非接近的行動 ④接近的コミュニケーションを成立させるには	講義	和田
5		プロセスレコード検討会	演習	和田
6				
7	効果的なコミュニケーションを考え実施できる	①傾聴の技術 ②情報収集の技術 ③説明の技術 ④アサーティブネス	講義	和田
8	コミュニケーション障害への対応を述べるができる	①コミュニケーションに障害がある人の特徴 ②言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ③コミュニケーション障害がある人への対応	講義	和田
9	感染とその予防の基礎知識を述べるができる	①感染と感染症 ②感染成立の条件 ③感染予防 ④院内感染の防止 ⑤標準予防策の基礎知識	講義	馬場
10	標準予防策 (スタンダードプリコーション) を学び、実施できる	②予防対策の実際	講義 演習	馬場
11				

12	感染経路別予防策について述べる ことができる	①感染経路別予防策の基礎知識 ②接触予防策 ③飛沫予防策 ④空気予防策	講義	馬場
13	洗浄・消毒・滅菌の方法を述べる ことができる	①洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 ②洗浄 ③消毒と滅菌	講義	馬場
14 15	無菌操作の方法を述べる ことができ、実施できる	①無菌操作の基礎知識 ②対策の実際	演習	馬場
受講上の注意		関連科目		
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。		論理学、心理学、看護者のための心理学、倫理学、微生物学、病理学		
事前および事後学習				
関連科目の既習部分を復習し、本授業に取り組む				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学④臨床看護総論				
医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解				
系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護基本技術Ⅱ (ヘルスアセスメント・ バイタルサイン測定・記録報告)	1年前期	1	30	池末枝美 (看護師として7年)
科目のねらい				
人間の健康状態を身体的・精神的・社会的側面から総合的に査定 (アセスメント) するための視点を理解し、健康状態をアセスメントするために必要なフィジカルアセスメントの技術を習得する内容とした。				
到達目標				
1. 健康状態を身体的・精神的・社会的側面から総合的に査定 (アセスメント) するための知識と技術を学ぶ。				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	ヘルスアセスメントについて述べることができる	①ヘルスアセスメントが持つ意味 ②ヘルスアセスメントにおける観察 ③ヘルスアセスメントにおける重要な視点 ④問診の技術を活用した健康歴聴取 ⑤セルフケア能力のアセスメントと情報の整理	講義	池末
2	全体の概観を捉える要素を理解できる	①フィジカルアセスメントに必要な技術 問診 (面接)、視診、触診、聴診、打診の技術 ②全身状態・全体印象の把握 ③心理的側面のアセスメント ④社会的側面のアセスメント	講義	池末
3	系統的フィジカルアセスメントに必要な技術を考え実施できる	①呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義 演習	池末
4		②循環器系のフィジカルアセスメント ③腹部のフィジカルアセスメント ④筋・骨格系のフィジカルアセスメント		
5		⑤神経系のフィジカルアセスメント ⑥頭頸部と感覚器 (眼) のフィジカルアセスメント		
6	生命の兆候である体温のメカニズムと測定方法を理解できる。	①バイタルサインとは ②体温調整のメカニズム ③体温に影響する因子 ④体温測定の方法	講義	池末
7	生命の兆候である脈拍・呼吸のメカニズムと測定方法を理解できる。	①脈拍とは ②触知部位と方法 ③脈拍に影響する因子 ④測定方法 ⑤呼吸のメカニズム ⑦呼吸に影響する因子 ⑧呼吸状態の観察内容 ⑨測定方法	講義	池末
8	生命の兆候である血圧のメカニズムと測定方法を理解できる。	①血圧とは ②血圧に影響する因子 ③血圧の測定方法	講義	池末
9	生命の兆候である意識障害のメカニズムと確認方法を理解できる。	①意識障害の原因 ②意識レベルの分類と確認方法	演習	池末

10	対象の状態に応じたヘルスアセスメントができる	肺炎の事例を通して ①ヘルスアセスメント ②フィジカルアセスメント ③バイタルサインの測定	演習	池末
11				
12	看護記録の内容を理解し記載できる。また、内容を報告できる	①看護記録とは ②記載・管理における留意点 ③看護記録の構成 ④報告	講義	池末
13				
14	看護における学習支援について述べるができる	①学習支援の背景 ②看護師の役割としての学習支援 ③看護の学習支援技術の発展	講義	池末
15	健康に生きることを支える学習支援について述べるができる	①学習の基本となる考え方 ②様々な場で行われる学習支援	講義	池末
受講上の注意		関連科目		
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。		解剖生理学 I、看護者のための心理学		
事前および事後学習				
解剖生理学 I 復習し、本授業に取り組む				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護基本技術Ⅲ (看護過程)	1年後期	1	30	池末枝美 (看護師として7年)
科目のねらい				
健康上援助を必要とする対象の相互作用に基づいて行う看護上の問題解決過程、基準や根拠に基づきものごとを考えるクリティカルシンキングについて学ぶ				
到達目標				
1. 看護上の問題解決過程やクリティカルシンキングについて学ぶ				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護過程の概念について述べる ことができる	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関係性 ③看護過程を用いることの利点	講義	池末
2				
3	看護過程を展開する際に基盤となる考え方を述べる ことができる	①問題解決過程とは ②問題解決に必要な力 ③問題解決過程と看護過程 ④リフレクション	講義	池末
4				
5				
6	看護過程の各段階を知り、活用 できる	①アセスメント (情報の収集と分析) ②看護問題の明確化 (看護診断) ③看護計画 ④実施 ⑤評価 ※9回目からは事例展開	講義	池末
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
		事例検討についての発表 (計画立案まで)	演習	池末
受講上の注意			関連科目	
意欲的に授業に取り組むこと			看護基礎技術Ⅰ、看護基礎技術Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、看護者のための心理学	
事前および事後学習				
事例にある疾患について事前学習をして本授業に臨むこと				
成績評価の方法				
筆記試験80% レポート20%				
教科書・参考書・その他の教材				
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生活援助技術 I (環境・活動休息)	1年前期	1	30	長 小夜香 (看護師として10年) 磯野 広美 (看護師として8年)
科目のねらい				
健康生活を維持していくうえで欠くことのできない基本的な日常生活行動(環境・活動と休息)の援助を学ぶ。				
到達目標				
1. 日常生活を整え人間の基本的ニード(環境整備、活動休息)を満たすための基本的な知識・技術を学ぶ				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	環境整備援助の基本知識を述べることができる	①人間にとっての環境の意義 療養生活の環境 ③病室の環境のアセスメントと調整	② 講義	長
2	環境整備の方法を理解できる	①ベッド周囲の環境整備 ②病床を整えるとは	講義	長
3	環境整備と下シーツ用いたベッドメイキングを実施できる	①ベッド周囲の環境整備の実施 ②下シーツを用いたベッドメイキング	演習	長
4				
5				
6	臥床患者のシーツ交換を実施できる	臥床患者のシーツ交換の実施	演習	長
7	睡眠・休息の基本的知識を理解できる	①睡眠・休息の意義 ②睡眠のメカニズム ③睡眠の影響因 ④睡眠、休息の援助	講義	磯野
8	安楽を促進するためのケアを実施できる	安楽を目的とした審法	講義 演習	磯野
9	活動・姿勢の基本的知識を理解できる	①基本的活動の基礎知識 ②体位と姿勢	講義	磯野
10	ボディメカニクスの活用方法を述べるができる	②ボディメカニクス ③移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	講義	磯野
11	体位変換の目的・原則、体位変換・移動時の留意点を考え実施できる	①体位変換の実際 ②ポジショニング ③背抜き	演習	磯野
12				
13	ストレッチャー・車椅子移送時の留意点、歩行介助の方法、歩行補助具の使用方法を知り、実施できる	①移送・移乗の実際 ②歩行介助の実際	演習	磯野
14				
15				

受講上の注意 意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。	関連科目 解剖生理学 I、看護者のための心理学
事前および事後学習 解剖生理学 I を復習し、本授業に取り組む	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術 II 医学書院 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生活援助技術Ⅱ (食事・排泄)	1年後期	1	30	野口 新介 (看護師として5年) 居石 順子 (看護師として38年)
科目のねらい				
健康生活を維持していくうえで欠くことのできない基本的な日常生活行動 (食事・排泄) の援助を学ぶ。				
到達目標				
1. 日常生活を整え人間の基本的ニード (食・排泄) を満たすための基本的な知識・技術を学ぶ。				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	食事援助の基本知識を述べる ことができる	①栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ②医療施設で提供される食事の種類と形態	講義	野口
2	食事摂取の介助方法を理解し、 実施できる	①援助の基礎知識 ②援助の実際	講義 演習	野口
3				
4	非経口的栄養摂取の援助方法を 理解し実施できる。	①経管栄養法 胃管カテーテル挿入、注入 ②中心静脈栄養法	講義 演習	野口
5				
6	排泄援助の基本的知識を述べる ことができる	①自然排尿および自然排便の基礎知識 ②自然排尿および自然排便の介助の実際 尿器、便器の使用、オムツ交換の方法と留意点	講義 演習	居石
7				
8				
9	導尿について理解でき実施でき	①一時的導尿 ②持続的導尿	講義 演習	居石
10				
11				
12	排便を促す援助について理解で き、実施できる	①排便を促す援助の基礎知識 ②摘便	講義 演習	居石
13				
14	排便を促す援助について理解で き、実施できる	①浣腸 (グリセリン浣腸)	講義 演習	居石
15				
受講上の注意			関連科目	
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。			解剖生理学Ⅰ、看護者のための心理学	
事前および事後学習				
解剖生理学Ⅰ、看護者のための心理学を復習し、本授業に取り組む				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解				
系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活)	1年後期	1	30	穴井 陽子 (看護師として10年)
科目のねらい				
健康生活を維持していくうえで欠くことのできない基本的な日常生活行動(清潔・衣生活)の援助を学ぶ。				
到達目標				
1. 日常生活を整え人間の基本的ニード(清潔・衣生活)を満たすための基本的な知識・技術を学ぶ。				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。	清潔援助の基礎知識	講義 演習	
2		①皮膚の構造と機能、清潔の保持 ②衣類・温度調整		
3	清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの身体清潔の方法を述べることができる	清拭、洗髪、入浴(各々全身または部分)の方法・留意点 ・石鹸清拭、部分清拭 ・ケリーパッド、洗髪車	講義	
4	安全・安楽に口腔ケアを実施できる 義歯の取り扱いができる	口腔内の洗浄方法・留意点 ・ブラッシング法 義歯の清潔保持	講義	
5	安全・安楽に臥床患者の清拭と寝衣交換を実施できる	臥床患者の全身清拭 ・温タオルでの清拭 臥床患者の寝衣交換	演習	
6				
7				
8				
9	安全・安楽に臥床患者の手浴・足浴を実施できる	臥床患者の部分浴 ・手浴、足浴	演習	
10				
11	陰部洗浄の留意点を理解し実施できる	陰部の構造と機能、陰部洗浄の方法・留意点	演習	
12				
13	安全・安楽に臥床患者の洗髪を実施できる	臥床患者の洗髪の一連 ・ケリーパッドでの洗髪	演習	
14				
15	清潔の援助の意義	療養生活を送る対象者への清潔の援助の意義	講義	

受講上の注意 意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。	関連科目 解剖生理学 I、看護者のための心理学
事前および事後学習 本時で学習内容については事前にテキストを確認しておく。	
成績評価の方法 筆記試験100%	
参考書・その他の教材 教科書 系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術 II 医学書院 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
診療補助技術 I (創傷管理・呼吸を整える技術)	2年前期	1	15	居石 順子 (看護師として38年)
科目のねらい				
看護の対象や医療者の感染予防のために必要な知識、技術や検査・治療・処置に伴う看護技術を理解する				
到達目標				
1. 診療に伴う生体機能管理技術を習得する				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	呼吸を整える援助について述べる ことができる	①援助の基礎知識 ・酸素療法 ②排痰ケアの基礎知識 ・吸入 ・吸引 ・体位ドレナージ	講義	居石
2		・酸素療法 ・吸入		
3		・吸引 ・体位ドレナージ		
4	包帯法の援助について述べ、実施 できる	①包帯法の実施 ・環行帯、麦穂帯、亀甲帯	講義 演習	居石
5		②三角巾の使用法		
6	創傷管理の基礎知識を述べる ことができる	①創傷 ②創傷治癒のための環境づくり ③創傷処置 ④テープによる皮膚障害 ⑤管理法	講義 演習	居石
7	救命救急処置	BLS講習	講義 演習	鳥栖消防署
8				
受講上の注意			関連科目	
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。			微生物学、病理学、解剖生理学 I、生活援助技術 II	
事前および事後学習				
微生物学・病理学・解剖生理学 I・生活援助技術を復習し、本授業に取り組む				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術 II 医学書院				
医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解				
系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
診療補助技術Ⅱ (生体機能管理・検体採取・与薬)	2年前期	1	30	野口 新介 (看護師として5年)
科目のねらい				
看護の対象や医療者の感染予防のために必要な知識、技術や検査・治療・処置に伴う看護技術を理解する。さらに、人体に直接作用する薬剤の危険性と看護師に課せられる法的責任を認識し、安全・正確に与薬を実施できる技術を習得することを目的として設定した。				
到達目標				
1. 診療に伴う感染予防・与薬援助技術を習得する				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	症状・生体機能管理技術について述べることができる	①症状・生体機能管理技術の基礎知識	講義	野口
2		②血液検査(真空管採血、簡易血糖検査)、尿検査、便検査 ③検体の取り扱い ④生体情報のモニタリングについて種類と援助時の留意点		
3	真空管採血の方法、留意点を理解し、実施できる	真空管採血の実際	演習	野口
4				
5	簡易血糖検査の方法、留意点を理解し、実施できる	簡易血糖検査の実施	演習	野口
6	与薬の援助について基礎知識と投与方法、および援助時の留意点を述べる①	与薬の基礎知識 ①薬物療法の目的 ②薬物療法に影響する因子 ③薬物療法における看護の役割と機能 ④与薬の原理原則、誤薬防止	講義	野口
7	与薬の援助について基礎知識と投与方法、および援助時の留意点を述べる②	与薬経路別の基礎知識と援助方法および留意点① 経口与薬、直腸内与薬、その他の与薬方法	講義	野口
8	与薬の援助について基礎知識と投与方法、および援助時の留意点を述べる③	与薬経路別の基礎知識と援助方法および留意点② 筋肉内注射、静脈内注射、皮下注射、皮内注射の方法と留意点、輸液ポンプ、シリンジポンプ	講義	野口
9	注射について基礎知識と実施方法、および実施時の留意点を述べ、実施できる①	皮下注射の実施 ①アンプルカット、アンプルからの薬液吸引 ②刺入部の確認 ③刺入角度	講義 演習	野口
10				
11	注射について基礎知識と実施方法、および実施時の留意点を述べ、実施できる②	筋肉内注射の実施 ①刺入部の確認 ②刺入角度	講義 演習	野口
12				
13	注射について基礎知識と実施方法、および実施時の留意点を述べ、実施できる③	静脈内注射の実施 ①ミキシング、プライミング、バイアルからの薬液吸引 ②刺入部の確認 ③刺入角度	講義 演習	野口
14				
15	輸血管理の方法と留意点を述べる④	①輸血についての基礎知識 ②実施時の援助と留意点	講義 演習	佐賀 赤十字社

受講上の注意 意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。	関連科目 心理学、看護者のための心理学、倫理学、解剖生理学 I
事前および事後学習 心理学、看護者のための心理学、倫理学、解剖生理学 I を復習し、本授業に取り組む	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術 II 医学書院 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
臨床判断演習	2年前期	1	15	穴井 陽子（看護師として10年）
科目のねらい				
より実践的な看護につながるよう、既習の学習内容を用いて、学生の「気づき」、「解釈する」、「反応する」、「省察する」の臨床判断プロセスを学ぶ科目とした。				
到達目標				
1. 臨床判断プロセスの基本を学ぶ				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	対象の状態について「気づき」「解釈する」ことができる	肺炎、既往歴（糖尿病、心不全）の入院3日目の状況でアセスメントを実施 「気づき」「解釈する」 用紙に記載する	講義 GW	穴井
2	対象の状態を「解釈する」ことができる	肺炎、既往歴（糖尿病、心不全）の入院3日目の状況でアセスメントを実施 「解釈する」 用紙に記載する	GW	穴井
3	標準計画に個別性を追加して「反応する」「省察する」ことができ、必要な看護を導き出すことができる	肺炎、既往歴（糖尿病、心不全）の入院3日目の状況でのアセスメントより計画を立案し、実施する 「反応する」「省察する」 援助を考える：標準看護計画使用し、個別性を追加して実施する	GW 演習	穴井
4			演習	穴井
5			演習	
6	対象に必要な援助を「反応する」「省察する」ことができる	援助計画を実施する 援助場面を動画に残し、振り返る 「反応する」「省察する」 計画としてあがった援助を1援助を1Gが実践する	演習 シュミレーション	穴井
7			演習	穴井
8			演習 リフレクション	穴井

<p>受講上の注意</p> <p>意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。</p>	<p>関連科目</p> <p>解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学、病態論Ⅰ、病態論Ⅱ、病態論Ⅲ、基礎基本技術Ⅰ、基礎基本技術Ⅱ、基礎基本技術Ⅲ、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>事例の疾患について学習してくる</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>ルーブリック 80% レポート20%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
臨床看護総論 (経過別・検査・治療処置の看護・医療機器)	1年後期	1	30	野口 新介 (看護師として5年) 中村 宏子 (看護師として29年)
科目のねらい				
健康状態の経過別に応じた医療や対象のニーズ、看護の特徴について学ぶ。また、検査・治療を受ける対象者に必要な看護、い両利きを安全に用いるための知識や看護について学ぶ内容とした。				
到達目標				
1. 健康状態の経過に応じた医療や対象のニーズ、看護の特徴について学ぶ。 2. 検査、治療・処置を受ける対象者に必要な看護、医療機器を安全に用いるための知識や看護について学ぶ。				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	経過別看護の特性 急性期における看護を述べる ことができる	看護における経過 ①急性期の特徴 ・救急看護の特性 (救急看護とは、重症集中治療、手術療法、放射線療法、化学療法)	講義	野口
2		③急性期の患者のニーズ ④急性期にある患者への看護援助	講義	野口
3	慢性期における看護を述べる ことができる	①慢性期の特徴 ②慢性の患者のニーズ ③慢性期にある患者への看護援助 ・セルフケア継続	講義	野口
4	リハビリテーション期における 看護を述べる ことができる	①リハビリテーション期の特徴 ②リハビリテーション期の患者のニーズ ③リハビリテーション期にある患者への看護援助 ・身体可動性障害とセルフケア	講義	野口
5	終末期における看護を述べる ことができる	①終末期の特徴 ②終末期の患者のニーズ ・自分らしく生き抜く	講義	野口
6		④終末期にある患者への看護援助 ・疼痛ケア (麻薬管理) ・苦痛に対するマネジメント ・倫理的課題と意思決定支援	講義	野口
7	検査、治療別看護 検査を受ける対象者への看護を 述べる ことができる	①検査の種類と特徴 穿刺液検査、内視鏡検査、X線検査、CT検査、MRI検査、IVR・血管造影	講義	中村
8		②検査を受ける対象のニーズ ③検査を受ける対象の看護 ④身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象の看護	講義	中村
9	手術療法を受ける対象者の看護 について述べる ことができる	①手術侵襲と生体反応	講義	中村
10		②手術前の看護 (IC、心理的アセスメント、意思決定への支援、術前準備) ③手術期の看護 (手術室の環境、手術中の看護、手術室看護師の役割)	講義	中村

11	手術療法を受けた対象者の術後合併症の症状と看護について述べるができる	④術後の看護（肺合併症、循環不全、術後せん妄、イレウス、深部静脈血栓症、術後感染、縫合不全）	講義	中村
12	放射線療法を受ける対象者の症状を述べるができる。	放射線療法を受ける患者の看護 ・放射線療法の種類と特徴 ・照射時の看護 ・照射後の看護 ・放射線防護の三原則	講義	中村
13	化学療法を受ける対象者の症状を述べるができる。	化学療法を受ける患者の看護 ・化学療法の特徴 ・治療前の看護援助 ・薬物投与時の看護 ・薬物投与後の看護	講義	中村
14	医療機器と看護	医療機器を安全に使うために ①医療機器を使用する環境 ②測定用医療機器の原理と実際 ・心電図モニター ③治療用医療機器の原理と実際 ・人工呼吸器 ・輸液ポンプ ・除細動器 ④医療機器使用時の看護	講義	野口
15			講義	野口
受講上の注意		関連科目		
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。		心理学、看護者のための心理学、倫理学、解剖生理学 I		
事前および事後学習				
看護者のための心理学を復習し、本授業に取り組む				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
臨床看護技術 (総合看護技術)	1年後期	1	15	長 小夜香 (看護師として10年)
重点目標				
対象の発達段階や状態に応じて、看護基本技術及び生活援助技術で学習した知識・技術を統合して実践することを学ぶ。				
到達目標				
1. 看護基本技術及び生活援助技術で学習した知識・技術を統合して実施できる。				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	【環境調整、清潔・衣生活援助技術】 状態にあったシーツ交換と清潔援助ができる	シーツ交換、清拭・寝衣交換、陰部洗浄、おむつ交換などの複合技術	演習	長
2			演習	長
3			演習	長
4			演習	長
5			演習	長
6			演習	長
7	死の看取りの援助について理解できる	1. 風習に根づく死後の処置のあり方が理解できる ①日本文化の中の葬送儀礼 ②葬送儀礼と看護 2. 死後の処置における基礎知識が理解できる ①死の三徴候 ②死後の経時的な変化 3. 死後の処置の実際が理解できる	講義・演習	長
8				
受講上の注意			関連科目	
意欲的に授業に取り組むこと。演習時、真剣に取り組むこと。			基礎看護学概論、看護基本技術Ⅰ、看護基本技術Ⅱ、看護基本技術Ⅲ、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病態学	
事前および事後学習				
既習の技術援助の復習をしてくる (動画視聴も含む)				
成績評価の方法				
筆記試験30% ルーブリック60% レポート10%				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
系統看護学講座 基礎看護学④臨床看護総論				
医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解				
系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護概論 I	1年次 後期	2	30	山崎 博美（看護師として24年）
科目のねらい 地域での暮らしが健康に与える影響や、在宅療養者の健康レベル、発達段階、家族の特徴を学び、在宅看護の対象者や看護について理解する。また、地域包括ケアシステムの意義と概念について学び、健康と暮らしを支える看護を理解する。				
到達目標 1. 暮らすとはどのようなことか考えることができる。 2. 支え合って生きるとはどのようなことか考えることができる。 3. 地域・在宅看護論の対象について理解することができる。 4. 地域の生活環境が健康に与える影響について理解することができる。 5. 健康と暮らしを支える看護について理解する。				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	暮らすとはどのようなことか述べることができる。	1. 公衆衛生看護・地域看護と在宅看護との関連 2. 地域のなかでの暮らしと健康	講義 GW	山崎
2		1. 人々の暮らしの理解 2. 地域・在宅看護の役割		
3	支え合って生きるとはどのようなことか述べることができる。	1. 暮らしと地域	講義 GW	山崎
4		1. 暮らしと地域を理解するための考え方		
5		1. 地域包括ケアシステムと地域共生社会		
6	地域・在宅看護論の対象について述べる ことができる。	1. 地域・在宅看護の対象者 地域による多様性 ライフステージによる多様 健康レベルの多様性	講義 GW	山崎
7				
8		1. 家族の理解 わが国における家族の現状 わが国における家族とその変遷 地域・在宅看護の対象としての家族		
9				
10		1. 地域に暮らす対象者の理解と看護		
11	健康と暮らしを支える看護について述べる ことができる。	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護	講義	山崎
12		1. 広がる看護の対象と提供方法 2. 地域における家族への看護		
13		1. 地域におけるライフステージに応じた看護		
14		1. 地域での暮らしにおけるリスクの理解		
15		1. 地域での暮らしにおける災害対策		

受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。	関連科目 社会保障論、関係法規、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、看護学概論
事前および事後学習 1. 事前学習：看護学概論、老年看護学概論等の既習内容については復習をしておくこと。 2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。	
成績評価の方法 平常点10% 提出物10% 筆記試験80%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護概論Ⅱ	1年次 後期	1	15	穴井 陽子（看護師として10年）
科目のねらい 地域での療養生活を送る人とその家族を支える法や制度、施策を学び、地域で暮らし続けることをどのように支援しているのか理解する。				
到達目標 1. 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策について理解できる。 2. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントについて理解できる。 3. 看護が提供される多様な場と多職種連携を理解する。				
DPとの関連 1. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識、技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	地域・在宅看護の実践の場と連携を述べることができる。	1. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2. おもな地域・在宅看護実践の場	講義 GW	穴井
2		1. 地域・在宅看護における多職種連携 多職種との連携・協働を考える		
3				
4	地域・在宅にかかわる制度とその活用について述べるができる。	1. 介護保険・医療保険制度	講義	穴井
5				
6		1. 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 2. 訪問看護の制度		
7				
8	1. 地域保健にかかわる法制度 2. 高齢者に関する法制度 3. 障害者・難病に関する法制度 4. 公費負担医療に関する法制度 5. 権利保障に関連する制度			
受講上の注意 ・能動的な講義形式である。 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。		関連科目 社会保障論、関係法規、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、看護学概論		
事前および事後学習 1. 事前学習：社会保障論、関係法規、老年看護学概論等の既習内容については復習をしておくこと。 2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。				
成績評価の方法 平常点10% 提出物10% 筆記試験80%				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践				
教科書・参考書・その他の教材 教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護方法論 I	2年次 前期	2	45	山崎 博美 (看護師として24年)
科目のねらい 在宅療養者や家族の在宅療養を支援していくために必要となる看護過程の考え方と、健康の保持増進・疾病の予防を強化するための看護について理解する。				
到達目標 1. 健康の保持増進・疾病予防に関わる看護としてのリスクマネジメントについて理解できる。 2. 地域で療養生活を送る人とその家族のアセスメントについて理解し、事例に活用できる。				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	在宅における呼吸管理・援助について述べることができる。	1. 在宅での呼吸管理・ケアの特徴 2. 呼吸に関するアセスメント 3. 呼吸への援助のポイント	講義	山崎
2	在宅療養者の食生活・嚥下について述べることができる。	1. 在宅での食生活の特徴 2. 食生活・嚥下に関するアセスメント 3. 食生活・嚥下への援助のポイント	講義	山崎
3	在宅療養者の排泄について述べることができる。	1. 在宅での排泄の特徴 2. 排泄（排尿、排便）に関するアセスメント 3. 尿失禁の予防と工夫 4. 便秘・便失禁の予防と工夫	講義	山崎
4	在宅療養者の移動・移乗について述べることができる。	1. 在宅での移動・移乗の特徴 2. 移動・移乗に関するアセスメント 3. 移動・移乗の援助に関するポイント	講義	山崎
5	在宅療養者の清潔について述べることができる。	1. 在宅での清潔援助の特徴 2. 清潔に関するアセスメント 3. 清潔の援助に関するポイント	講義	山崎
6		1. 家庭内の物品を使って、清潔ケアに必要な物品を作成する。 2. 作成した物品を用いて清潔ケアを実施することができる。 ・ケリーパッド作成	演習	山崎
7				
8	認知機能のアセスメント法と援助技術について述べるができる	1. 認知機能とは 2. 認知機能のアセスメントと援助の適応条件 3. 認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護 4. 認知機能に障害がある療養者への在宅看護 5. 認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	山崎
9	在宅におけるエンドオブライフケアについて述べるができる	1. 在宅におけるエンドオブライフケアの特徴 2. エンドオブライフケアの展開	講義	山崎

10		1. 在宅看護の活動におけるコミュニケーションとは何か。 2. 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション技術 3. 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント	講義	山崎
11	在宅療養者の活動を支えるコミュニケーションについて述べることができる。	1. 初回訪問の面接技術、面接の条件、マナー 2. 初回訪問のロールプレイング（演習）に参加するシナリオ作成、配役設定、実施、評価を行う 3. ディスカッションを行う	演習 GW	山崎
12				
回	目標	学習内容	方法	
13	在宅療養者の生活を安全に支えるため日常生活に潜むリスクについて述べることができ、療養上のリスクマネジメントについて理解することができる。	1. 在宅看護におけるリスクの特徴 ①リスクマネジメントの考え方 ②事故の背景要因について 2. 療養上のリスクマネジメント ①環境の整備による安全の確保 ②身体損傷の防止 ③薬物による事故の防止 ④感染の防止 ⑤災害に対する準備と対応	講義	山崎
14				
15	在宅療養者とその家族についての特徴を踏まえた看護過程の考え方が理解できる。	1. 在宅看護過程のポイント 2. 事例を使用して在宅看護過程を展開する ①情報収集・情報の整理 ②アセスメント ③目標設定・計画 ④評価のしかた ⑤社会資源関連図の作成方法 3. 在宅看護の標準化に向けた取り組み	講義	山崎
16				
17				
18				
19				
20	地域で暮らす療養者とその家族の生活を支えることができるよう具体的な援助方法が理解でき、実施することができる。	1. 事例を展開し、看護計画を立案する。 2. 社会資源関連図を作成する 3. グループワーク ①食生活、排泄、活動、清潔の4つの生活行動に対して具体的な援助計画を立案する。 ②援助計画に沿って、指名されたグループが援助を実施する。 ③援助の実施に対して、全員でディスカッションを行う 4. まとめ	演習 GW	山崎
21				
22				
23				

受講上の注意

- ・演習の多い授業となっている。各自、積極的な姿勢で講義に臨むこと。

関連科目

解剖生理学、病態論、心理学、関係法規、社会保障論、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、基礎看護技術

事前および事後学習

1. 事前学習：解剖生理学、病態論、基礎看護技術等の既習内容については復習をしておくこと。
2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。

成績評価の方法

平常点10% 提出物10% 筆記試験80%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

- ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤
- ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護方法論Ⅱ	2年次前期	1	30	山崎 博美（看護師として24年）
科目のねらい				
退院支援と在宅との連携である継続看護の重要性について学び、在宅での治療や看護の実際を理解する。				
到達目標				
1. 在宅看護の介入時期と看護の継続性について理解を深めることができる。 2. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解することができる。				
DPとの関連				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	在宅看護介入の時期別の特徴について述べるができる	1. 在宅療養準備期（退院前） 2. 在宅療養移行期 3. 在宅療養安定期 4. 急性増悪期 5. 終末期（看取り期） 6. 在宅療養終了期	講義	山崎
2	褥瘡の予防について述べるができる。	1. 褥瘡とは何か 2. 褥瘡の予防 3. 褥瘡発生時の対応 4. 治療・ケア計画の実際	講義	山崎
3	尿道留置カテーテル挿入中の在宅療養者について述べるができる。	1. 尿道留置カテーテルとは何か 2. 尿道留置カテーテルの適応条件 3. カテーテルの種類と適応 4. 合併症とその対処	講義	山崎
4	ストーマ（人工肛門・人工膀胱）について述べるができる。	1. ストーマとは何か 2. ストーマの適応 3. ストーマからの排泄方法 4. おもな（晩期）合併症とその対応 5. ストーマ造設している療養者への生活の工夫と在宅看護	講義	山崎
5	経管栄養法について述べることができる。	1. 経管栄養法とは何か 2. 経管栄養法の種類と適応 3. 経鼻経管栄養法 4. 胃瘻からの経管栄養 5. 経鼻経管栄養法・胃瘻共通の合併症 6. 経管栄養法を用いる療養者への生活の工夫と在宅看護	講義	山崎
6	在宅中心静脈栄養法（HPN）について述べるができる。	1. 在宅中心静脈栄養法とは何か 2. 在宅中心静脈栄養法の適応条件 3. 在宅中心静脈栄養法を用いる療養者への在宅看護	講義	山崎

7	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）について述べるができる。	1. 非侵襲的陽圧換気療法とは何か 2. 非侵襲的陽圧換気療法の適応条件 3. 非侵襲的陽圧換気療法を用いる療養者への在宅看護	講義	山崎
8	在宅酸素療法（HOT）について述べるができる。	1. 在宅酸素療法とは何か 2. 健康保険によるHOTの適応基準 3. HOTを用いる在宅療養者への在宅看護	講義	山崎
9	在宅人工呼吸療法（MVH）と排痰法について述べるができる。	1. 在宅人工呼吸療法とは何か 2. 在宅人工呼吸療法の適応条件 3. 在宅人工呼吸療法を行う療養者への在宅看護 4. 排痰に関する在宅看護技術	講義	山崎
回	目標	学習内容	方法	担当
10	外来がん治療の支援について述べるができる。	1. 外来がん治療支援の基本 2. 外来がん薬物療法を受ける療養者の支援 3. 外来がん放射線治療を受ける療養者の支援	講義	山崎
11	在宅における疼痛緩和ケアについて述べるができる	1. 痛みの理解 2. 疼痛緩和ケアの適応 3. 疼痛緩和ケアを受ける療養者への在宅看護	講義	山崎
12	脳卒中をおこした患者の事例を通して、在宅療養導入についての一連の流れについて述べるができる	1. 療養者について情報 2. リハビリテーション病院からの退院計画 3. 在宅療養の開始	講義	山崎
13	パーキンソン病の療養者に対する事例展開を考えることができる	1. 療養者について情報 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 実施経過と評価	講義	山崎
14	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開を考えることができる	1. 療養者について情報 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 実施経過と評価	講義	山崎
15	COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開を考えることができる	1. 療養者について情報 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 実施経過と評価	講義	山崎
受講上の注意		関連科目		
<ul style="list-style-type: none"> 能動的な講義形式である。 積極的な姿勢で講義に臨むこと。 		解剖生理学、病態論、心理学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、基礎看護技術		
事前および事後学習				
<ol style="list-style-type: none"> 事前学習：解剖生理学、病態論等の既習内容については復習をしておくこと。 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。 				
成績評価の方法				
平常点10% 提出物10% 筆記試験80%				
教科書・参考書・その他の教材				
教科書				
<ul style="list-style-type: none"> 医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学概論	1年後期	1	30	長 小夜香（看護師として10年）

科目のねらい

成人期にある対象と家族の特徴を理解するとともに、成人を取り巻く社会や保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉制度の動向などを踏まえたうえで、対象と家族に必要な看護のアプローチの理論や方法を学習し、この後学習する成人看護学の科目に共通の基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を把握し、対象の特徴を総合的に理解する。
2. 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進するために必要な看護の役割を理解する。
3. 成人期にある人々の様々な価値観、個性及び社会的存在に関心を深め、成人期における看護の特徴を理解する。

DPとの関連

◎2. 人を尊重し、思いやりの心を持って行動することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	成人の定義、青年期の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる	成人看護学を学ぶ目的と意義、「成人」の定義、成人期の区分と各期の特徴、発達課題について（青年期）	講義	長
2	壮年期・向老期の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。	成人期の区分と各期の特徴、発達課題について（壮年期・向老期）	講義	長
3	エリクソン、ハヴィガーストの理論を適応することができる。	事例演習（青年期・壮年期）を通して、理論を適応しGWをする	講義	長
4	成人保健に関する衛生統計を比較することができる。①	成人保健の動向として、総人口、年齢別人口、将来推計人口、世帯構成・世帯数について知ることができる。	講義	長
5	成人保険に関する衛生統計を比較することができる。②	成人の保険の傾向をとらえ、死亡の動向、有訴者の状況・通院者の状況、受療率、入院期間について知ることができる	講義	長
6	現代の成人の生活習慣と健康日本21を関連づけて述べることができる①	成人の生活習慣の傾向をとらえ、健康障害との関連について生活習慣病の予防に関する保健医療政策（健康日本21/第2次）について	講義	長
7			講義	長
8	生活習慣病の予防と対策（特定健康診査・特定保健指導・がん対策等）を述べることができる	成人と生活習慣と健康問題の関連について生活と健康を守る保健・医療・福祉システムについてがん対策基本法について	講義	長
9	職業に起因する健康障害、ストレスの関連する健康障害について述べることができる。	職業と健康問題、社会的な問題について。ストレスの定義、ストレスに関する健康障害、ストレスコーピングについて	講義	長
10	ヘルスプロモーション、保健信念モデル理論について理解する。	ヘルスプロモーションの定義、施策の変遷、予防の概念について成人の健康行動を促進する、成人の教育理論（アンドラゴジー）について	講義	長

11	生体侵襲理論を適応させ、急性期状態にある対象の状態を説明することができる	生体侵襲理論とは、侵襲的治療を受ける患者の看護について	講義	長
12	ストレスコーピング理論、フィンクスの危機モデルを適応させることができる	急性期の対象の心理的側面を理解を深め、看護援助の方向性について	講義	長
13	生活機能障害を有する対象、慢性的な経過をたどる対象の状態を説明することができる。	障害を持ちながらの生活とリハビリテーションについて 障害受容、家族・患者への支援について	講義	長
14	エンパワメント、自己決定への支援について述べるができる。	自己効力理論を事例に適応させることができる 慢性的揺らぎの再調整を促す看護、慢性病患者への看護について	講義	長
15	成人期における最期を支える看護について述べるができる	最期の時を迎える人々を取り巻く環境についてと、その家族についての看護について	講義	長
受講上の注意		関連科目		
積極的な姿勢で講義に臨むこと。 レポート等の課題提出は、提出期限を守る。		心理学・公衆衛生		
事前および事後学習				
指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 当日の内容については配布するプリントを読んで復習する。				
成績評価の方法				
出席状況、授業態度、課題レポート、定期試験で総合的に判断する。				
教科書・参考書・その他の教材				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]』（医学書院）				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論 I	1年後期	1	30	今田 幸子（看護師として25年） 永山 裕範（看護師として4年）
科目のねらい				
脳神経機能障害・運動機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、早期からの機能訓練を意識した看護を学ぶ。				
到達目標				
1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。 2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。 3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。 4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。 5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	脳・神経疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	脳・神経機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	今田
2	検査・治療を受ける患者の看護について述べるができる	脳・神経機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護（脳血管造影、意識・麻痺レベルの観察）	講義	今田
3	脳・神経疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べるができる。	脳・神経機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①（運動麻痺、嚥下障害）	講義	今田
4		脳・神経機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護②（言語障害、失行・失認、高次機能障害）	講義	今田
5	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べるができる。	脳・神経機能障害のある患者の看護(5) 疾患を持つ患者の看護①（脳卒中）	講義	今田
6		脳・神経機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護②（頭部外傷、腫瘍）	講義	今田
7	手術を受ける患者の看護を理解し、援助方法を述べるができる	脳・神経機能障害のある患者の看護(7) 手術を受ける患者の看護（脳動脈瘤、出血、脳梗塞）	講義	今田
8	運動器疾患患者の特徴と看護の役割を述べるができる	運動機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	永山
9	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	運動機能障害のある患者の看護(2) 検査に伴う看護（ミエログラフィ・アルトログラフィー）	講義	永山
10		運動機能障害のある患者の看護(3) 治療・処置に伴う看護（薬物療法、ギプス固定、牽引療法）	講義	永山

11	運動器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べる	運動機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護① (神経麻痺・循環障害とフォルクマン拘縮)	講義	永山
12	運動機能障害のある患者の看護(5) 主要症状に対する看護②(疼痛・出血・深部静脈血栓・褥瘡)	運動機能障害のある患者の看護(5) 主要症状に対する看護②(疼痛・出血・深部静脈血栓・褥瘡)	講義	永山
13	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べる	運動機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護(変形性股関節症、椎間板ヘルニア、骨折)	講義	永山
14	日常生活援助のための基本的技術を理解することができる	運動機能障害のある患者の看護(7) 援助のための知識・技術(日常生活援助、良肢位、排泄管理)	講義	永山
15	手術を受ける患者の看護を理解し、援助方法を述べる	運動機能障害のある患者の看護(8) 手術を受ける患者の看護(大腿骨頸部骨折)	講義	永山
受講上の注意		関連科目		
解剖生理や専門基礎分野で学習した機能障害の知識と共に、専門分野Ⅰで学習した日常生活援助技術を復習して講義に臨む。		解剖生理学Ⅰ 病理学 薬理学 治療論 病態論Ⅰ 臨床看護総論 看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 診療補助技術Ⅰ・Ⅱ		
事前および事後学習				
指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 当日の内容については配布プリントを読んで復習をする。				
成績評価の方法				
終講試験(90%) 小テスト, 授業態度, 出席状況(10%)				
教科書・参考書・その他の教材				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]、[7]』(医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅱ	2年前期	1	30	近藤 和治（看護師として18年） 栗木 公孝（看護師として21年）
科目のねらい				
呼吸・循環機能障害は、発症直後の救命処置から、再発予防や生活の再構築が目指せるようサポートが必要であることを理解し、呼吸機能障害・循環機能障害に対する検査・治療・処置に伴う看護を学ぶ。				
到達目標				
1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。 2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。 3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。 4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。 5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	呼吸器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	呼吸機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	近藤
2	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	呼吸機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護（気管支鏡・胸腔穿刺・胸腔ドレナージ）	講義	近藤
3	呼吸器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べる ことができる。	呼吸機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①（咳嗽・喀痰・血痰・咯血）	講義	近藤
4		呼吸機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護②（胸痛・呼吸困難・チアノーゼ）	講義	近藤
5	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べる ことができる。	呼吸機能障害のある患者の看護(5) 疾患を持つ患者の看護①（肺がん・気胸）	講義	近藤
6		呼吸機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護②（COPD・気管支喘息・肺炎慢性呼吸不全）	講義	近藤
7			講義	近藤
8	循環器疾患患者の特徴と看護の役割を述べる ことができる	循環機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	栗木
9	検査治療を受ける患者の看護を 理解することができる	循環機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護①（心電図・心臓カテーテル）	講義	栗木
10		循環機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護②（薬物療法時の看護と指導）	講義	栗木

11	循環器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べる ことができる。	循環機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①(胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難)	講義	栗木
12		循環機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護②(チアノーゼ・倦怠感・失神)	講義	栗木
13		循環機能障害のある患者の看護(1) 疾患をもつ患者の看護①(虚血性心疾患)	講義	栗木
14	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べる ことができる。	循環機能障害のある患者の看護(2) 疾患を持つ患者の看護②(解離性大動脈)	講義	栗木
15		循環機能障害のある患者の看護(3) 疾患を持つ患者の看護③(心不全)	講義	栗木
受講上の注意		関連科目		
1年次の解剖生理学、病理学、病態論、検査と治療とリハビリテーションで学習した内容の復習、関連づけをしながら授業を受けること。		解剖生理学Ⅰ 病理学 微生物学 薬理学 治療論 病態論Ⅱ 臨床看護総論 看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 診療補助技術Ⅰ・Ⅱ		
事前および事後学習				
指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 当日の内容については配布プリントを読んで復習をする。				
成績評価の方法				
終講試験(90%) 小テスト, 授業態度, 出席状況(10%)				
教科書・参考書・その他の教材				
『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院) 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]、[3]』(医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅲ	2年前期	1	30	渡壁 忍 (看護師として7年) 内川 恵美 (看護師として29年)

科目のねらい

消化機能障害・内分泌代謝機能障害は生涯にわたり運動療法や薬物療法など生活の管理を余儀なくされることを理解し、症状・検査・治療・処置に対する看護を学ぶ。

到達目標

1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。
2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。
3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。
4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。
5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。

DPとの関連

◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	消化器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	消化機能障害のある患者の看護 (1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	渡壁
2	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	消化機能障害のある患者の看護 (2) 検査・治療に伴う看護 (超音波検査、内視鏡検査、肝生検、造影検査)	講義	渡壁
3	消化器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べる ことができる	消化機能障害のある患者の看護 (3) 主要症状に対する患者の看護① (嚥下困難、おくび・胸やけ、吐き気・嘔吐、腹痛)	講義	渡壁
4		消化機能障害のある患者の看護 (4) 主要症状に対する患者の看護② (吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満)	講義	渡壁
5	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べる ことができる	消化機能障害のある患者の看護 (5) 疾患に対する患者の看護① (胃がん、大腸がん)	講義	渡壁
6		消化機能障害のある患者の看護 (6) 疾患に対する患者の看護② (クローン病、潰瘍性大腸炎)	講義	渡壁
7		消化機能障害のある患者の看護 (7) 疾患に対する患者の看護③ (膵炎、慢性肝炎、肝硬変)		
8	内分泌・代謝疾患患者の特徴と看護の役割を述べる ことができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	内川
9	検査・治療を受ける患者の看護 を理解することができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (2) 検査・治療に伴う看護 (内分泌疾患の検査・代謝疾患の検査)	講義	内川
10	内分泌・代謝疾患における症状の観察とアセスメントを学び、 対象に対する具体的援助方法を 述べる ことができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (3) 主要症状に対する患者の看護① (体重の変化、容貌、神経・筋)	講義	内川
11		内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (4) 主要症状に対する患者の看護② (循環器、消化器、皮膚)	講義	内川

12	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (5) 疾患に対する患者の看護① (甲状腺疾患、糖尿病)	講義	内川
13		内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (6) 疾患に対する患者の看護② (2型糖尿病患者の事例を通しての教育的指導について, 個人ワーク、グループワーク)	講義	内川
14		内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 (7) (8) 疾患に対する患者の看護③ (2型糖尿病患者の事例を通しての教育的指導について, グループワーク)	講義	内川
15			講義	内川
受講上の注意		関連科目		
解剖生理や専門基礎分野で学習した機能障害の知識と共に、専門分野 I で学習した日常生活援助技術を復習して講義に臨むこと。		解剖生理学Ⅱ 病理学 微生物学 薬理学 治療論 病態論Ⅲ 臨床看護総論 看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 診療補助技術Ⅰ・Ⅱ		
事前および事後学習				
指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 当日の内容については配布プリントを読んで復習する。				
成績評価の方法				
出席状況・授業態度、定期試験の結果など合わせて総合的に判断する。				
教科書・参考書・その他の教材				
系統看護学講座 消化器 (成人看護学⑤) 医学書院 系統看護学講座 内分泌・代謝 (成人看護学⑥) 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅳ	2年前期	1	30	熊谷 恵（看護師として6年） 西元 彩（看護師として4年）

科目のねらい

腎、泌尿器・排泄機能障害がライフスタイルの変更や長期化する治療経過をたどる特徴を持つことを理解し、検査・治療・処置に対する看護を学ぶ。

到達目標

1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。
2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。
3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。
4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。
5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。

DPとの関連

◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	腎・泌尿器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	排泄機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	熊谷
2	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	排泄機能障害のある患者の看護(2) 検査に伴う看護 (尿検査・経尿道的操作および内視鏡検査・尿流動検査)	講義	熊谷
3	腎・泌尿器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	排泄機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護① (尿の異常・排尿関連症状・浮腫・脱水・循環器系の異常尿毒症・疼痛・腫脹・腫瘤)	講義	熊谷
4	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べるができる。	排泄機能障害のある患者の看護(4) 疾患を持つ患者の看護①(腎不全・AKI・CDK)	講義	熊谷
5		排泄機能障害のある患者の看護(5) 治療に伴う看護(透析療法を受ける患者の看護)	講義	熊谷
6		排泄機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護②(膀胱腫瘍・前立腺がん)	講義	熊谷
7		排泄機能障害のある患者の看護(8) 疾患を持つ患者の看護③(過活動膀胱・腹圧性尿失禁)	講義	熊谷
8	血液・造血器疾患患者の特徴と看護の役割を述べるができる	血液・造血器機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	西元
9	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	血液・造血器機能障害のある患者の看護(2) 検査に伴う看護(末梢血検査・骨髄穿刺・リンパ節生検)	講義	西元
10	血液・造血器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べるができる。	血液・造血器機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①(貧血・発熱・出血傾向)	講義	西元

11	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	血系・造血器機能障害のある患者の看護(4) 疾患を持つ患者の看護①(白血病・悪性リンパ腫) 治療に伴う看護(薬物療法・放射線療法)	講義	西元
12	自己免疫疾患患者の特徴と看護の役割を述べるができる	自己免疫疾患のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	西元
13	主な疾患をもつ患者の看護を述べるができる。	自己免疫疾患のある患者の看護(1) 疾患をもつ患者の看護① (関節リウマチ・全身性エリテマトーデス)	講義	西元
14		自己免疫疾患のある患者の看護(2) 治療に対する看護(薬物療法・免疫療法)	講義	西元
15	まとめ			西元

受講上の注意

1年次の解剖生理学、病理学、病態論、検査と治療とリハビリテーションで学習した内容の復習、関連づけをしながら授業を受けること。

関連科目

解剖生理学Ⅱ 病理学 薬理学 治療論 病態論Ⅳ・Ⅴ
臨床看護総論 看護基本技術Ⅱ
生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 診療補助技術Ⅰ・Ⅱ

事前および事後学習

事前および事後学習

指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

成績評価の方法

終講試験(90%)

小テスト, 授業態度, 出席状況(10%)

教科書・参考書・その他の教材

『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論』(医学書院)

『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院)

『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院)

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]、[3]』(医学書院)

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅴ	2年後期	1	15	長 小夜香（看護師として10年）
科目 慢性疾患によって長期コントロールが必要な人に対して、教育的指導を主とした看護が実践に結び付くように、臨床判断能力を高められる事例展開を行う。				
到達目標 1. 慢性期に必要なアセスメントの視点を持ち、看護過程の展開ができる 2. 慢性期疾患をもつ患者のセルフマネジメントを支援する看護について理解することができる				
DPとの関連 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護過程の展開ができる	看護過程の展開① 事例の情報をゴードンの機能的健康パターンの枠組みに整理し、記述できる	個人ワーク	長
2		看護過程の展開② アセスメントの視点に沿った情報の整理・情報の解釈・分析の記述できる	講義 個人ワーク	長
3		看護過程の展開③ 関連図、看護診断が記述できる 看護診断の優先順位の検討、根拠の記述ができる	グループワーク	長
4		看護過程の展開④ 看護計画の立案ができる 実現可能な看護目標の検討と記述ができる	グループワーク	長
5		看護過程の展開⑤ セルフマネジメントを支援する教育内容が抽出できる 教育指導案の作成ができる	グループワーク	長
6		看護過程の展開⑥ 教育指導の準備ができる	グループワーク	長
7	まとめ	発表会① 関連図、看護診断の優先順位および経過を発表できる 教育指導が実施できる	発表会	長
8				
受講上の注意 積極的な姿勢で学習に取り組むこと			関連科目 専門基礎科目全科 看護基本技術Ⅱ・Ⅲ 臨床看護総論 地域・在宅看護論 他	
事前および事後学習 既習学習内容については、すべて事前学習し望む				
成績評価の方法 所定の評価表を用いて評価する				
教科書・参考書・その他の教材 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論』（医学書院） 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ』（医学書院） ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ） 看護診断ハンドブック（医学書院） 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 関連疾患によるもの』（医学書院）				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学概論	1年後期	1	30	中村宏子（看護師として 年）
科目のねらい 老年期の特徴を踏まえ、高齢者看護の概念及びその基盤となる超高齢社会の現況を理解する。				
到達目標 1. 老年期にある対象の加齢に伴う身体的、精神的、社会的側面の変化について理解できる。 2. 高齢者の健康な生活を守るまざまな保健・医療・福祉制度が理解できる。 3. 老年看護学の概念や看護の役割について理解できる。				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ②2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	自己の老年観を表現できる。 老年看護の変遷について理解できる。	1. 老年看護を学ぶ入り口…老いのイメージ 2. 老年期とは…高齢者の定義、ライフステージ 3. 老年看護の変遷	講義	中村
2	加齢に伴う心理的側面と社会的側面の変化について述べるができる。	1. 加齢に伴う心理的側面の変化…知能、人格、創造性 2. 加齢に伴う社会的側面の変化	講義	中村
3	加齢に伴う心理的側面と社会的側面の変化について述べるができる。	1. 老いを生きるということ…老年期の発達課題、スピリチュアリティ、健康と生活	講義	中村
4 5	高齢者疑似体験をとおして、老年の加齢変化を説明することができる。	1. 加齢による身体的変化を知る…老人疑似体験	演習	中村
6 7 8 9	高齢者の系統別器官における加齢変化について考え、共有し、プレゼンテーションすることができる	1. 加齢と老化 2. 老化に関する学説 3. 生理的老化と病的老化 4. 加齢に伴う身体的側面の変化…4つの力の変化 5. 各器官における加齢変化	ジグソー学習 プレゼンテーション	中村
10	高齢者を取り巻く社会の変化と今後の動向について述べるができる。	1. 超高齢社会の統計的輪郭 ①超高齢社会の現況 ②高齢者と家族	グループワーク 発表	中村
11	高齢者と家族、健康状態、暮らしについて述べるができる。	③高齢者の健康状態 ④高齢者の死亡 ⑤高齢者の暮らし		
12	高齢者と介護保険制度について述べるができる。	1. 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 2. 高齢者を支える多職種連携と看護活動	講義	中村
13 14	高齢者の権利擁護と倫理的課題について考えることができる。	1. 高齢者の権利擁護 ①高齢者に対するスティグマと差別 ②高齢者虐待 ③身体拘束 ④権利擁護のための制度	グループワーク 発表	中村
15	老年看護学の定義と主要な概念について考えることができる。 高齢者の生活を支える老年看護学の役割と責務について説明できる。	1. 老年看護の主要な概念 2. 老年看護の役割 3. 老年看護に携わるものの責務 4. 老年看護における理論	講義	中村

受講上の注意

- ・能動的な講義形式であり、協同学習を取り入れるため積極的な姿勢で臨むこと。

関連科目

解剖生理学 関係法規 社会保障論 心理学 基礎看護学概論

事前および事後学習

1. 事前課題およびグループ課題は期日を守り取り組むこと

成績評価の方法

平常点10% 提出物10% 筆記試験80%

教科書・参考書・その他の教材

1. 系統看護学講座 老年看護学(医学書院)
2. 老年看護 病態・疾患論(医学書院)
3. 国民衛生の動向

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学方法論 I	2年前期	1	30	原 智恵子 (看護師として30年)
科目のねらい				
<p>老年期の対象は、生理的老化や疾病の後遺症などによる何らかの障害を持ちながら生活している。対象がもてる能力を最大限に生かし、より健康に自立した生活を送るための援助の方法を学ぶ。</p>				
到達目標				
<p>1. 老年期にある対象へのヘルスアセスメントを行う視点と留意点を理解できる 2. 高齢者の生活機能を整える基本的な援助技術を理解する 3. 認知症のある方が生きる世界を想像し、その人らしさを大切にす看護について考えることができる 4. 高齢者の生活の質を高めるためのレクリエーションを企画・実践することができる (パフォーマンス課題)</p>				
DPとの関連				
<p>1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 4.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。</p>				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	高齢者のヘルスアセスメントの基本について述べる事ができる 老年看護技術の考え方について理解できる	1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化 (想起) 2. ヘルスアセスメントとは ①身体的健康のアセスメント(フィジカルアセスメント・バイタルサイン・栄養評価・検査) ②生活の自立状態のアセスメント ③心理・社会的健康のアセスメント④環境のアセスメント ⑤生活史のアセスメント 3. 高齢者総合機能評価	講義	原
3	高齢者の日常生活を支える基本動作について理解できる 基本動作に伴う転倒リスク要因について述べる事ができる	1. 日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメント 2. 転倒のアセスメントと看護	講義	原
4	高齢者の食生活・摂食嚥下障害について理解できる	1. 高齢者における食生活の意義・特徴的な変調 2. 高齢者の食生活、摂食嚥下機能、栄養状態のアセスメント 3. 高齢者の食生活の援助	講義	原
5	高齢者の排泄・排泄障害について理解できる	1. 高齢者における排泄の意義・特徴的な変調 2. 高齢者の排尿障害、排便障害のアセスメント 3. 高齢者の排泄ケアの基本と排泄ケア	講義	原
6	高齢者の清潔・身じたくについて理解できる	1. 高齢者における清潔の意義・高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 2. 高齢者の清潔・身じたくのアセスメント 3. 高齢者の清潔・身じたくの援助	講義	原
7	高齢者の生活リズム(運動・休息)について理解できる	1. 高齢者の生活リズム、特徴的な変調 2. 生活リズムのアセスメント 3. 生活リズムを整える看護	講義	原
8	高齢者のコミュニケーションについて理解できる	1. 高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 2. コミュニケーション能力のアセスメント 3. 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	原
9 10 11	認知症の高齢者とのコミュニケーションやかかわり方を学びその人らしさを大切にす看護について考える事ができる	1. 認知症の基礎知識 (事前課題) 2. 認知症看護の原則 3. 認知症高齢者とのコミュニケーション方法	講義 GW	原
12 13 14	高齢者の生活の質を高めるためのレクリエーションの企画と実施	1. 認知症について理解しよう 2. 認知症高齢者が参加したくなるようなレクリエーションを企画・実践しよう	演習 パフォーマンス課題	原

受講上の注意 関連科目を復習して臨むこと	関連科目 解剖生理学 病態論 基礎看護学概論 臨床看護総論 成人看護論 老年看護概論 基礎看護学実習
事前および事後学習 1. 事前課題やグループ課題に積極的に取り組み、全ての学習は老年看護学実習に繋げる 2. リクリエーションは老年看護学実習Ⅱで行えるよう修正・追加する	
成績評価の方法 平常点10% 課題など提出物10% 筆記試験80%	
教科書・参考書・その他の教材 1. 系統看護学講座 老年看護学(医学書院) 2. 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 3. 生活機能から見た老年看護過程 (医学書院)	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学方法論Ⅱ	2年後期	1	30	中村 宏子（看護師として29年）

科目のねらい

高齢者に特有の症状や老年期の多い疾患を中心に個々の対象の状態、能力に応じた看護を展開するためのアセスメントおよび援助について理解する。また、老年期にあるすべての人が人生の終焉までその人らしく生きることを支援する看護を学ぶ。

到達目標

1. 加齢に伴う心身の変化や様々な健康問題を持つ高齢者への看護を深める。
2. 高齢者に特徴的な疾患や症状について理解できる。
3. 老年期のアセスメント過程と留意点について理解できる
4. 対象が望む生活や状態像を見据えた看護過程の考え方が理解できる

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
- ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	高齢者の健康障害の臨床的特徴および老年期に多い疾患について理解できる	1. 老年期の多い病態（罹患しやすい疾患） 2. 老年期の疾患の現れ方・経過の特徴（成人期との相違点） 3. フレイル・廃用症候群（方法論Ⅰ）・老年症候群 4. 高齢者に多くみられる症候：個人ワークシート（老年看護学実習の事前学習に繋ぐ）	講義	中村
2 3 4	治療を受ける高齢者の看護	*加齢変化、病態生理と症状のメカニズム、治療、看護のつながりが考えられるように学習する（病態関連図） 1) 高齢者に起こりやすい疾病の病態生理と症状のメカニズムについて、加齢の影響も含めた説明ができる。 2) 加齢の影響も含めて治療に伴う合併症や二次的障害リスクを明らかにする。 3) 疾病の経過（急性期から慢性期へ）に応じた支援について、高齢者の生活行動に対する影響を中心に必要な看護を明らかにする。	講義 グループ学習	中村
5 6	グループ学習の発表			
7	治療を受ける高齢者の看護	1. 薬物療法を受ける高齢者の看護 2. 手術療法を受ける高齢者の看護 3. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義	
8	穏やかな死を迎えるための看護について考える	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生ききる」ことを支えるケア 3. 意思決定への支援	講義	中村
9 10 11	老年看護過程 大腿骨頸部骨折の患者 （手術を受ける高齢者の看護）	1) 老年看護の展開における考え方（生活機能から見た老年看護過程P vi） ①生活行動モデルによる看護過程 ②目標志向型思考への転換 2) 事例展開	講義/GW	中村
12 13 14	大腿骨頸部骨折の患者（手術後）の援助の実践	1. 事例をもとにシミュレーション 2. 高齢者の足の健康を維持するためのフットケア	シミュレーション 演習	中村

受講上の注意 グループでの演習が多い科目です。個人個人が責任をもって事前学習し参画すること	関連科目 解剖生理学 病態論 基礎看護学概論 臨床看護総論 基礎看護技術 成人看護論 老年看護概論 基礎看護学実習
事前および事後学習 1. 事前課題やグループ課題に積極的に取り組み、全ての学習は老年看護学実習に繋げる 2. 老年看護学実習Ⅲで活用できるよう看護過程の考え方は理解しておく	
成績評価の方法 終講試験70%、平常点10%（出欠、GW参加態度、提出期限） 提出物20%（ワークシート、看護過程）	
教科書・参考書・その他の教材 1. 系統看護学講座 老年看護学(医学書院) 2. 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 3. 生活機能から見た老年看護過程 (医学書院)	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
口腔健康援助論 (口腔ケア・嚥下障害)	2年前期	1	15	栴屋 博子 (歯科衛生士として33年) 原 智恵子 (看護師として30年)
科目のねらい				
科学的根拠をもった口腔ケアの実践につながる基礎的知識・技術を理解する				
到達目標				
1. 口腔健康科学論の学びに基づいた口腔ケアの基本的知識と技術が理解できる 2. 発達段階や状態に応じた口腔ケアについて理解できる				
DPとの関連				
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識、技術を習得し看護実践ができる。 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解する				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	口腔ケアとはについて説明できる	1. 口腔ケアとは 2. 口腔ケアの意義・重要性	講義	栴屋
2	口腔ケアの基本的な流れが理解できる	1. 口腔ケアの基本的な流れ ①アセスメント ②計画・実践・評価	講義	栴屋
3	口腔ケアに必要な物品や方法を理解できる	1. 口腔ケア実際 ①口腔ケアに用いる物品 ②口腔ケアの方法	講義	栴屋
4	発達段階や状態に応じた口腔ケアについて理解できる	1. 年代別の口腔ケア ①出生前期～思春期 ②成人期～壮年期 ③老年期 ・オーラルフレイル ・誤嚥性肺炎予防 ・義歯の取り扱い・管理	講義	栴屋
5	口腔ケアの基本的知識をもとに口腔ケアの実践を体験できる	2. 患者の状態に応じた口腔ケア 1) 施設や在宅における事例より ①意識障害 (開口障害) のある患者 ②麻痺のある患者 ③認知症の患者 ④知的障害の有る患者 ⑤免疫機能が低下している患者	講義 演習	栴屋
6				
7				
8		2) 医療・病院における事例より ①気管内挿管・気管切開のある患者 ②人工呼吸器装着した患者	講義	原

<p>受講上の注意</p> <p>プレテスト、ポストテストを実施し成績評価に反映する。演習が中心である。技術を習得するために積極的な姿勢で臨むこと。</p>	<p>関連科目</p> <p>生活援助技術Ⅲ 口腔健康科学論 成人看護学（脳神経） 成人看護学（耳鼻咽喉） 老年看護学 在宅看護論</p>
<p>事前および事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な時間：30時間 2. 事前学習：生活援助技術Ⅲ、口腔健康科学論で既習した内容を予習しておくこと。 3. 事後学習：老年看護学実習Ⅰにつながる科目であることを念頭に組み込む 	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験 演習</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学（歯・口腔） 2. 基礎看護学技術Ⅱ 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学概論	2年前期	1	30	東尾 詩子 (看護師として 年、助産師として 年)
科目のねらい				
子どものライフサイクルから見た各期の特徴を理解し、成長・発達について形態的・機能的・精神運動的発達を理解する。また、子どもを取り巻く社会状況を理解し、子どもの権利を尊重した「小児看護の役割」を理解する。				
到達目標				
1. 小児看護の特徴、子どもの成長・発達、健康増進のための看護について理解できる。 2. 子どもの人権を守ることに對する基本的態度が理解できる。				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に對し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 小児看護の対象である子どもの発達段階と小児看護の目標について理解できる	1. ガイダンス 2. 子どもとは 3. 子どもの発達段階 4. 小児看護の対象と目標、役割	講義	東尾
2	1. 子どもを取り巻く社会環境や小児看護の特徴を理解できる	1. 子どもと家族の諸統計 2. 現代の小児看護と課題 3. 小児看護における倫理	講義	東尾
3		1. テーマに基づいて、子どもの権利について考える	グループワーク	
4	1. 子どもにとっての家族、家族の特徴について理解できる	1. 家族とは 2. 子どもと家族の特徴 3. 家族のアセスメント	講義	東尾
5	1. 子どもと家族の健康に関する法律について理解する。	1. 児童福祉に関する法律 2. 母子保健に関する法律 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健に関する法律	講義 グループワーク	東尾
6	1. 子どもの成長・発達の特徴について理解できる	1. 子どものイメージの共有 2. 成長発達理論 3. 成長・発達を学ぶ意義 4. 一般的原則 5. 成長・発達に影響する因子 6. 成長・発達の評価	講義	東尾
7	1. 子どもの栄養について理解できる	1. 子どもにとっての栄養の意義 2. 乳幼児期の栄養	講義	東尾
8	1. 子どもにとっての遊びの意義について理解できる	1. 子どもにとっての遊びとは 2. 小児各期の遊びの特徴	講義	東尾

9 10 11 12 13	1. 子ども各期の成長・発達が理解できる	1. 各期の子どもの形態的成長・発達の特徴 2. 機能的発達の特徴 3. 心理・社会的発達 4. セルフケアの発達	プロジェクト学習 成果発表	東尾
14	1. 子どもの日常生活と援助について理解できる	1. 基本的な生活習慣の獲得 ①排泄 ②睡眠 ③衣服の着脱 ④清潔など	講義 グループ ワーク	東尾
15	1. 子どもとその家族を取り巻く諸問題	児童虐待、いじめ、不登校、育児不安など	講義	東尾

受講上の注意

- ・能動的な講義形式とプロジェクト学習で構成する。
- ・プロジェクト学習の詳細は講義のなかでガイダンスする。
- ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。
- ・各講義前に、前回講義のプレテスト、ポストテストを実施し知識定着の確認を行う。

関連科目

解剖生理学
公衆衛生学
看護学

母性

事前および事後学習

講義内容の予習・復習を行う。

成績評価の方法

筆記試験60% プロジェクト学習（ルーブリックで評価）30% 受講態度・出席状況10%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院

参考書

1. ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学方法論 I	2 年前期	1	15	田中聡子 (医師として22年) 高林明 (医師として29年)
科目のねらい				
子どもに起こりやすい疾患を系統別・病態別に分類し、各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する				
到達目標				
1. 子どもにみられる各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心を持って行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	染色体異常・先天性疾患、低出生体重児の疾患について理解できる。	常染色体異常、性染色体異常、胎芽病・胎児病 新生児（出血性疾患、頭蓋内出血他） 低出生体重児（呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症他）	講義	田中
2	子どもに多い消化器疾患、内分泌代謝疾患について理解できる	便秘症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、虫垂炎、感染性胃腸炎、胆道閉鎖症、鎖肛 新生児マススクリーニング、糖尿病、下垂体疾患（低身長・中枢性尿崩症）、甲状腺疾患	講義	田中
3	悪性新生物と血液・造血疾患について理解できる	神経芽腫、ウィルムス腫瘍、網膜芽細胞腫、脳腫瘍、貧血、白血病	講義	田中
4	子どもに多い腎・泌尿器疾患について理解できる	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、Ig A腎症、先天性尿路奇形（水腎症・膀胱尿管逆流症）、腹膜透析、尿路感染症	講義	田中
5	子どもに多い呼吸器疾患、感染症について理解できる	上気道炎、気管支炎、肺炎、細気管支炎、気管支喘息、クループ症候群 ウイルス感染症（麻疹・風疹・水痘・ヘルペス等） 細菌感染症（百日咳・ブドウ球菌感染症等）	講義	高林
6	子どもに多いアレルギー疾患について理解できる	アレルギー性疾患、食物アレルギー	講義	高林
7	子どもに多い循環器疾患について理解できる	先天性心疾患（ファロー四徴症、心房中隔欠損症） 川崎病等	講義	高林
8	子どもに多い神経障害について理解できる	水頭症、髄膜炎、脳炎、てんかん、発達障害 筋ジストロフィー	講義	高林

受講上の注意 能動的に講義に参加する。	関連科目 解剖生理学 小児看護学概論・小児臨床看護総論
事前および事後学習 講義前に予習し、講義後には復習を行うこと	
成績評価の方法 筆記試験 100%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護学各論 小児看護学② 医学書院 参考書 1. ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学方法論Ⅱ	2年前期	1	30	東尾 詩子 (助産師として20年)

科目のねらい

小児看護学方法論Ⅰで学んだ、主要疾患の看護の理解を通して、子どもと家族の特徴、疾病の経過と症状、アセスメントに必要な技術を知り、それぞれに必要な看護を学ぶ。

到達目標

1. 小児看護の特徴、子どもの成長・発達、健康増進のための看護について理解できる。
2. 子どもの人権を守ることにに対する基本的態度が理解できる。

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
- ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	症状を緩和し、評価するための基礎知識を習得することができる	・不機嫌、低級を示す子どもと家族の看護	協同学習	東尾
2		・発熱のある子どもと家族の看護 ・痛みのある子どもと家族の看護 ・けいれん、音聴障害のある子どもと家族の看護 ・呼吸器症状のある子どもと家族の看護 ・アレルギーのある子どもと家族の看護 ・下痢、脱水を示す子どもと家族の看護		
4	先天異常の疾患を持った子どもの看護を述べるができる	・先天性疾患の子どもと家族の看護 (先天異常の種類と特徴) ・心身障害の子どもと家族の看護	講義 グループ ワーク	東尾
5	代謝性疾患を持った子どもの看護を述べるができる	・1型糖尿病を持つ子どもの看護 など	講義	東尾
6	感染症の子どもと家族の看護を述べるができる	・麻疹の子どもと家族の看護 ・風疹の子どもと家族の看護 ・水痘の子どもと家族の看護 など	講義	東尾
7	呼吸器疾患のある子どもと家族の看護	・急性期疾患の特徴と看護 ・肺炎、気管支炎の子どもと家族の看護 ・気管喘息の子どもと家族の看護	講義	東尾
8	アレルギー疾患のある子どもと家族の看護を述べるができる		講義	東尾
9	循環器疾患のある子どもと家族の看護	・川崎病の子どもと家族の看護 ・ファロー四徴症の子どもと家族の看護	講義	東尾
10	消化器疾患のある子どもと家族の看護を述べるができる	・急性胃腸炎の子どもと家族の看護 ・肥厚性幽門狭窄症の子どもと家族の看護 ・腸重積の子どもと家族の看護	講義	東尾
11	腎・泌尿器疾患のある子どもと家族の看護を述べるができる	・ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 ・急性糸球体腎炎の子どもと家族の看護	講義	東尾
12	事例の看護過程を考えることができる	・看護過程展開の記録用紙を用いて個人ワークを行う ・看護過程の展開を通して必要な問題と援助を考える	講義	東尾
13			グループ ワーク 発表	東尾
14				
15				

受講上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・能動的な講義形式とプロジェクト学習で構成する。 ・プロジェクト学習の詳細は講義のなかでガイダンスする。 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。 ・各講義前に、前回講義のプレテスト、ポストテストを実施し知識定着の確認を行う。 	関連科目 解剖生理学 小 児看護学概論・小児臨床看護総論 小 児看護学方法論Ⅰ・Ⅲ
事前および事後学習 講義前に予習し、講義後には復習を行うこと	
成績評価の方法 筆記試験60% 協同学習・看護過程演習30% 参加態度・出席状況10%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護学各論 小児看護学② 医学書院 参考書 1. ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版 2. 発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学方法論Ⅲ	2年後期	1	30	東尾 詩子 (助産師として20年)

科目のねらい

健康障害のある子どもの事例を通し、子どもと家族に対する看護について学ぶ。子どもの看護に必要な日常生活の援助や看護のために必要な援助を、安全・安楽に行うための技術について、演習を通し実際の援助の理由を深める。また、病気の子どものと家族の思いを考える。

到達目標

1. 健康上の問題を持つ子どもと家族の心理及び対応の方法を理解する
2. 健康上の問題を持つ子どもと家族に対する看護援助の方法を理解する
3. 子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
- ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	外来受診や入院などの状況が子どもと家族に及ぼす影響を知り、必要な看護が理解できる	・小児科外来看護の特徴 ・外来と病棟との連携 ・入院が子どもと家族に及ぼす影響	講義	東尾
2	救急処置が必要な子どもと家族の看護が理解できる	・主な事故、外傷（誤飲・溺水・熱傷）と看護 ・小児救急におけるトリアージと対応 ・虐待が疑われる場合の対応	講義	東尾
3	周手術期の子どもと家族の看護が理解できる	・周手術期の特徴と看護 ・手術を受ける子どもと家族の看護	講義	東尾
4	終末期にある子どもと家族の看護が理解できる	・子どもの死の理解と反応 ・終末期にある子どもと家族の看護	講義	東尾
5	災害時の子どもと家族の看護が理解できる	・災害による子どものストレス	講義	東尾
6	医療ケアが必要な子どもと家族の看護を理解できる	・在宅療養を受ける子どもと家族の特徴 ・専門職による連携と社会資源	講義	東尾
7	子どものフィジカルアセスメントを理解できる	・アセスメントに必要な技術 ・身体的アセスメント	講義	東尾
8	子どもに対する看護技術のための基礎知識を習得することができる①	・子どもに苦痛を与えない看護技術を考える	プロジェクト学習 成果発表	東尾
9				
10				
11	検査・処置を受ける子どもと家族の看護を理解できる	・検査、処置を受ける子どもの看護	講義	東尾
12	子どもに対する看護技術のための基礎知識を習得することができる②	・事例を通して、看護援助を実践する	シミュレーション学習	東尾
13				
14				
15				

<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能動的な講義形式とプロジェクト学習、シュミレーション学習を取り入れる。 ・プロジェクト学習の詳細は講義のなかでガイダンスする。 ・シュミレーション学習では、2つの事例の場面の看護を考える。 ・グループワークではグループダイナミックスを活用し、積極的に臨むこと。 	<p>関連科目</p> <p>基礎看護技術 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学方法論Ⅱ 在宅看護論 災害看護</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>講義前に予習し、講義後には復習、技術に対しては振り返りを行うこと</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>筆記試験50% プロジェクト学習・シュミレーション学習（ルーブリックで評価）40% 参加態度・出席状況10%</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護学各論 小児看護学② 医学書院 <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠と事故防止からみた 小児看護技術 第2版 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学概論	2年前期	1	30	松本 千穂(助産師として16年半)
科目のねらい				
母性看護を概念や歴史的変遷、現在の社会情勢からとらえるとともに、ライフサイクルから見た女性の特徴、健康問題を理解する				
到達目標				
1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる 2. 母性看護を取り巻く社会状況について理解できる 3. 各ライフサイクルにおける女性の健康問題の特徴と看護について理解できる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎ 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3 4	1. 母性看護の基盤となる概念について説明できる	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達 3. セクシャリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 6. 母性看護のあり方 7. 母性看護における倫理	講義	松本
5 6	2. 母性看護の歴史的変遷と社会の現状について説明できる	1. 日本の母性看護の変遷 2. 母性看護に関わる統計指標 3. 母性看護に関連する法律と施策 4. 母性看護の提供システム	講義	松本
7 8	3. 母性看護の対象の特性を説明できる	1. 女性のライフサイクルにおける形態機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族 3. 母性の発達・成熟・継承	講義	松本
9 10	4. ライフサイクルにおける女性の身体変化と健康問題について説明できる	1. 女性の身体機能の変化と健康問題 2. 思春期における健康と看護 3. 成熟期の健康と看護 4. 更年期・老年期の健康と看護	講義	松本
11 ～ 14	5. リプロダクティブヘルスケアに関する主要な健康問題について考え表現できる	1. 家族計画 2. 性感染症と予防: 淋病、梅毒、クラミジア、性器ヘルペス、カンジダ 3. HIV感染した女性の看護 4. 人工妊娠中絶と看護 5. 喫煙と女性の看護 6. 性暴力を受けた女性の看護 7. 児童虐待と看護 7. 在日外国人の母子保健	講義 演習	松本
15	6. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて説明できる	1. 出生前診断とは 2. 出生前診断の実際 3. 不妊とその原因 4. 不妊検査 5. 不妊治療	講義	松本

受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。	関連科目 社会学(家族関係論) 疾病論Ⅴ 母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 母性看護学実習
事前および事後学習 関連科目の既習内容は復習しておく	
成績評価の方法 筆記試験70% 課題レポート30%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学方法論 I	2年前期	1	15	尾崎 麻理(医師として14年) 酒井 枝津子(助産師として38年)
科目のねらい 妊娠・分娩・産褥期までの生理的変化と異常を理解し、看護実践の根拠に関連付けることができる				
到達目標 1. 妊娠・分娩・産褥期の生理的な変化について理解できる 2. 妊娠・分娩・産褥期までの逸脱した状態について理解できる				
DPとの関連 ◎ 2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎ 3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 妊娠期の身体的特性を説明できる	1. 性周期とホルモン 2. 妊娠の生理 2. 胎児の発育とその生理 3. 母体の生理的変化 4. 妊娠の経過と検査	講義	尾崎
2 ・ 3	4. 妊娠期の異常について説明できる	1. 妊娠偶発合併症 心疾患、糖尿病、甲状腺疾患、精神疾患、気管支喘息、腎泌尿器疾患、消化器疾患、血液疾患、婦人科疾患 2. 妊娠疾患：妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠 3. 妊娠持続期間の異常：流産、切迫早産、過期妊娠、過期産 4. 多胎妊娠 5. 異所性妊娠：卵管・卵巣・腹膜・頸管妊娠 6. 妊娠期の感染症：風疹、トキソプラズマ、サイトメガロ、単純ヘルペス水痘、B型肝炎、C型肝炎	講義	尾崎
4	2. 分娩の要素と経過について説明できる	1. 分娩、分娩の3要素 2. 分娩の経過 分娩の進行と産婦の身体的変化 産婦の身体的変化 産痛 分娩が胎児に及ぼす影響	講義	酒井
5	3. 産褥期の身体的変化について説明できる	1. 産褥復古現象 2. 乳房の変化	講義	酒井
6 ・ 7	5. 分娩期の異常について説明できる	1. 産道の異常：COD、狭骨盤 2. 娩出力の異常：微弱陣痛、過強陣痛 3. 胎児異常による分娩障害：巨大児、低出生体重児、骨盤位、回旋異常 4. 胎児付属物異常：前置胎盤、常位胎盤早期剥離、臍帯脱出、羊水過多、羊水混濁 5. 胎児機能不全 6. 分娩時損傷：子宮破裂、頸管裂傷 7. 分娩時異常出血：参加ショック、羊水塞栓症、DIC 8. 産科如臍、会陰切開、吸引分娩、帝王切開	講義	酒井
8	6. 産褥期の異常について説明できる	1. 子宮復古不全 2. 産褥期発熱 乳腺炎 3. 産褥精神障害 マタニティーブルー、うつ病	講義	酒井

受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。	関連科目 疾病論Ⅴ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ
事前および事後学習 関連科目の既習学習は復習しておく	
成績評価の方法 筆記試験100%	
教科書・参考書・その他の教材 教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学方法論Ⅱ	2年前期	1	30	松本 千穂(助産師として16年半)

科目のねらい

周産期にある人の特徴と看護を理解し、看護実践の基盤を身につける

到達目標

1. 妊娠・分娩期における身体的・精神的・社会的変化及び健康問題を理解できる
2. 妊娠・分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を理解できる
3. 妊娠・分娩期にある母子の健康状態を観察・評価するための看護技術を身につけることができる

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
- ◎ 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 妊娠における身体的・精神的・社会的変化を述べるができる	1. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特性(既習) 2) 妊娠期の心理・社会的変化 ・妊婦の心理 ・妊婦と家族及び社会	講義	松本
2 3	2. 妊娠期にある母子の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠とその診断 2) 妊娠期に行う検査と目的 3) 胎児の発育と健康状態の診断 4) 妊娠経過のアセスメント	講義	松本
4 5	3. 妊娠期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べることできる	3. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦が受ける母子保健サービス 2) 妊婦の健康相談・教育の実際 妊娠中の食生活 排泄 清潔 衣生活 活動休息 勤労 性生活 マイナートラブル 3) 親になるための準備教育 出産準備教育 育児準備 家族役割調整	講義	松本
6 7	4. 妊娠期における異常とその援助について述べることができる	4. ハイリスク妊婦の看護 1) 高齢・若年妊婦の看護 2) 肥満・過体重増加妊婦の看護 3) 合併症のある妊婦の看護(心疾患、糖代謝、子宮筋腫) 4) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 5) 切迫流早産妊婦の看護 6) その他の問題のある妊婦の看護	講義	松本
8 9	1. 分娩期における生理的变化を理解し、産婦の看護を述べることができる	1. 分娩期における看護 1) 分娩の3要素と分娩経過(既習) 2) 産婦の心理・社会的変化	講義	松本

10	2. 分娩期にある母子の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 産婦・胎児と家族のアセスメント 1) 産婦と胎児の健康状態 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3) 看護上の問題の明確化	講義	松本
11 12	3. 分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べることできる	3. 産婦と家族の看護 1) 安全・安楽な分娩への援助 2) 肯定的な出産体験への促し 3) 基本的ニーズの充足への援助 4. 分娩期の看護の実際 1) 分娩1期～4期までの看護 2) 無痛分娩	講義	松本
13 14 15	3. 分娩期における異常とその援助について述べることできる	4. 異常のある産婦の看護 1) 破水のある産婦の看護 2) 分娩遷延にある産婦の看護 3) 胎児機能不全のリスクのある産婦の看護 5. 異常分娩時の産婦の看護 1) 弛緩出血 2) 頸管裂傷 3) 膣・会陰血腫 3) 会陰裂傷・会陰切開	講義	松本
演習：妊婦体験。腹囲・子宮底長測定、レオポルド触診法、児心音測定、分娩監視装置の取り扱い、産痛緩和、胎盤計測				
受講上の注意		関連科目		
<ul style="list-style-type: none"> ・プレテスト、ポストテストを実施し、成績評価に反映する。 ・能動的な講義形式である。積極的な姿勢で講義に臨むこと。 				
事前および事後学習				
関連科目の既習学習は復習しておく				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学方法論Ⅲ	2年後期	1	30	松本 千穂(助産師として16年半)
科目のねらい				
周産期にある人の特徴と看護を理解し、看護実践の基盤を身につける				
到達目標				
1. 正常な産褥経過について理解できる 2. 正常な経過をたどる褥婦の看護を理解し、必要な看護技術が実施できる 3. 正常な新生児の経過について理解できる 4. 正常な経過をたどる新生児の看護を理解し、必要な看護技術が実施できる 5. 産褥期と新生児の正常を逸脱した状態と看護について理解できる。				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 産褥期における身体的・精神的・社会的変化を述べることができる	1. 妊娠期における看護 1) 産褥経過(既習) 2) 産褥期の心理・社会的変化 ・褥婦の心理 ・家族の心理的变化	講義 演習	松本
	2. 産褥期にある母体の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の診断 進行性変化 退行性変化 2) 褥婦の健康状態のアセスメント	講義 演習	松本
2 3	3. 妊娠期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べることできる	3. 褥婦と家族の看護 1) 進行性変化への援助 2) 退行性変化への援助 3) 育児にかかわる援助 4. 退院後の生活看護 1) 産後の生活調整 2) 産後の健康診査と子育て支援 3) 職場復帰	講義 演習	松本
4 5	4. 産褥期における異常とその援助について述べることできる	5. 異常のある褥婦の看護 1) 感染症の援助 2) 乳房トラブル 3) 本人・児が健康問題を抱えている場合の援助 4) 育児に困難さを抱える褥婦への援助 6. メンタルヘルスを抱える母親への援助	講義 演習	松本
6	5. 新生児期における生理的变化を理解し、新生児の看護を述べることできる	1. 新生児の生理 1) 新生児とは 2) 新生児の機能	講義 演習	松本
7	6. 新生児の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント	演習	松本

8	7. 新生児期の成長発達を促す看護援助を述べることできる	3. 新生児の看護 1) 出生直後のの援助 2) 出生後から退院までの援助 3) 1か月健診に向けた退院時の看護	講義 演習	松本
9 10	8. 新生児期における異常とその援助について述べることできる	4. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死、 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児とその看護 3) 高ビリルビン血症とその看護	講義	松本
11 ～ 15	8. 周産期の看護過程を通して、計画立案できる	5. 母性看護における看護過程 1) 対象把握 2) 看護問題の明確化 2) 看護計画の立案と実施	演習	松本

演習：新生児のバイタルサイン測定、新生児計測、沐浴、黄疸測定、育児技術、授乳方法、哺乳

受講上の注意

- ・プレテスト、ポストテストを実施し、成績評価に反映する。
- ・能動的な講義形式である。積極的な姿勢で講義に臨むこと。

関連科目

看護基本技術Ⅲ
母性看護学概論
母性看護学方法論Ⅰ
母性看護学方法論Ⅱ

事前および事後学習

関連科目の既習学習は復習しておく

成績評価の方法

筆記試験100%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
精神看護学概論	1年次後期	1	15	磯野 広美（看護師として8年）

科目のねらい

パーソナリティの成長発達に伴うストレスや危機、生活の場におけるこころの問題、精神機能の中のあるところを守る働き、リエゾン精神看護を学び、こころの健康の大切について理解を深める。

精神医療保健福祉については歴史の変遷を学び、精神障がい者を取り巻く社会の動向、法制度、今後の課題を理解する。

到達目標

1. 精神看護の基本概念と目的を学び、対象を理解することができる。
2. 精神医療の歴史の変遷を学び、精神障がい者を取り巻く社会状況について理解できる。

DPとの関連

◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。

3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	精神看護学の基本的考え方が理解できる	精神看護学の基本的考え方 精神看護学の対象	講義	磯野
2	精神医療の動向と課題について理解できる	こころのケアと日本社会（災害と心のケア、自殺の問題とメンタルヘルス	講義	磯野
3		世界的な課題としてのメンタルヘルス、世界から見た日本の精神科医療の課題、精神科医療のニーズと考え方	講義	磯野
4	精神保健の考え方について理解できる	精神の健康とは	講義	磯野
5		心身の健康に及ぼすストレスの影響 ストレス脆弱性とストレス耐性 ストレングスとレジリエンス	講義	磯野
6	精神保健医療の歴史と変遷	欧米、日本の精神保健医療の歴史	講義	磯野
7	精神看護に関連した法制度について理解できる	精神障害者にとっての法律、精神科看護師にとっての法律、精神障害者の保険医療福祉制度（精神保健福祉法、障害者総合支援法）	講義	磯野
8			講義	磯野

受講上の注意

能動的に授業に参加する。

関連科目

心理学、看護者のための心理学
基礎看護学概論、成人看護学概論
老年看護学概論、小児看護学概論
母性看護学概論、精神看護学概論
精神看護学方法論Ⅰ
精神看護学方法論Ⅱ
精神看護学方法論Ⅲ

事前および事後学習

関連科目の既習内容については復習しておく。

成績評価の方法

筆記試験80% 平常点10% レポート提出10%

教科書・参考書・その他の教材

精神看護学①精神看護の基礎（医学書院）

精神看護学②精神看護の展開（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
精神看護学方法論 I	2年次前期	1	15	犬尾 明文（医師として26年）
科目のねらい				
主な精神疾患の症状、検査、診断および治療について理解し、生活への影響について理解する。				
到達目標				
1. 精神疾患の症状と対象を理解するための基本的知識・技術を習得することができる。				
DPとの関連				
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	精神科医療の動向を述べることができる	精神科医療の動向と課題 診断と疾病分類	講義	犬尾
2	統合失調症の発生機序、症状、検査、治療が理解できる	統合失調症の発生機序、症状の分類、病型と症状、検査、治療（薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション）	講義	犬尾
3			講義	犬尾
4	気分障害について理解できる	双極性障害、うつ病の症状と診断基準、治療（薬物療法、精神療法、精神療法、電気けいれん療法）	講義	犬尾
5			講義	犬尾
6	神経症性障害、ストレス関連障害等について理解できる	社交恐怖、広場恐怖、パニック障害、全般性不安障害急性ストレス反応、心的外傷後ストレス障害の症状、治療	講義	犬尾
7	精神作用物質使用による精神および行動の障害が理解できる	アルコール症の症状、治療 薬物依存症、ギャンブル（ゲーム）障害の予防、治療	講義	犬尾
8	パーソナリティ障害について理解できる	パーソナリティ障害の分類、検査、治療	講義	犬尾
受講上の注意		関連科目		
能動的に授業に参加する。		心理学 看護者のための心理学 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学方法論Ⅲ		
事前および事後学習				
関連科目の既習内容については復習しておく。				
成績評価の方法				
筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材				
精神看護学①精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学②精神看護の展開（医学書院）				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
精神看護学方法論Ⅱ	2年次前期	1	30	坂本 勝文（看護師として10年）

科目のねらい

対象の特徴とその状態に応じた看護について学ぶ。特に精神症状や回復過程に応じた援助、薬物療法を受ける対象の援助など、精神看護を展開するための基礎的知識と技術を学ぶ。また、精神障がいをもつ対象が、自立した社会生活を送るために必要な社会資源の活用や精神保健福祉サポートチームや他職種の連携についての理解も深める。

到達目標

1. 精神疾患の症状と対象を理解するための基本的知識・技術を習得することができる。

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

5.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	精神科における看護の役割を説明できる	精神科における観察の意義 治療的環境と看護師の役割	講義	坂本
2	精神科における検査・治療時の看護を理解できる	精神科における検査・治療 (脳波、心理検査、精神療法、電気けいれん療法)	講義	坂本
3	薬物療法を受ける患者の看護を理解する	錐体外路症状 非特異的な副作用（起立性低血圧、月経不順、乳汁漏、肥満など）	講義	坂本
4		薬物療法（内服薬、デポ剤） 薬物の有害反応（悪性症候群、麻痺性イレウス、水中毒、横紋筋融解症、リチウム中毒等）	講義	坂本
5	急性期の対象の特徴に応じた援助を説明できる	統合失調症の事例を通して、急性期の援助を学ぶ 入院形態、行動制限（隔離、身体拘束、代理行為：金銭管理、私物管理）、処遇の基準 幻覚・妄想の看護、興奮状態の看護	講義	坂本
6	回復期の対象の特徴に応じた援助を説明できる	統合失調症の事例を通して、回復期の援助を学ぶ 作業療法、生活療法、認知行動療法、SSTにおける看護	講義	坂本
7	慢性期の対象の特徴に応じた援助を説明できる	統合失調症の事例を通して、慢性期の援助を学ぶ 長期入院患者の看護、無為・好褥、自閉の看護	講義	坂本
8	社会復帰に向けた対象の特徴に応じた援助を説明できる	統合失調症の事例を通して、社会復帰のに向けた援助を学ぶ 社会資源の活用の実際、精神科訪問看護、精神科デイケア、ナイトケア 家族への援助	講義	坂本

9	症状に応じた援助について説明できる	気分（感情）障害患者の事例を通して、急性期、回復期の症状に応じた援助を学ぶ 急性期：抑うつ状態、睡眠障害 回復期：自殺企図	講義	坂本
10		気分（感情）障害患者の事例を通して、創状態の対象の援助を学ぶ	講義	坂本
11		神経症性患者の事例を通して、不安状態、強迫思考・強迫行為のある対象の援助を学ぶ	講義	坂本
12		パーソナリティ障害患者の事例を通して、操作的状態の対象の援助を学ぶ 感情転移	講義	坂本
13		摂食障害患者の事例を通して、対象の状態に応じた援助を学ぶ 拒食・過食、身体面（低栄養、身体合併症）、行動面、精神面の援助	講義	坂本
14	精神作用物質による精神および行動障害のある対象の看護について説明できる	アルコール依存、薬物依存患者の看護 離脱期、回復期の看護 自助グループの活動	講義	坂本
15	精神科で発生しやすい事故の特徴と対応及び防止策を説明できる	精神科で発生しやすい事故の特徴及び対応、防止策 自傷行為、自殺、他害行為、離院、異食、誤嚥、転倒 事故発生時の対応	講義	坂本
受講上の注意		関連科目		
能動的に授業に参加する。		心理学 看護者のための心理学 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅲ 精神看護学実習		
事前および事後学習				
関連科目の既習内容については復習しておく。				
成績評価の方法				
教科書・参考書・その他の教材				
精神看護学①精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学②精神看護の展開（医学書院）				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
精神看護学方法論Ⅲ	2年次 後期	1	30	和田由紀子（看護師として9年6か月） 野口 新介（看護師として5年）

科目のねらい

患者－看護師関係を発展させるため、コミュニケーション方法（アサーティブコミュニケーションやコーチング技術）や対処能力を高める方法（アンガーマネジメント）、リフレクション（プロセスレコード）について学ぶ。また、統合失調症の事例を用いて、精神障がいのある対象の看護を展開する基礎的知識・技術について学びを深める。

到達目標

1. 精神に障がいのある対象の特徴を学び、必要な看護アセスメントと援助方法を理解できる。
2. 精神に障がいのある対象に対する生活支援の実際と精神保健医療福祉における看護師の役割を理解する。

DPとの関連

- ◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。
5.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	効果的コミュニケーションと治療的関わりについて述べることができる	効果的コミュニケーション技法	講義	和田
2		アサーティブコミュニケーション アンガーマネジメント		
3	精神障害がコミュニケーションに与える影響について述べるこ	精神疾患がコミュニケーションに与える影響 精神疾患を持つ対象へのケアの原則	講義	和田
4	患者-看護師関係における、自己の傾向や課題について述べる ことができる	関係のアセスメント	講義	和田
5		対象の症状や状態に応じた関わり	ロール プレイ	和田
6		プロセスレコード検討会	GW	和田
7	精神疾患を持つ対象に対する看護過程の展開の考え方を理解できる	精神障害のある対象者の看護過程の展開 情報収集の視点	GW	野口
8		精神障害のある対象者の看護過程の展開 情報収集の視点	GW	野口
9		精神障害のある対象者の看護過程の展開 情報分析の視点	GW	野口
10		精神障害のある対象者の看護過程の展開 情報分析の視点	GW	野口
11		精神障害のある対象者の看護過程の展開 情報分析の視点	GW	野口
12		精神障害のある対象者の看護過程の展開 全体関連図（作成）	GW	野口
13		精神障害のある対象者の看護過程の展開 全体関連図（作成）	GW	野口
14		精神障害のある対象者の看護過程の展開 全体関連図（発表）	GW	野口
15		精神障害のある対象者の看護過程の展開 全体関連図（発表）	GW	野口

<p>受講上の注意</p> <p>能動的に授業に参加する。</p>	<p>関連科目</p> <p>心理学 看護者のための心理学 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学実習</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>関連科目の既習内容については復習しておく。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>平常点10% ルーブリック評価 ポートフォリオ</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>精神看護学①精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学②精神看護の展開（医学書院）</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護管理・医療安全	3年後期	1	30	高尾千文（看護師として33年） 近藤和治（看護師として17年）

科目のねらい

- ・看護をしくみとして捉え、人的資源、物的資源、財的資源を有効利用（維持・管理）するために必要な知識について学ぶ内容とした。さらに、社会人・専門職業人として自分自身のキャリアを積み重ねていくうえで必要な知識についても学ぶ。
- ・基礎看護学概論や看護技術で学んだ看護の原理・原則をふまえて、医療事故を組織の問題と捉え、事故防止の考え方や看護業務における事故防止、業務領域をこえて共通する間違いと発生要因、医療安全とコミュニケーション、労働安全衛生上の事故防止、組織的な安全管理体制への取り組み等について学ぶ。

到達目標

1. 看護管理の基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。
2. 医療安全に関する基礎的知識を身につけ、リスク感性を高める能力を養う。

DPとの関連

3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。
- ◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護管理に含まれる要素とマネジメントが必要とされる場について述べることができる。	看護管理とマネジメント ・看護管理の基礎・歴史・マネジメントプロセス	講義	高尾
2	看護職一人ひとりが看護業務を実践するために必要なマネジメントを理解できる	看護ケアのマネジメント ・看護職の責任と役割 ・チーム医療 ・医療安全・看護師基準・手順	講義	高尾
3	看護を提供するシステムについて、看護部門の組織と提供体制について説明できる	看護サービスのマネジメント ・組織化 ・看護サービス提供の仕組み ・人材マネジメント	講義	高尾
4	サービスの評価についてどのような視点があるか述べるができる	看護サービスのマネジメント ・環境・物・情報・リスクマネジメント ・看護サービスの質の評価	講義	高尾
5	看護職として社会で仕事をしていくための、キャリア形成について述べるができる	看護職のキャリア開発 ・看護職とキャリア ・タイムマネジメント ・ストレスマネジメント	講義	高尾
6	組織における人間関係、問題解決、意思決定などのマネジメントの要素を述べるができる	マネジメントに必要な知識と技術	講義	高尾
7	質の高い看護を提供するための看護管理について考えを述べることができる	看護管理の実際 ・主任・師長・看護部長の役割	講義	高尾
8	看護業務と法、職業倫理について述べることができる	医療・看護を取り巻く諸制度 ・看護職と専門性・看護職の職業倫理 ・教育制度・医療制度・看護政策	講義	高尾
9	人間の行動特性を踏まえた医療安全の重要性が理解できる	医療安全とリスクマネジメント 医療事故とは	講義	近藤
10	医療安全管理体制及び伝達について理解できる	組織の安全対策	講義	近藤

11	ヒューマンエラーの特性と安全策について理解できる	個人の安全対策 ・ヒューマンエラーの特性と安全対策	講義	近藤
12	インシデント・アクシデント発生の要因を分析し、防止対策を考えることができる	インシデント・アクシデントレポート 要因分析 防止対策	講義	近藤
13	医療安全に対する意識の向上、行動特性の理解の重要性を理解できる	事件事例から学ぶ ・行動特性	GW	近藤
14	医療事故の起こりやすい状況や観察能力の重要性について理解できる	事件事例から学ぶ ・事故の起こりやすい状況	GW	近藤
15	危険予知トレーニングの必要性について理解できる 医療安全行動、安全管理システム及び事故分析方法について理解できる	事件事例から学ぶ ・危険予知トレーニングの必要性 ・医療安全行動 ・安全管理システム ・自己分析方法	講義 GW	近藤
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。		関連科目 看護管理、看護の統合と実践基礎看護学概論 基礎看護技術 I 基礎看護技術 II 看護管理		
事前および事後学習 関連科目の既習内容については学習しておく。				
成績評価の方法 提出物・課題レポート100%				
教科書・参考書・その他の教材 看護管理【医学書院】 医療安全【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
チーム医療論	2年後期	1	15	池末 枝美（看護師として 年）
科目のねらい 保健医療福祉における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の考え方と実際について学ぶ。また、チーム医療における看護職の役割と責任について考える。				
到達目標 チーム医療における多職種連携・協働のための基礎的知識を養う。				
DPとの関連 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	チーム医療の歴史及び概念、意義について理解できる	チーム医療とは チーム医療の歴史 チーム医療の意義	講義	池末
2	多職種の役割と機能が理解できる	多職種における法制度上の役割・機能	講義	池末
3	多職種の専門職者の活動及び協働の実際を知る	多職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ (各1回で) ・薬剤師 ・栄養士 ・臨床検査技師 ・社会福祉士 ・診療放射線技師 など	講義	池末
4			講義	池末
5			講義	池末
6	チーム医療におけるコミュニケーション	チーム医療におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの方向性 ・フォーマルコミュニケーションとインフォーマルコミュニケーション ・パワートンパワメント	講義	池末
7	チーム医療における看護職の役割・機能を考える	チーム医療における看護職の役割・機能及び限界 ケースカンファレンス	GW	池末
8				池末
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。			関連科目 保健医療論・基礎看護学概論・看護管理・医療安全	
事前および事後学習 関連科目の既習内容については学習しておく。				
成績評価の方法 平常点20% レポート80%				
教科書・参考書・その他の教材 看護管理【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護研究	3年前期	1	20	木村 涼平 (大学教員として10年) 山田 美幸 (大学教員として 年)
科目のねらい 看護研究に関する基礎知識や看護研究における倫理について理解する。 この科目では事例研究を行い、自己の看護実践によってもたらされた患者の反応を客観的・理論的に捉え、患者の反応の持つ意味などについて文献検討を通して深めていくことにつなげる。これら一連の過程を通して研究の意義や方法を理解し、問題解決における基礎的能力と研究的態度を養うとともに、自己の看護観をさらに深められるようにする。				
到達目標 1. 看護における研究の意義、方法及びプロセスについて学び、看護研究における倫理について理解する。				
DPとの関連 ◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護研究の意義や歴史的背景について述べるができる	看護研究とは何か 看護研究意義 看護研究の歴史 看護研究の倫理的配慮	講義	木村
2	研究計画書作成のプロセスと注意点を述べるができる	研究計画作成のプロセスと注意点	講義	木村
3	文献検索の方法が理解できる	文献検索の基礎知識	講義	木村
4	質的研究の概要が理解できる	質的研究 (グランデット・セオリー、事例研究等)	講義	山田
5	量的研究の概要が理解できる	量的研究 (調査研究の方法、まとめ方)	講義	木村
6	研究論文の構成要素について述べるができる	研究論文の構成要素 (論文の組み立て、要約、抄録 等)	講義	木村
7	論文を読んでクリティークできる	クリティカルシンキングとクリティーク	講義	山田
8		クリティカルシンキングとクリティーク	講義	山田
9	文献をもとにケーススタディレポートを作成できる	文献検索	講義	木村
10		ケーススタディ計画書作成	講義	木村
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。 ・ケーススタディレポートは計画的に取り組むこと。			関連科目 基礎看護学概論 各看護学	
事前および事後学習 事前にシラバスの学習内容について教科書を読んで授業を受けること				
成績評価の方法 課題レポート (ケーススタディ計画書) 100%				
教科書・参考書・その他の教材 看護研究【医学書院】 看護学生のためのケーススタディ【メヂカルフレンド社】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
災害看護と国際協力	3年後期	1	15	峯 弥生 (看護師として20年) 橋本 香織 (看護師として24年) 庄田 清人 (理学療法士として11年)
科目のねらい 災害直後からの支援に必要な看護の基礎知識や支援の実際について学ぶ。 また、感染症や災害、貧困、慢性疾患など世界の健康問題の状況や国際協力のしくみについて学ぶ。				
到達目標 1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。 2. 外国での看護活動の実際について理解する。 3. 国際社会での諸外国との協力について考えることができる。				
DPとの関連 3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。 ◎5.心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	災害及び災害看護に関する基礎的知識が理解できる	災害及び災害看護に関する歴史 災害の定義及び種類と疾病構造 災害に関連した制度 災害時の情報伝達の仕組み	講義	峰
2	災害時における看護の役割と活動内容が理解できる	災害各期における活動 避難所における活動	講義	峰
3	災害時に必要な看護技術について述べることができる 災害サイクルの各段階における保健・衛生管理・感染予防について理解できる	I-トリアージ II-応急処置・搬送等 災害各期における活動 災害慢性期、復興期に必要な技術	講義	峰
4	病院における防災対策とリスクマネジメントについて理解できる 被災者・援助者の心理的特徴と援助について理解できる	避難所、救護所等での活動 病院における防災対策とリスクマネジメント 被災者・援助者の心理的特徴 被災者・援助者の心理面への援助 災害看護と倫理	講義	峰
5	外国での看護活動について理解できる	外国での看護活動の実際	講義	庄田
6			講義	庄田
7	国際救援活動の実際について理解できる	国際救援活動の実際 ・医療チームの結成・職種間の連携方法 ・ネットワークの活用	講義	橋本
8			講義	橋本
受講上の注意 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。			関連科目 基礎看護学概論	
事前および事後学習 事前にシラバスの学習内容について教科書を読んで授業を受けること				
成績評価の方法 筆記試験100%				
教科書・参考書・その他の教材 災害看護学・国際看護学【医学書院】 看護学概論【医学書院】				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
看護技術の統合	3年後期	1	30	和田由紀子（看護師として9年6か月）

科目のねらい

既習の知識・技術・態度を統合し、臨床に近い疑似環境で、複数患者への優先順位を考えた援助の提供や、緊急・突発事象の発生時に適切な判断・対応を学び、看護実践能力の向上を図る

到達目標

1. 既習の知識・技術・態度の統合と総合的な判断について学び、対象の状態に応じた看護を実践できる。

DPとの関連

3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。
- ◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	科目の位置づけ、学習目標、進め方について理解できる	科目の位置づけ、学習目標、進め方	個人ワーク	和田
2	対象の状態を踏まえて、看護の必要性を判断できる	患者の状態アセスメント	個人ワーク	和田
3	対象の状態に応じて同意や納得が得られるような説明ができる	患者の発達段階に応じた説明	個人ワーク GW	和田
4		患者の同意や納得が得られる説明		和田
5	2人の患者の状態から援助の緊急性、重要性を考慮し、援助の優先度が判断できる	2人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案（援助の優先度、順序性、時間管理等）	個人ワーク GW	和田
6				和田
7				和田
8	患者に必要な看護技術が安全・安楽・自立・個別性をふまえて実施できる	患者に必要な看護技術の実践	演習	和田
9				和田
10	2人の患者の優先度を考慮し、突発的な事象に対応できる	2人の患者の優先度を考慮した突発的な事象への対応	シミュレーション	和田
11				和田
12				和田
13	看護実践を振り返り、自己の課題について述べることができる	実践演習の振り返り	デブリーフィング	和田
14				和田
15	自己の学び・課題をふまえて自己の目指す看護師像について述べることができる	まとめ：私の目指す看護職	レポート	和田

受講上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・能動的学習形態である ・積極的な姿勢で学習に取り組む 	関連科目 基礎看護学概論 看護管理 医療安全
事前および事後学習 既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実習する。	
成績評価の方法 平常点10% 提出物・レポート90%	
教科書・参考書・その他の教材 看護学概論【医学書院】 看護管理【医学書院】 医療安全【医学書院】	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
基礎看護学実習 I	1年後期	1	45	池末枝美（看護師として7年）

重点目標

基礎看護学実習 I-①：対象者の療養環境を知り、看護としての環境を整える意味を考えることができる。
 基礎看護学実習 I-②：対象者の状態に応じた日常生活援助を考え実施する。

学習活動

- 2) 医療の現場を見学し、対象に必要な療養環境を観察している。
 3) 看護師が行う看護ケアに同行し看護の実際を見学してその意味を考える。
 4) 見学実習で学んだことをカンファレンスやまとめて共有し学びを深める。
- 基礎看護学実習 I-②：1) 自己のビジョンを明確にし、自らの意思で実習準備している。
 2) 対象者の健康障害が日常生活に及ぼす影響が述べられる。
 3) ヘルスアセスメントをとおして、対象者の状態をとらえられる。
 4) 日常生活の援助を一部実施し、行った援助を振り返ることができる。
 5) 看護実践をとおして、自己の看護に対する考えを明らかにする。

DPとの関連

◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる

回	目標	学習内容	方法	担当
1	実習1日目 (基礎看護学実習 I-1)	①病院・病棟の構造・機能を知る ②看護・医療におけるコミュニケーション ③看護場面の見学	臨地実習	池末
2	実習2日目 (基礎看護学実習 I-1) 実施した援助を振り返ることができる	学内で学びの共有	(学内)	池末
3	実習1日目 (基礎看護学実習 I-2)	①コミュニケーション手段と実践 ②対象者に応じた日常生活援助の実施	臨地実習	池末
4	実習2日目 (基礎看護学実習 I-2)	(環境整備、バイタルサイン測定、対象者に応じた日常生活の援助)	臨地実習	池末
5	実習3日目 (基礎看護学実習 I-2)		臨地実習	池末
6	実習4日目 (基礎看護学実習 I-2)		臨地実習	池末
7	実習5日目 (基礎看護学実習 I-2) 実施した援助を振り返ることができる	学内で学びの共有	(学内)	池末

受講上の注意

- ・能動的学習形態である
- ・積極的な姿勢で学習に取り組む

関連科目

心理学、倫理学、看護者のための心理学、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、基礎看護学概論、看護基本技術Ⅰ、看護基本技術Ⅱ、看護基本技術Ⅲ、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ

事前および事後学習

既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実習する

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院
 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院
 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解
 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
基礎看護学実習Ⅱ	2年前期	2	90	池末枝美（看護師として7年）
重点目標				
対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価の一連の看護過程のプロセスを実施する。				
学習活動				
1. 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる 2. 看護問題を抽出できる（看護診断ができる） 3. 対象者に必要な看護を考え計画を立案する 4. 実施した援助を通して、対象者の反応を振り返り、看護計画を評価・修正できる 5.				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	実習1日目	(1) 病院・病棟オリエンテーション (2) 受け持ち対象者と関係が築けるようにする (3) 対象の理解ができる ①情報収集を系統的に行う ②情報の整理・解釈を行う ③情報の分析を行う (4) 受け持ち対象者に実施されている、治療や看護援助の見学	臨地実習	池末
2	実習2日目	(1) 受け持ち対象者と関係が築けるようにする (2) 対象の理解ができる ①情報収集を系統的に行う ②情報の整理・解釈を行う ③情報の分析を行う	臨地実習	池末
3	実習3日目	(3) 受け持ち対象者に実施されている、治療や看護援助の見学	臨地実習	池末
4	実習4日目	対象者の理解と看護診断の発表	臨地実習	池末
5	実習5日目	看護計画発表	臨地実習	池末
6	実習6日目	(1) 看護計画に基づいた日常生活の援助を行う (2) 実践した援助を評価し、看護計画の修正を行う	臨地実習	池末
7	実習7日目		臨地実習	池末
8	実習8日目	(1) 修正した看護計画に基づき看護援助を実施し、評価する	臨地実習	池末
9	実習9日目		臨地実習	池末
10	実習10日目	実習のまとめ	臨地実習	池末
11	実習11日目	実習の振り返り	(学内)	池末
12	実習12日目		(学内)	池末

受講上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・能動的学習形態である ・積極的な姿勢で学習に取り組む 	関連科目 <p>基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、フィジカルアセスメント 看護過程、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ</p>
事前および事後学習 <p>実習要項を熟読しておくこと 受け持ち対象者に実施できるレベルまで、看護技術を練習しておく 看護過程について復習しておく</p>	
成績評価の方法 <p>実習内容に基づく評価表を用いて評価する</p>	
教科書・参考書・その他の教材 <p>系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院 医学書院根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 人体の機能と構造①解剖生理学 医学書院解 系統看護学講座 人体の機能と構造④病態生理学 医学書院</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護論実習 I (介護老人保健施設)	2年次 後期	1	30	穴井 陽子 (看護師として1)

重点目標

地域・在宅での生活を考えたセルフケア獲得に向けた支援を実践する。

学習活動

1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備ができる。
 2. 地域・在宅療養へと移行するための中間施設としての介護老人保健施設の役割について理解を深める。
 3. 利用者の生活を整える意義を考えられている。
- 地域・在宅復帰に向け、社会資源の活用や多職種連携を行う必要性について理解を深める。
 護実践を通して自己の看護に対する考えを明らかにできる。
 学生として望ましい態度で実習に望むことができる。

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。
- ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。
5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法
	介護老人保健施設 実習 4日間	実習要項に準ずる <ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーション ・利用者とのコミュニケーションから生活状況を知る ・利用者への日常生活援助、医療処置見学、活動への参加 ・リハビリテーションへの参加 	臨地実習

受講上の注意

看護専門職としての倫理観に基づいて、積極的な姿勢で実習を行う

関連科目

心理学
 老年看護学
 精神看護学
 地域・在宅看護学概論Ⅰ、Ⅱ
 地域・在宅看護学方法論Ⅰ、Ⅱ

事前および事後学習

- ・実習要項を基に地域・在宅看護に必要な事前学習をしておく。
- ・学内実習にて学びの共有を図ることで事後学習とする。

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

教科書

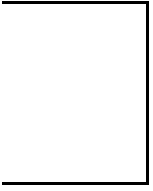
- ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤
- ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践

0年)

- 4.
- 5. 看
- 6. 看護

担当

穴井



科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護論実習Ⅱ (訪問看護ステーション・地域包括支援センター)	3年次 前期	2	90	穴井 陽子 (看護師として1)

重点目標

(訪問看護ステーション)
地域・在宅で生活する療養者とその家族またはその他の支援者がその人らしい生活を継続するための看護援助する。
(地域包括支援センター)
包括支援センターにおける地域包括支援を学ぶ。

学習活動

(訪問看護ステーション)
自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習の準備ができる。
2. 利用者や家族またはその他の支援者のニーズを捉えることができる。
3. 利用者や家族またはその他の支援者に適した看護援助を実施できる。
地域・在宅で暮らす利用者を支えている多職種連携について学ぶ。
看護実践を通して自己の看護に対する考えを明らかにできる。
6. 看護学生として望ましい態度で実習に望むことができる。

(地域包括支援センター)
1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習の準備ができる。
地域包括支援センターにおける包括的支援に参加できる。
地域包括ケアシステムにおける中核的な機関である地域包括支援センターの役割について理解を深める。
地域・在宅で生活する人々への支援に関わる関連機関との連携について理解できる。
での学びを通して地域・在宅支援についての自己の考えを明らかにできる。
生として望ましい態度で実習に望むことができる。

DPとの関連

- 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
 - 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
 - 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。
- ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法
	地域包括支援センター 臨地実習 2日間 学内実習 1.5日間	・地域包括支援センターでの見学実習	臨地実習
		・地域だよりの作成 (地域包括支援センターの役割)	学内実習
	訪問看護ステーション 臨地実習 5日間 学内実習 3日間	・同行訪問、利用者への看護実践	臨地実習
		・訪問看護ステーション実習で関わった利用者を通して、グループで援助計画を立案し、実践する。 ・訪問看護ステーション実習で関わった利用者を通して社会資源関連図を完成させる。 ・8日間の学びの共有	学内実習

受講上の注意

看護専門職としての倫理観に基づいて、積極的な姿勢で

関連科目

心理学、老年看護学
精神看護学

実習を行う

地域・在宅看護学概論Ⅰ、Ⅱ
地域・在宅看護方法論Ⅰ、Ⅱ

事前および事後学習

- ・実習要項を基に地域・在宅看護に必要な事前学習をしておく。
- ・学内実習にて学びの共有を図ることで事後学習とする。

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する。

教科書・参考書・その他の教材

教科書

- ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤
 - ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践
-

0年)

助を实践す
(地
地域

1.

4.

5. 看

2.

3. 地

4. 地

5. 実習

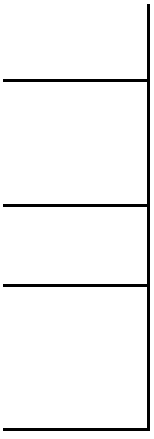
6. 看護学

担当

穴井

穴井

穴井



科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学実習 I (健康管理)	2年後期	1	30	長小夜香 (看護師として10年)
重点目標				
健康増進のアプローチ				
学習活動				
<健康管理センター> 1. 実習の主題と照らし合わせて、実習のビジョンを明らかにし、自己の学習計画を立て事前学習をして臨む 2. 健康管理センターに訪れる成人期の特徴と生活習慣と疾病発生要因を理解する 3. 1名の受診者とともに検査過程につき、問診・検査説明・健康教育の場に参加する 4. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象者となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践できる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	健康管理センター 第1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーション ・健康管理センターにおけるスケジュールに基づいた見学 ・健康教育の見学 	臨地実習	長
2	健康管理センター 第2日目	カンファレンスの内容 ◆健康管理センターで行われる健康診査の実際、看護の役割 ◆健康教育時の様子を観察して、心理社会的影響を考える ◆成人期の特徴 (身体的・社会的・精神的側面) について ◆最終カンファレンス	臨地実習	長
3	健康管理センター 第3日目		臨地実習	長
5	健康管理センター 第4日目	学内実習 ・学びの共有 ・健康の保持・増進、疾病予防の意義や看護の役割や責務について学んだこと	学内実習	長
受講上の注意			関連科目	
<ul style="list-style-type: none"> ・学内での授業、演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨む ・積極的な態度で実習に臨む 			成人臨床看護論 成人看護方法論	
事前および事後学習				
既習の学習内容を復習する。特看護技術に関しては、臨床において実施可能なレベルまで事前学習しておく。				
成績評価の方法				
実習内容に基づく評価表を用いて評価する。				
教科書・参考書・その他の教材				
専門分野Ⅰ 臨床看護総論 (医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学実習Ⅱ (急性期)	3年前期	2	90	長小夜香 (看護師として10年)
重点目標				
急性期にある対象の経過に応じた援助を指導看護師とともに実施できる。				
学習活動				
1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備ができる。 2. 生命及び健康の危機的状況にある対象と家族の特徴を知る。 3. 受け持ち患者の経過に応じた看護援助を看護師とともに実施する。 4. 急性期医療における多職種連携を学び看護師の役割を理解できる。 5. 看護実践を通して急性期にある対象への看護の意義、役割について述べるができる。 6. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる。				
DPとの関連				
◎3. 看護の対象者となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践できる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	第1日目	<ul style="list-style-type: none"> 施設オリエンテーション (病院、病棟) 受け持ち対象者への挨拶、情報収集 対象者の治療・看護援助の見学 	臨地実習	長
2	第2日目	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち対象者の情報収集 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施 	臨地実習	長
3	第3日目	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち対象者のアセスメント (病態関連図) 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施 	臨地実習 (午後控室実習)	長
4	第4日目	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち対象者のアセスメント (受け持ち対象者紹介) 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施 	臨地実習	長
5	第5日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施。 中間カンファレンス：実習到達の確認 	臨地実習	長
6	第6日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施 	臨地実習	長
7	第7日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施。 	臨地実習	長
8	第8日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施。 	臨地実習	長
9	第9日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施。 	臨地実習	長
10	第10日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施 	臨地実習	長
11	第11日目	<ul style="list-style-type: none"> 治療・病棟スケジュール、看護計画 (標準看護計画、病棟の看護計画) に沿って看護援助の見学、または看護師と共に看護援助の実施。 	臨地実習	長
12	第12日目	学びの共有	学内実習	長

<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内での授業、演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨む ・積極的な態度で実習に臨む 	<p>関連科目</p> <p>成人臨床看護論 成人看護方法論</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>既習の学習内容を復習する。特看護技術に関しては、臨床において実施可能なレベルまで事前学習しておく。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>実習内容に基づく評価表を用いて評価する。</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床外科看護総論（医学書院） ・よくわかる周手術期看護（Gakken）、講義資料 ・系統看護学講座 成人看護学②③⑤⑦⑨⑩（医学書院） 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学実習Ⅲ (慢性期)	3年前期	2	90	長小夜香(看護師として10年)

重点目標

慢性的な病気・障害とともによりよく生きていくことを支える看護を学ぶ

学習活動

1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備ができる
2. 萬世的な病気とともに生きる対象者(その家族を含む)の特徴を知る
3. 対象者の健康行動を支えるために必要な支援を考える
4. セルフマネジメントを支える看護が実践できる
5. さまざまな指導場面に参加する(集団指導、個別指導、栄養士による栄養指導、薬剤師による薬剤指導)
6. 体験を振り返り、セルフマネジメント支援を必要とする人にとっての看護の意義を明らかにする
7. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる。

DPとの関連

◎3. 看護の対象者となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践できる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1日目(火)	病院・病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集、看護援助見学、一部実施	臨地実習	長
2	2日目(水)	看護援助の見学・一部実施、情報収集	臨地実習	長
3	3日目(木)	看護援助の見学・一部実施、情報収集・整理・分析・対象者に必要と考える看護とその理由・全体関連図	臨地実習	長
4	4日目(金)	◆受け持ち対象者の紹介と対象者に必要と考える看護とその理由・全体像の発表	臨地実習	長
6	5日目(火)	◆対象者の看護計画の発表	臨地実習	長
7	6日目(水)	◆中間カンファレンス 実習到達の確認	臨地実習	長
8	7日目(木)	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施	臨地実習	長
9	8日目(金)	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施	臨地実習	長
10	9日目(火)	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施 ◆看護実践評価の発表	臨地実習	長
11	10日目(水)	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施 ◆最終カンファレンス	臨地実習	長
11	11日目(木) 学内実習	学びの共有 GW	学内実習	長
12	12日目(金) 学内実習	学びの共有 GW	学内実習	長

受講上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・ 能動的学習形態である ・ 積極的な姿勢で実習に取り組む 	関連科目 成人看護学概論
事前および事後学習 既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実施する	
成績評価の方法 実習内容に基づく評価票を用いて評価する	
教科書・参考書・その他の教材 <ul style="list-style-type: none"> ・ 系統看護学講座 成人看護学②③⑤⑦⑨⑩ (医学書院) 	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学実習Ⅰ (特別養護老人ホーム実習)	2年後期	1	30	中村 宏子 (看護師として29年)
重点目標 施設で生活する要介護高齢者の健康を守る看護を学ぶ。				
学習活動 1. 地域で生活 (療養生活) する高齢者の特徴について述べる。 2. 看護職及び看護職以外の多職種職員と行動を共にし、入所者のケアや健康を守るための諸活動に参加する。 3. 多職種チームの一員として日々の日常生活援助や諸活動の体験を通し観察したことや気づきを情報共有する。 4. 実習体験及びカンファレンスを通し施設で暮らす高齢者とその家族の望む生活を目指した介護老人福祉施設における看護師の役割について学んだことを共有する。				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
学習内容				方法
1. 実習場所：特別養護老人ホーム 2. 実習期間：4日間 3. 実習時間：原則として8：30～15：30 4. 実習展開：詳細は実習要項を参照 5. 実習内容 施設で暮らす高齢者を理解し、老年看護学で学んだ理論や方法をもとに持てる力と意思決定を尊重しながら生活を支え、その人らしい人生の統合に向けて支援している多様な高齢者ケアの場における看護を学ぶ。また、入所者の健康を支える様々な活動を通じ、多職種間の情報共有や連携の実際に参加し施設における看護師の役割について学ぶ。				臨地実習
受講上の注意 実習時間は体験することを重視し、実習記録は主に実習時間外で行う。ビジョンゴールシートに基づき、必要な学習や技術演習は実習事前に計画し実施する			関連科目 看護基本技術、生活援助技術、口腔健康科学論、口腔健康援助論 老年看護学(概論、方法論Ⅰ・Ⅱ) 在宅看護論 老年看護学実習Ⅱ	
事前および事後学習 1. 事前学習：老年看護、生活援助技術Ⅲ、口腔健康科学論・口腔健康援助論で既習した内容を予習しておく 2. 事後学習：老年看護学実習まとめにつながる科目であることを念頭に取り組む				
成績評価の方法 実習指導要綱参照				
教科書・参考書・その他の教材 1. 成人看護学 (歯・口腔) 2. 基礎看護学技術Ⅱ 3. 老年看護学・老年看護病態・疾患論、生活機能から見た老年看護過程				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学実習Ⅱ (認知症グループホーム実習)	3年前期	1	30	中村 宏子 (看護師として29年)
重点目標 認知症のある高齢者に対して意図的なアクティビティケアを企画・提供し、認知症のある高齢者の看護を学ぶ。				
学習活動 1. 地域で生活 (療養生活) する認知症のある高齢者の特徴について述べる。 2. 入所者の日常生活援助や日課に応じた諸活動を職員と共にやり、認知症のある高齢者一人ひとりとコミュニケーションを通して意思疎通を図るための工夫や認知レベルに応じた関わりを行う。 3. 認知症グループホームにおける認知症のある高齢者のアクティビティを促す支援 (レクリエーション) を企画し、実践する。 4. 実習体験およびカンファレンスを通し、認知症グループホームで暮らす認知症のある高齢者とその家族のQOLを高める看護について学ぶことを共有する。				
DPとの関連 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
授業計画				
学習内容				方法
1. 実習場所：認知症グループホーム 2. 実習期間：4日間 3. 実習時間：原則として8：30～15：30 4. 実習展開：詳細は実習要項を参照 5. 実習内容 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) で暮らす認知症高齢者の認知症について多角的に学びを深める。また、入所している方々との様々な生活場面におけるコミュニケーションや関りを通して地域で暮らす認知症高齢者の看護のあり方を考える。グループホーム実習では、認知症高齢者の生活を活性化するアクティビティケアとしてレクリエーションの企画・実施を指導のもと学生主体で行う。				臨地実習
受講上の注意 実習時間は体験することを重視し、実習記録は主に実習時間外で行う。ビジョンゴールシートに基づき、必要な学習や技術演習は実習事前に計画し実施する			関連科目 看護基本技術、生活援助技術、口腔健康科学論、口腔健康援助論 老年看護学 (概論、方法論Ⅰ・Ⅱ) 在宅看護論 老年看護学実習Ⅰ	
事前および事後学習 1. 事前学習：老年看護、生活援助技術Ⅲ、各病態論、各成人看護学で既習した内容を予習しておく 2. 事後学習：老年看護学実習まとめにつながる科目であることを念頭に取る				
成績評価の方法 実習指導要綱参照				
教科書・参考書・その他の教材 1. 成人看護学 2. 基礎看護学技術Ⅱ				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学実習Ⅲ (病院実習)	3年前期	2	90	中村 宏子 (看護師として29年)
重点目標				
老いを生きる高齢者 (とその家族) が、生活者として生活を再構築し、病 (健康障害や慢性疾患など) とともにその人らしく生きていくことを支える看護を実践する。				
学習活動				
<ol style="list-style-type: none"> 種々の要因による健康障害によってその人らしく生きること、生活することの営みが困難となった対象者 (家族を含む) の特徴について述べる。 健康状況を把握し、二次的合併症を予防する看護が実践できる。 生活史・価値観・生活背景を基盤に、対象者 (家族を含む) のQOL維持・向上に向けて自立・自律して生きていくことおよび健康状況に合わせた生活再構築を支援する看護を実践する。 生活を再構築するための多職種連携および社会資源の活用について述べる。 				
DPとの関連				
<ol style="list-style-type: none"> 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。 				
授業計画				
学習内容				方法
<ol style="list-style-type: none"> 実習場所：やよいがおか鹿毛病院、啓心会病院、嶋田病院、福田病院 いずれかの病院で実習をする 実習期間：12日間 (老年看護学実習のまとめ：学内実習1日間を含む) 実習時間：原則として8：30～15：30 実習展開：詳細は実習要項を参照 実習内容 加齢および機能障害が高齢者の生活機能に及ぼす影響を理解し、日常生活援助やリハビリテーションによって、その人が望む (あるいは望むであろう) 生活の実現に向けた看護が実践できる能力 (知識・技術・態度) を養う。また、これらの援助を通して高齢者を総合的に捉える視点、高齢者のもてる力を活かした援助方法や継続性のある看護について学ぶ。学内実習では老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから「その人らしく生きるを支える看護」について考え、プレゼンテーションする 				臨地実習 学内実習
受講上の注意		関連科目		
実習時間は体験することを重視し、実習記録は主に実習時間外で行う。ビジョンゴールシートに基づき必要な学習を主体的に行う。学習した日常生活援助はグループで演習計画を立て、演習を行い実習に臨む		看護基本技術、生活援助技術、臨床看護論、臨床看護技術、臨床判断演習、成人看護学、口腔健康科学論、口腔健康援助論 老年看護学 (概論、方法論Ⅰ・Ⅱ) 在宅看護論 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅実習、成人看護学実習		
事前および事後学習				
<ol style="list-style-type: none"> 事前学習：老年看護、生活援助技術Ⅲ、各病態論、各成人看護学で既習した内容を予習しておく 事後学習：老年看護学実習まとめにつながる科目であることを念頭に取り組む 				
成績評価の方法				
実習指導要綱参照				
教科書・参考書・その他の教材				
<ol style="list-style-type: none"> 成人看護学 基礎看護学技術Ⅱ 老年看護学・老年看護病態・疾患論、生活機能から見た老年看護過程 				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学実習Ⅰ	2年後期	1	30	東尾 詩子 (助産師として20年)
重点目標				
子どもの発達段階に応じた関わりができる				
学習活動				
1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備ができる 2. 担当クラスの子どもの成長・発達の観察を行う 3. 日常生活への援助を安全に留意しながら観察および援助ができる 4. カンファレンスを通して、体験したことから成長・発達の理解を深める 5. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解する。				
授業計画				
学習内容			方法	担当
詳細は小児看護学実習要綱を参照 1. 実習期間：2年生後期 2. 実習時間：臨地実習 9：00～16：00 3. 実習内容 1) 保育園実習（2年生後期）（火～金曜日）4日間 ※金曜日は6時間 ①1つの保育園に5名で実習を行う ②クラスに入り、年齢に応じた子どもの成長・発達について 観察し、保育士の指示のもと支援の実際を行う			臨地実習	東尾
受講上の注意			関連科目	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目線に合わせてコミュニケーションを行うこと ・子どもを尊重した態度で接すること ・積極的に実習に臨むこと ・安全には十分配慮すること 			基礎看護技術 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅱ	
事前および事後学習				
実習要綱を熟読し、必要と考える事前学習を行う。 援助時は必ず振り返りを行い次の援助に活かすこと。				
成績評価の方法				
ルーブリックで評価 保育園30% 保健センター10% 小児科病棟60%				
教科書・参考書・その他の教材				
教科書				
1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護学各論 小児看護学② 医学書院				
参考書				
1. 根拠と事故防止からみた 小児看護技術 第2版 2. ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学実習Ⅱ	3年前期	2	60	東尾 詩子 (助産師として20年)
重点目標				
保健センター：子どもをとりまく地域社会を学ぶ 小児病棟：子どもと家族を理解し、成長発達段階・健康レベルに応じた看護を実践できる				
学習活動				
保健センター：子どもの成長・発達への支援や健康維持・増進に向けた支援の方法が理解できる 小児病棟 1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備ができる 2. 健康障害や入院が子どもおよび家族に及ぼす影響が理解できる 3. 子どもとその家族がかかえる健康問題を理解し、健康の回復を図るために必要な援助を考えることができる 4. 子どもの発達段階を考慮した日常生活の援助を考えることができる 5. 保健医療福祉チームにおける連携の必要性をふまえて、看護の役割が理解できる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
学習内容		方法	担当	
<p>詳細は小児看護学実習要綱を参照</p> <p>1. 実習期間：3年前期 2. 実習時間：臨地実習 8：30～15：30 3. 実習内容</p> <p>1) 保健センター（3年前期） 2日間（16時間） ①1つの施設に2～5名で実習を行う ②地域の育児支援について学ぶ</p> <p>2) 小児病棟実習（44時間 ※学内実習4時間含む） ①原則として受け持ちの子ども1名を担当する ②受け持ちの子どもの発達段階・健康障害を理解し、看護を実践する 月曜日：オリエンテーション、受け持ち患児決定 火曜日～金曜日：受け持ち患児の看護実践 木曜日：関連図発表 金曜日：受け持ち看児の看護の実践と実習の振り返り</p>		臨地実習	東尾	
受講上の注意			関連科目	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目線に合わせてコミュニケーションを行うこと ・子どもを尊重した態度で接すること ・積極的に実習に臨むこと ・安全には十分配慮すること ・感染に対する抵抗力が弱い子どもを対象とするため、自己の健康管理に留意すること 			基礎看護技術 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学方法論Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ	
事前および事後学習				
実習要綱を熟読し、必要と考える事前学習を行う。 援助時は必ず振り返りを行い次の援助に活かすこと。				
成績評価の方法				
ルーブリックで評価 保育園30% 保健センター10% 小児科病棟60%				
教科書・参考書・その他の教材				
教科書				
1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護学各論 小児看護学② 医学書院				
参考書				
1. ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 2. ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児の発達と看護 メディカ出版 3. ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の発達と看護 メディカ出版 4. 根拠と事故防止からみた 小児看護技術 第2版				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学実習	3年前期	2	90	松本 千穂(助産師として16年半)
重点目標				
妊娠・分娩・産褥期および新生児期の生理的な経過の特徴と、女性とその家族のライフスタイルにおける健康を保持増進するための看護を理解する				
到達目標				
1. 自己のビジョンを明らかにし、自分の意思で実習準備ができる 2. 対象者の観察や看護職とともに健康を保持増進するための諸活動（健康診査・保健指導等）に参加する 3. 実習体験やカンファレンスを通して、対象者の健康状態に応じた支援や多職種連携について学んだことを共有する 4. 実習を通して、母性・父性・家族・生命の尊厳について考える 5. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる				
DPとの関連				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
授業計画				
回	目標	学習内容	方法	担当
10 日間	臨地実習要項参照	1. 妊娠期 妊婦健康診査 保健指導見学 2. 分娩期 分娩見学 一部援助 3. 産褥期 産褥期の観察・援助 4. 新生児期 新生児の観察、沐浴の見学、実施 5. 看護過程のアセスメントの実施	臨地実習	
演習：新生児のバイタルサイン測定、新生児計測、沐浴、黄疸測定、育児技術、授乳方法、哺乳				
受講上の注意		関連科目		
学生として真摯な態度で臨む 担当になってもらえる妊婦産婦褥婦さんや家族に対して感謝の気持ちで接する		看護基本技術Ⅲ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ		
事前および事後学習				
関連科目の既習学習は復習しておく				
成績評価の方法				
実習評価表に基づき評価する				
教科書・参考書・その他の教材				
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
精神看護学実習	3年次 前期	2	90	野口 新介（看護師として5年）

重点目標

精神に障害を持つ対象の日常生活の自立及び社会生活への適応に向けた看護実践ができる。

学習活動

1. 精神科実習の目的、ルーブリックに添った自己のビジョンを明確にし、必要な学習を行う。
2. 精神に障害を持つ対象の身体・精神・社会的特性を理解している。
3. 精神に障害を持つ対象のセルフケアに向けた日常生活の援助ができる。
4. 社会復帰の為に必要な支援を考え説明できる。
5. 患者 - 看護師関係における相互作用を理解し、患者に適した接近技術の重要性が理解している。
6. 看護実践を通して自己の看護に対する考えを明らかにできる。
7. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる。

DPとの関連

- ◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。
- 4.保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	実習1日目	病院、病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集	臨地実習	野口
2	実習2日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
3	実習3日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
4	実習4日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
5	実習5日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
6	実習6日目	受け持ち患者を通して看護実践 ※2週目に施設見学	臨地実習	野口
7	実習7日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
8	実習8日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
9	実習9日目	受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	野口
10	実習10日目	受け持ち患者を通して看護実践 実習の振り返り、まとめ	臨地実習	野口
11	学内実習	学びの共有	GW	野口
12		学びの共有	GW	野口

<p>受講上の注意</p> <p>1. 看護専門職としての倫理観に基づいて実習を行う。</p>	<p>関連科目</p> <p>心理学 看護のための心理学 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ</p>
<p>事前および事後学習</p> <p>実習要項を基に精神看護に必要な事前学習</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>実習内容に基づく評価表を用いて評価する</p>	
<p>教科書・参考書・その他の教材</p> <p>精神看護学①精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学②精神看護の展開（医学書院）</p>	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
統合実習 (多重課題・連携協働・看護管理)	3年後期	2	90	和田 由紀子他 (看護師として9年6か月)

重点目標

多職種と連携・協働し、複数の対象者の様々な状況に応じた看護を実践する。

学習活動

1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備する。
2. 実習の様々な体験から、医療チームにおける看護師の役割と機能について述べる。
3. 医療チームにおける看護部、看護師長、看護師、多職種との連携・協働について述べる。
4. 看護師や他職種との調整・情報共有し、医療チームの一員として複数の対象者のケアに参加する。
5. 多重課題の中で複数の対象の看護の優先順位を考え実践する。

DPとの関連

4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。

◎5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1日目	病院、病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集	臨地実習	和田
2	2日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
3	3日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
4	4日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
5	5日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践 ※2週目にリーダー実習・看護管理について計画する (2～3人ずつ)	臨地実習	和田
6	6日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
7	7日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
8	8日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
9	9日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
10	10日目	2人の受け持ち患者を通して看護実践	臨地実習	和田
11	11日目 学内実習	学びの共有 GW	学内実習	和田

- ・能動的学習形態である
- ・積極的な姿勢で学習に取り組む

基礎看護学概論
看護管理
医療安全

事前および事後学習

既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実習する。

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

看護学概論【医学書院】

看護管理【医学書院】

医療安全【医学書院】